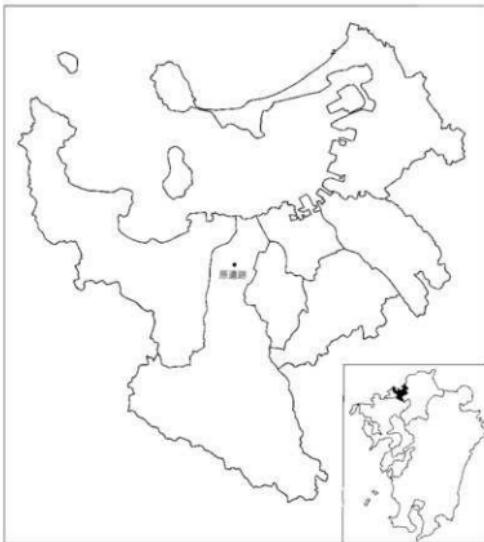


# 原遺跡16

—第28次・30次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1199集



遺跡略号 HAA-28-30  
調査番号 1126・1134

2013

福岡市教育委員会







# 序

古くからさまざまな地域との文化交流を通じて発展を遂げてきた福岡市には、数多くの歴史的遺産があります。それらを保護し、後世へと伝えていくことはわれわれの義務であります。

しかし、近年の都市開発によって貴重な文化財が失われていることも事実です。本市では開発によりやむを得ず破壊されていく遺跡の記録保存を行い、広く公開するよう努めています。

本書は、都市計画道路長尾橋本線建設に伴い平成23年度に調査を実施した原遺跡第28次および30次調査の成果を報告するものです。28次調査では弥生時代および中近世の集落遺構を確認しました。特に古代末から中世にかけては多くの貿易陶磁や土師器が出土し、11世紀後半から12世紀にかけての拠点集落が存在した可能性が出てきました。

また、30次調査においては弥生時代および中世から近世の遺物・遺構が確認され、当時は微高地の端に位置する集落の一部であったことがわかりました。

今後、本書が文化財保護への理解を深める一助となるとともに、学術研究の資料としても活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の作成に至るまで、多大なご理解とご協力を賜りました関係者の方々に、心から謝意を表します。

平成25年3月22日

福岡市教育委員会  
教育長 酒井龍彦

## 例　言

1. 本書は福岡市教育委員会が都市計画道路長尾橋本線建設に伴い、福岡市早良区原6丁目および7丁目地内において平成23年度に発掘調査を実施した原遺跡第28次・30次調査の報告書である。
2. 発掘調査および整理・報告書作成は、令達事業として実施した。
3. 報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
4. 本書に掲載した遺構および遺物実測図の作成、写真撮影、挿図の製図は屋山洋・福菌美由紀・濱石正子が行った。
5. 本書で用いた方位は、すべて磁北を示す。
6. 本書に掲載した国土座標値は、世界測地系によるものである。
7. 遺構の呼称は、井戸をSE、掘立柱建物をSB、土坑をSK、溝をSD、ピットをSPと略号化した。
8. 遺物の番号はそれぞれの調査次数での通し番号とし、挿図と図版の遺物番号は一致する。
9. 本書で記述する陶磁器の分類については、次の文献を参考とした。  
『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』 太宰府市教育委員会 2000年
10. 本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
11. 本書の執筆は屋山・福菌が、編集は福菌が行った。

| 遺跡名   | 原遺跡                              | 調査次数    | 28次                  | 調査略号   | HAA-28             |
|-------|----------------------------------|---------|----------------------|--------|--------------------|
| 調査番号  | 1126                             | 分布地図図幅名 | 原82                  | 遺跡登録番号 | 020311             |
| 申請地面積 | 4,455 m <sup>2</sup>             | 調査対象面積  | 1,150 m <sup>2</sup> | 調査面積   | 628 m <sup>2</sup> |
| 調査地   | 福岡市早良区原6丁目 868-1、869-1、870-1     |         |                      | 事前審査番号 | 21-2-225           |
| 調査期間  | 平成23(2011)年9月20日～平成24(2012)年3月7日 |         |                      |        |                    |

| 遺跡名   | 原遺跡                               | 調査次数    | 30次                | 調査略号   | HAA-30             |
|-------|-----------------------------------|---------|--------------------|--------|--------------------|
| 調査番号  | 1134                              | 分布地図図幅名 | 原82                | 遺跡登録番号 | 020311             |
| 申請地面積 | 4,455 m <sup>2</sup>              | 調査対象面積  | 600 m <sup>2</sup> | 調査面積   | 543 m <sup>2</sup> |
| 調査地   | 福岡市早良区原7丁目 1190番・1187番<br>の一部     |         |                    | 事前審査番号 | 21-1-225           |
| 調査期間  | 平成23(2011)年11月21日～平成24(2012)年3月7日 |         |                    |        |                    |

## 本文目次

|      |                               |    |
|------|-------------------------------|----|
| I.   | はじめに                          |    |
| 1.   | 調査に至る経緯                       | 1  |
| 2.   | 調査の組織                         | 1  |
| II.  | 遺跡の立地と環境                      | 2  |
| III. | 第28次調査の記録                     |    |
| 1.   | 概要                            | 4  |
| 2.   | I区の調査                         | 4  |
| 3.   | II区の調査                        | 14 |
| 4.   | 出土動物遺存体                       | 41 |
| 5.   | 小結                            | 41 |
| 6.   | 原遺跡第28次調査出土井戸枠材の樹種同定（パレオ・ラボ）  | 46 |
| 7.   | 原遺跡第28次調査から出土した大型植物遺体（パレオ・ラボ） | 48 |
| 8.   | 原遺跡第28次調査出土葉の同定（パレオ・ラボ）       | 55 |
| IV.  | 第30次調査の記録                     |    |
| 1.   | 概要                            | 64 |
| 2.   | 遺構と遺物                         | 65 |
| 1)   | 溝（SD）                         |    |
| 2)   | 掘立柱建物（SB）                     |    |
| 3)   | 自然流路（SR）                      |    |
| 4)   | その他の出土遺物                      |    |
| 3.   | 結語                            | 67 |

## 挿図目次

|   |      |
|---|------|
| 第1図 原遺跡と周辺遺跡 (1/50,000) .....                 | 2    |
| 第2図 原遺跡調査区位置図 (1/6,000) .....                 | 3    |
| 第3図 I・II区関係図 (1/400) .....                    | 5    |
| 第4図 I区遺構配置図 (1/100) .....                     | 6    |
| 第5図 弥生時代遺構実測図1・出土遺物実測図1 (1/40・1/30・1/3) ..... | 8    |
| 第6図 土坑出土遺物実測図2 (1/3) .....                    | 9    |
| 第7図 弥生時代遺構実測図2 (1/50・1/30・1/3) .....          | 10   |
| 第8図 井戸遺構・遺物実測図 (1/40・1/30・1/3) .....          | 11   |
| 第9図 井戸出土遺物実測図 (1/3) .....                     | 12   |
| 第10図 SD086 遺構・遺物実測図 (1/40・1/3) .....          | 13   |
| 第11図 その他遺構実測図 (1/30・1/10) .....               | 14   |
| 第12図 II区遺構配置図 .....                           | 折り込み |
| 第13図 井戸遺構実測図1 (1/40・1/30) .....               | 16   |
| 第14図 井戸遺構実測図2 (1/40・1/30) .....               | 17   |
| 第15次 井戸出土遺物実測図 (1/3) .....                    | 18   |
| 第16図 SE287 遺構実測図・遺物実測図1 (1/40・1/3) .....      | 19   |
| 第17図 SE287 遺物実測図2 (1/3) .....                 | 20   |
| 第18図 SE287 井筒実測図 (1/30)・遺物実測図3 (1/3) .....    | 21   |
| 第19図 SE287 井戸枠木材実測図 (1/6)・遺物実測図4 (1/3) .....  | 22   |
| 第20図 SE287 井戸枠柱実測図1 (1/4) .....               | 23   |
| 第21図 SE287 井戸枠柱実測図2 (1/4) .....               | 24   |
| 第22図 SE287 井戸枠柱実測図3 (1/4) .....               | 25   |
| 第23図 SE287 井戸枠柱実測図4 (1/4) .....               | 26   |
| 第24図 SE287 井戸枠横木実測図 (1/6) .....               | 27   |
| 第25図 SE297・SE320 遺構実測図 (1/40) .....           | 28   |
| 第26図 SE297 遺物実測図1 (1/3・1/4) .....             | 29   |
| 第27図 SE297・SE320 遺物実測図 (1/3) .....            | 30   |

|   |      |
|---|------|
| 第28 図 SD203 遺構実測図 (1/40)・遺物実測図1 (1/3) .....   | 32   |
| 第29 図 SD203 遺物実測図2 (1/3) .....                | 33   |
| 第30 図 SD203 遺物実測図3 (1/3) .....                | 34   |
| 第31 図 SD203 遺物実測図4 (1/3) .....                | 35   |
| 第32 図 SD203 遺物実測図5 (1/3・484 のみ1/4) .....      | 36   |
| 第33 図 溝出土遺物実測図 (1/3) .....                    | 37   |
| 第34 図 SD295 遺構実測図 (1/40)・遺物実測図 (1/3) .....    | 38   |
| 第35 図 土坑実測図 (1/40) .....                      | 39   |
| 第36 図 SK288 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....           | 40   |
| 第37 図 30 次調査区位置図 (1/1,000) .....              | 64   |
| 第38 図 30 次調査遺構配置図 (1/200) .....               | 折り込み |
| 第39 図 SB070 実測図 (1/60) .....                  | 65   |
| 第40 図 SB071 実測図 (1/60) および出土遺物実測図 (1/3) ..... | 66   |
| 第41 図 その他の出土遺物実測図 (1/3,1/1) .....             | 67   |

## 表目次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 表1 原遺跡発掘調査一覧 .....        | 3  |
| 表2 原遺跡第28次出土動物遺存体 .....   | 41 |
| 表3 第28次調査遺構一覧1 .....      | 42 |
| 表4 第28次調査遺構一覧2 .....      | 43 |
| 表5 第28次調査遺構一覧3 .....      | 44 |
| 表6 第28次調査遺構一覧4 .....      | 45 |
| 表7 樹種同定結果 .....           | 46 |
| 表8 原遺跡から出土した大型植物遺体1 ..... | 49 |
| 表9 原遺跡から出土した大型植物遺体2 ..... | 50 |
| 表10 原遺跡から出土した葉遺体 .....    | 55 |
| 表11 葉遺体の同定結果一覧 .....      | 56 |

## 図版目次

- 図版 1 1. I 区全景（東から） 2. SK004（東から） 3. SK008 土層（西から）  
4. SK008（西から） 5. SK033（東から）
- 図版 2 1. SK010 遺物出土状況（南から） 2. SK010 完掘（東から） 3. SK003（東から）  
4. SC080（東から） 5. SE007（北から） 6. SE078 遺物出土状況（西から）  
7. SE078 底面遺物出土状況（東から） 8. SD086（西から）
- 図版 3 1. SD086 土層（西から） 2. SD086 土器集中出土（東から） 3. SD144（北から）  
4. SDI44 土層（西から） 5. II 区東側全景（東から）
- 図版 4 1. II 区西側全景（東から） 2. SE235（南西から） 3. SE235 井筒半裁（北から）  
4. SE236（南から） 5. SE236（左）・SE238（右） 北から
- 図版 5 1. SE248（北西から） 2. SE280（東から） 3. SE317（東から）  
4. SE287・325（東から） 5. SE287 井筒（北から） 6. 井筒（東から）  
7. 横木出土状況 8. 木器出土状況（北から）
- 図版 6 1. SE318（南から） 2. SE297（左）・320（右）西から 3. SD203（西から）  
4. SD304（東から） 5. SK287 遺物出土状況（南から） 6. SK244 土層（北から）  
7. SK261 土層（北東から） 8. SK282（南から）
- 図版 7 1. I 区西側全景（東から） 2. I 区東側全景（西から）
- 図版 8 1. II 区全景（東から） 2. I 区SD およびSB071（西から）  
3. I 区SB070（北から） 4. I 区SD025 土層断面（南から）  
5. II 区SR 周辺（南から）

## I . はじめに

### 1. 調査に至る経緯

平成 22 年 3 月 17 日付けで、福岡市道路下水道局道路整備部西部道路整備課（現 建設部西部道路課）より福岡市教育委員会に対し、福岡市早良区飯倉 4 丁目～原 8 丁目地内における都市計画道路長尾橋本線外 1 線（飯倉工区）建設に伴う埋蔵文化財の事前調査依頼が提出された（事前審査番号：21-1-225）。

これを受けて教育委員会文化財部埋蔵文化財第 1 課（現 埋蔵文化財審査課）は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である原遺跡および原東遺跡に含まれていることから、平成 23 年 7 月 6 日、8 月 11 日および 9 月 9 日に工区内の一部において確認調査を実施した。その結果、道路建設予定地（早良区原 6 丁目および 7 丁目地内）の地表下約 45 ～ 80cm において土坑・溝・ピット等を確認した。この成果をもとに両者で協議を行い、遺跡が確認された約 1,150m<sup>2</sup>（28 次調査）と 600m<sup>2</sup>（30 次調査）については、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。28 次調査は、平成 23 年 9 月 20 日より開始し、平成 24 年 3 月 7 日に終了した。30 次調査は、平成 23 年 11 月 21 日より開始し、平成 24 年 3 月 7 日に終了した。

発掘調査から報告書作成に至るまで、関係者各位には多大なご協力とご理解を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

### 2. 調査の組織（平成 23 年度）

| 委託：福岡市道路下水道局 建設部西部道路課 | 整理・報告書作成（平成 24 年度）  |
|-----------------------|---------------------|
| 主体：福岡市教育委員会           | 主体：福岡市教育委員会         |
| 総括：埋蔵文化財第 2 課長 田中壽夫   | 総括：経済観光文化局          |
| 同課調査第 1 係長 米倉秀紀       | 埋蔵文化財調査課長 宮井善朗      |
| 同課調査第 2 係長 菅波正人       | 同課調査第 1 係長 常松幹雄     |
| 庶務：埋蔵文化財第 1 課         | 同課調査第 2 係長 菅波正人     |
| 同課管理係 古賀とも子           | 庶務：埋蔵文化財審査課管理係 川村啓子 |

調査・整理担当：埋蔵文化財調査課調査第 1 係 屋山洋（28 次調査・30 次調査Ⅱ区）

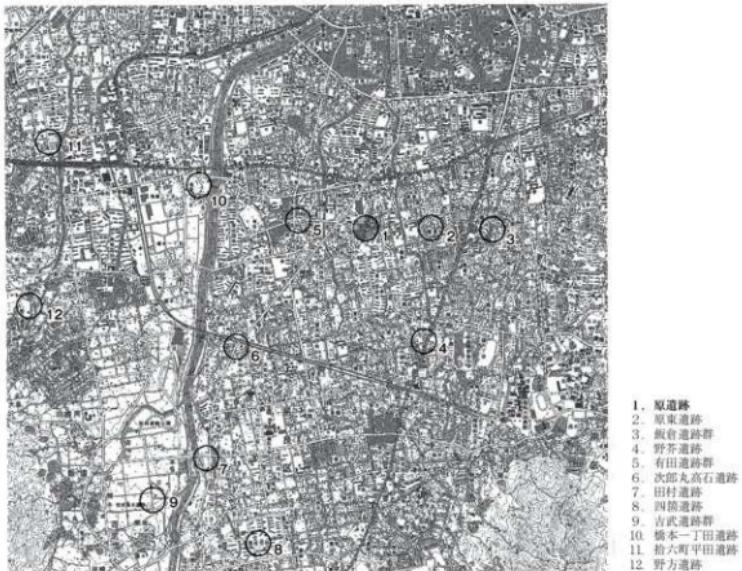
埋蔵文化財調査課調査第 2 係 福薗美由紀（30 次調査 I 区）

## II. 遺跡の位置と環境

北に玄界灘を臨み、南に背振・三郡山系がひかる福岡市には、西から今宿、早良、福岡、糟屋といった4つの平野が折がっている。今回報告する原遺跡は、沖積扇状平野である早良平野の中央を流れる室見川中流の東岸に位置し、金屑川と油山川に挟まれた標高6~7mの低位段丘上に折がる遺跡である。周辺には多くの遺跡が存在する（第1図）。近隣の遺跡としては、油山川を挟んで東側に位置する原東遺跡、金屑川を挟んで西側に八手状に折がる有田遺跡群がある。原東遺跡では弥生時代前期の環濠、中期の甕棺墓が検出され、有田遺跡群においては、弥生時代初頭の拠点集落や古墳時代後期から奈良時代にかけての群衆関連施設が認められる。

原遺跡は、古地図やこれまでの調査成果、現在の水路等から、原遺跡は南北に延びる2つの微高地とその間に挟まれた低地で形成されていることが推定される。今回調査を行った28次調査は、微高地Bの中央に位置し、微高地の中でも最も高い標高に位置する。30次調査は、微高地Bの西端に位置し、調査区の西側にむかって緩やかに傾斜している。

平成24年度までに、原遺跡では32次の調査が行われ（第2図、第1表）、旧石器時代から中近世に至るまでの遺構・遺物が確認されている。縄文時代は明確な遺構や縄文土器は確認されていないが、石鎌等の石器が出土している。弥生時代から古墳時代前期にかけては、竪穴住居や貯蔵穴などの集落跡や甕棺墓地が見られるようになる。古代の遺構は少ないが、10次調査北端で検出された溝は条里の東西方向に一致し、有田遺跡群の溝と繋がる可能性が指摘されている。その後の中世前半においては掘立柱建物や井戸、輸入陶磁器が多く見られ、中世後半には方形区画溝に囲まれた屋敷地が認められるようになる。



第1図 原遺跡と周辺遺跡 (1/50,000)

第1表 原遺跡発掘調査一覧

| 年度   | 主な遺構                              | 概文        |
|------|-----------------------------------|-----------|
| 第1次  | S50 机列(弥生早~中期),水戸川(古代),溝(中世後期)    | 市報592集    |
| 第2次  | S54 潟(弥生中期),建物・井戸(中世前期)           | 市報544集    |
| 第3次  | S55 潟(弥生前~中期),溝,机列(古墳前期)          | 市報21集     |
| 第4次  | S58 上坡(中世後期)                      | 市報64集     |
| 第5次  | S26 集落跡(弥生中期,古墳)                  |           |
| 第6次  | S32 上坡(古墳前期),建物,溝・井戸(中世前期)        | 市報213集    |
| 第7次  | S37 井戸・土坡(中世後期)                   | 「文化財だより」3 |
| 第8次  | S39 墓柱(弥生中期),溝(古墳),井戸・土坑墓(中世)     |           |
| 第9次  | S39 墓穴住居・溝(弥生,溝(古墳前期),船路(中世後期))   | 市報40集     |
| 第10次 | S61 建物・溝・井戸(中世後期)                 | 市報215集    |
| 第11次 | S63                               | 市報266集    |
| 第12次 | S63 墓穴住居(中世後期)                    | 市報233集    |
| 第13次 | S65 墓穴住居(弥生中期),上坡(中世後期)           | 市報233集    |
| 第14次 | H1 墓穴住居・上坡(弥生中期),建物・櫛列・溝・井戸(中世後期) | 市報265集    |
| 第15次 | H1 潟(土坡(中世後期))                    | 市報366集    |
| 第16次 | H3 墓穴住居・建物・狩獵穴(弥生早期),建物・井戸(中世後期~) | 市報337集    |

| 年度   | 主な遺構                                  | 概文     |
|------|---------------------------------------|--------|
| 第17次 | H7 上坡(弥生中期),堅穴住居(古墳),溝(中世)            | 市報444集 |
| 第18次 | H7 建物・溝(古代~中世)                        | 「年報」10 |
| 第19次 | H8 潟・井戸・土坡(中世前~後期)                    | 市報677集 |
| 第20次 | H11 墓穴住居・建物(弥生中期),溝(中世前期)             | 市報688集 |
| 第21次 | H12 建物・井戸(中世)                         | 「年報」15 |
| 第22次 | H13 潟(土坡(弥生中~後期),溝(中世前期),建物,溝(中世後期~)) | 市報81集  |
| 第23次 | H18 土坡(中世後期)                          | 「年報」21 |
| 第24次 | H20 潟(中~近世)                           | 「年報」23 |
| 第25次 | H21 上坡(弥生後期),建物,溝(中世後期)               | 市報129集 |
| 第26次 | H22 墓穴住居・建物・階級穴(弥生早期),建物・井戸・櫛列(中世後期)  | 市報167集 |
| 第27次 | H22 潟(中世後期)                           | 市報168集 |
| 第28次 | H23 墓穴住居・土坡(弥生後期),溝・井戸(中世)            | 市報169集 |
| 第29次 | H23 潟(土坡(中世))                         | 市報120集 |
| 第30次 | H24 潟(弥生),圓文柱建物(中世)                   | 市報199集 |
| 第31次 | H25 潟(弥生),櫛列柱建物(中世)                   | 市報120集 |
| 第32次 | H24 土坡(弥生・古墳),溝(中世前半~近世)              |        |



第2図 原遺跡調査区位置図 (1/6,000)

### III. 原 28 次調査の記録

#### 1. 概要

調査は 2011 年 9 月 20 日に機材を搬入し、21 日に I 区の表土剥ぎを行い調査を開始した。10 月 27 日に I 区の調査を終え、28 日に II 区東側(II-1 区)の調査を始め、12 月 13・14 日に打って返しを行なう西側(II-2 区)の調査を開始した。II-2 区の調査を 2 月 25 日に終え、27・28 日に埋め戻し、29 日に機材の撤去を行い、その後は 3 月 7 日まで整理事務所で土器洗いを行った。

28 次の調査では 11 世紀末～13 世紀の遺構が数多く出土した他、縄文時代晚期～弥生時代前期、弥生時代中期、中世末から近世の集落の遺構を確認した。その他遺構を伴わない遺物として、6 世紀後半の須恵器壺等が後世の遺構から出土している。出土した遺物については P42～45 の一覧表に記載している。東側に隣接する 12 次調査では中世末～近世の遺構を主としており、弥生時代や古代の遺構は報告されていない。弥生時代の遺構は 28 次 I 区においても遺存状態が悪かったため削平の結果消滅したとしても、古代末の遺構が 28 次 I 区で数多く見られるのに 12 次調査区で見られないのは 28 次 I 区と 12 次調査の間になんらかの境界が存在したためと考えられる。今回は縄文時代晚期～中世の遺構について報告する。近世に属する遺構の報告とまとめは平成 25 年度に行う予定である。

#### 2. I 区の調査

##### 1 縄文時代晚期から弥生時代前期の遺構と遺物

###### 1) 土坑

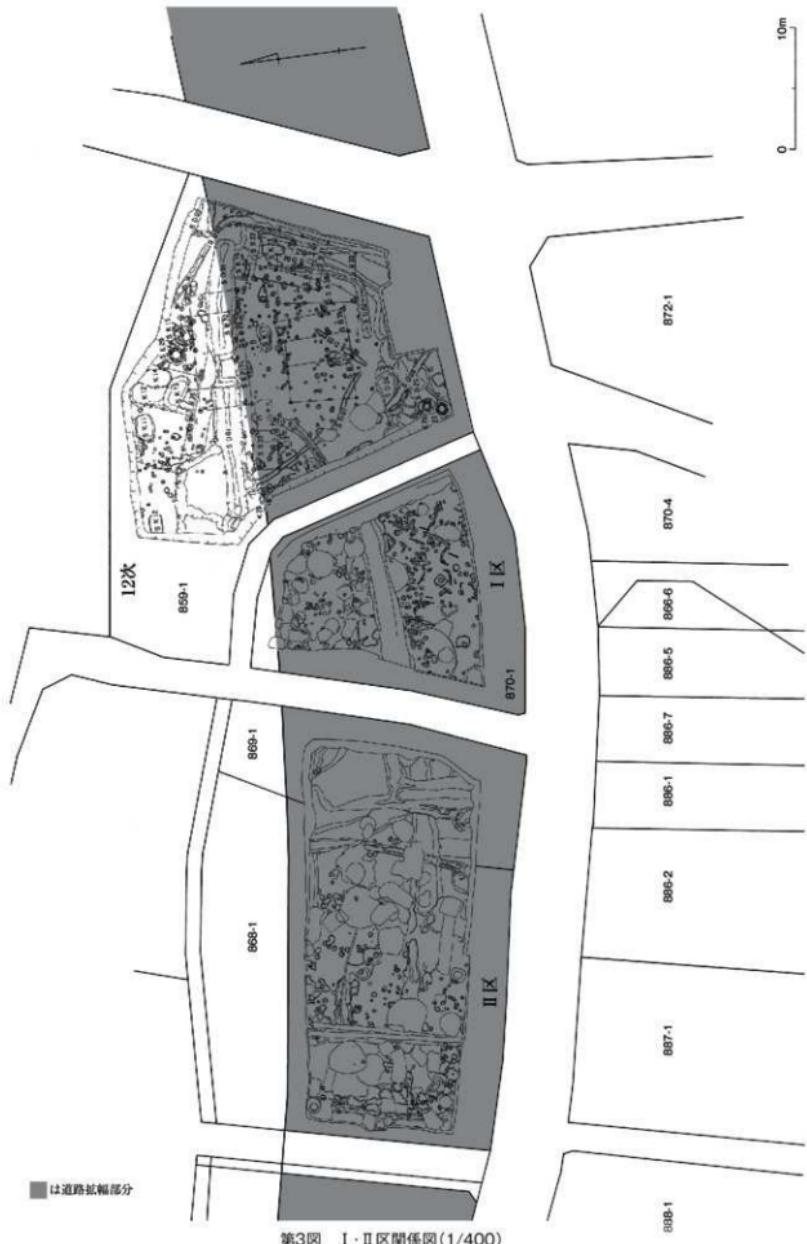
SK004(第 5 図) 調査区南側中央に位置する。平面形は隅丸の三角形を呈し、主軸を N.7°・W. にとる。南北 136cm、東西 97cm、深さ 17cm を測る。覆土は黒色を呈し、底面の地山に近い部分では地山の黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。遺物は突帯文の甕、浅鉢の他に赤色顔料の痕跡がある壺片が出土した。いずれも小片である。

SK008(第 5 図) 調査区の南西に位置する。平面形は楕円形を呈し主軸を N.20°・E. にとる。長径 218cm、短径 120cm、深さ 30cm を測る。埋土は黒色土で一部に地山黄褐色粘質土のブロックを含む。遺物は突帯文期の甕、浅鉢の他、赤色顔料の痕跡が残る壺片などが出土した。

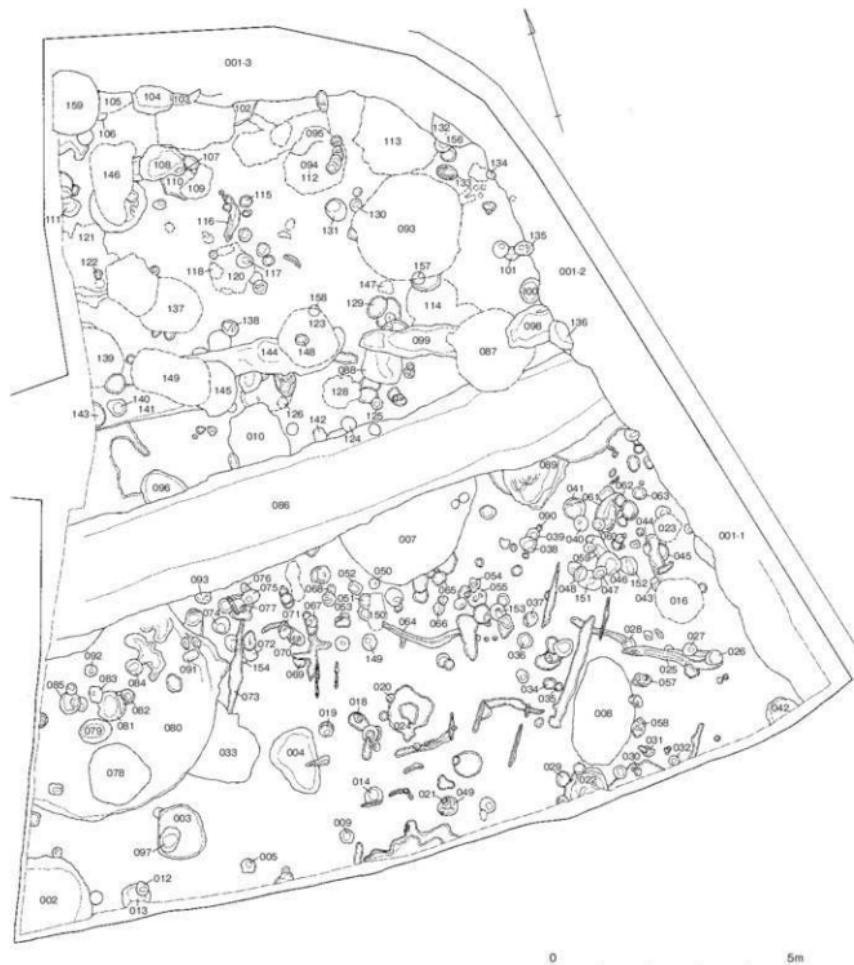
SK010(第 5 図) 調査区中央やや西寄りに位置する。SD086 に遺構の南半を切られるが、現状で南北 120cm、東西 120cm、深さ 31cm を測る。底面は凹凸が多く、中央に径 40cm、深さ 30cm の柱穴状の掘り込みがある。埋土は黒色を呈し縮まりが弱い。遺物は突帯文の甕片が多く出土した。白磁碗片が 1 点出土しているが、混入と思われる。出土遺物(第 6 図 010～023)。010～013 は甕である。010 は肩から胴部にかけて線刻を有す。破片が小さく径は不明瞭だが、図のように細身と思われる。011 と 012 は口縁部でミガキを施し、013 は底部で縱方向のハケを施す。014～018 は浅鉢である。014・015 は口縁、016 は底部でいずれも丁寧なミガキを施す。017～023 は甕である。

SK033(第 5 図) 調査区南東側に位置し、SC080 に切られる。平面は歪な楕円形を呈す。南北 209cm、東西 183cm、深さ 26cm を測る。断面は浅皿状を呈し、底面は平坦で柱穴等も確認できなかった。埋土は黒色で、遺物は突帯文の甕の他、浅鉢、丹塗壺等が出土した。轆の羽口が 1 点出土したが混入と思われる。出土遺物(第 6 図 024～030)。024 は甕口縁か。025・026 は浅鉢である。025 は完形に近く黒褐色を呈す。胎土は橙色を呈し、1mm 以下の白色砂を多く含む。調整は内外面とも横方向のミガキを施す。027 は甕口縁で 028～030 は甕か浅鉢の底部である。

2) 柱穴 調査区南側では埋土から縄文時代晚期～弥生時代初頭と思われる柱穴群を数基検出したが、実際に遺物が出土したのは少ない。SP031 から 001・002(第 5 図) の甕が SP097 からは 003 が出土した。



第3図 I・II区関係図(1/400)



第4図 I区遺構配置図(1/100)

## 2 弥生時代中期以降の遺構と遺物

### 1) 穴式住居

SC080(第7図) 調査区南西隅に位置し、平面形は円形を呈する。北側はSD086に切られ、西側は調査区外に延び、径は5m前後と推定される。床面は削平され、床面下の掘方のみの遺存である。炉や建物に伴う柱穴は確定できなかったが、中央部に掘込みがあり、これらが炉及び柱穴になる可能性がある。床面下の掘方から甕棺片(弥生時代中期前半)や甕などの他、焼けた粘土塊等が出土した。出土遺物(第7図031・032)。031は甕棺口縁である。口縁端部に刻み目を施す。頭部に三条の沈線が巡る。032は甕底部である。調整は摩滅のため不明である。

### 2) 土坑

SK003(第7図) 調査区南西隅に位置する。平面は歪な楕円形で長径110cm、短径98cm、深さ22cmを測る。埋土は黒色を呈し、地山である黄褐色シルトの粒を含む。弥生時代中期の甕片が出土した。

SK042(第7図) 調査区南東端に位置し、遺構の南半が調査区外に延びる。現状で平面は半円形を呈し、径70cm、深さ12cmを測る。埋土は黒色を呈す。遺物は無いが、埋土から弥生時代と推定される。

## 3 古代末から中世の遺構と遺物

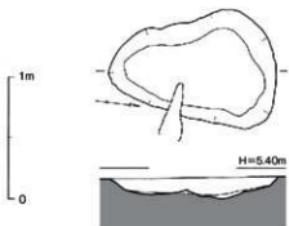
1) 井戸 調査区内で2基出土した。黄褐色シルト層の下の砂礫層は縮まりが非常に固く、水が多く滲みでるため2基とも砂礫層まで掘り下げている。

SE007(第8図) 調査区中央やや南寄りに位置し、SD086に切られる。平面はほぼ円形で径2.3m、深さ1.4mを測る。断面は逆台形を呈す。南側壁面に数個の凹みがある。井戸枠は出土しなかったが、土層断面に一部版築状の堆積があり、廃棄時に井戸枠を抜いた可能性がある。埋土中から白磁碗IV類や陶器大甕、瓦器椀等が出土した。11世紀後半から12世紀前半頃か。出土遺物(第8図033～037)。033は白磁碗IV類である。034は黒色A類頃である。外面は摩滅のため不明、内面は全体にミガキを施す。035は瓦器椀で内面はミガキ、036は弥生前期の壺で頭部外面に赤色顔料が残る。037は木質である。厚さは1～2mmで、9～10cm毎に釘孔が残る。片面に刃物による切痕が見られる。曲げ物の側板か。SE078(第8図) 調査区南西隅に位置し、SC080を切る。平面は不整円形で径1.2m、深さ1.5mを測る。断面は筒状を呈す。検出面から95cmで礫層に達し、その直上の壁面がやや抉れている。井戸枠の痕跡は見られず、素堀と推定される。検出面直下で白磁碗小片、土師椀、土師坏・皿、黒色土器椀、瓦器椀等が出土した。11世紀後半頃と思われる。出土遺物(第9図038～053)。038～040は土師椀、041は黒色A類坏で底部はヘラ切りで板状圧痕がみられる。042・043は土師坏で底部はヘラ切り、板状圧痕が残る。043は内面が黒っぽく黒色A類の可能性がある。044は瓦器皿、045～050は土師皿である。外底部はいざれもヘラ切りで板状圧痕が残る。049は口縁端に段がつく。051・052は土鍋である。底面直上でまとめて出土した。外面は厚く煤が付着、内面はヘラケズリを施す。053は土錘である。長さ3.8cm、幅2cmを測る。側面に長軸方向の溝を刻む。

### 2) 溝

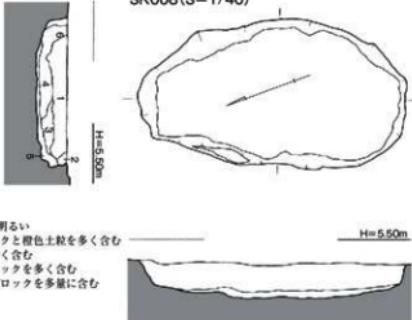
SD086(第10図) I区中央に位置する東西方向の溝で、長さ32.5mを測る。溝の西端はII区中央で立ち上がり、東端はI区東端で近世の溝であるSD001に切られる。東側隣接地の12次調査区には延びないため12次調査との境界で立ち上がるか、南北どちらかに屈曲する。溝は現状で幅が約2m、深さ約79cmを測り断面は逆台形に近い。壁面は北側が垂直に近いのに対し、南壁は緩やかな傾斜である。埋土の多くが南側からの流入みで、南側に土星等が存在した可能性がある。12世紀中頃～後半の埋没である。出土遺物(第10図054～084)。054は越州窯青磁碗、055～062は白磁碗、063は白磁皿である。

SK004(S=1/40)

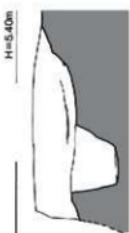
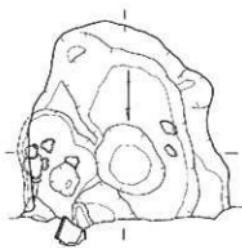


黄褐色シルト=A  
1黒色土  
2黒色土 1層より明るい  
3黒色土 Aブロックと橙色土粒を多く含む  
4黒褐色土 Aを多く含む  
5黒褐色土 Aブロックを多く含む  
6黒褐色土 A小ブロックを多量に含む

SK008(S=1/40)



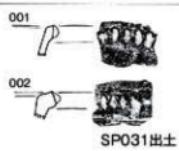
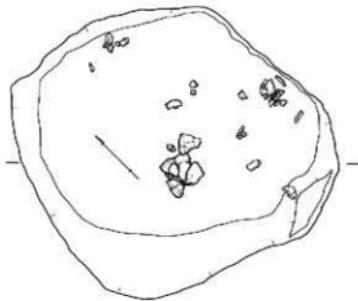
SK10(S=1/30)



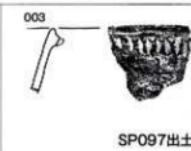
H=5.40m



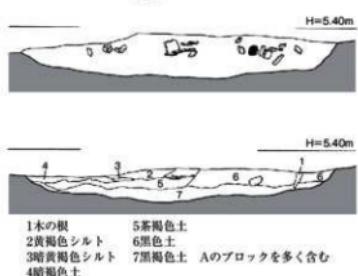
SK033(S=1/30)



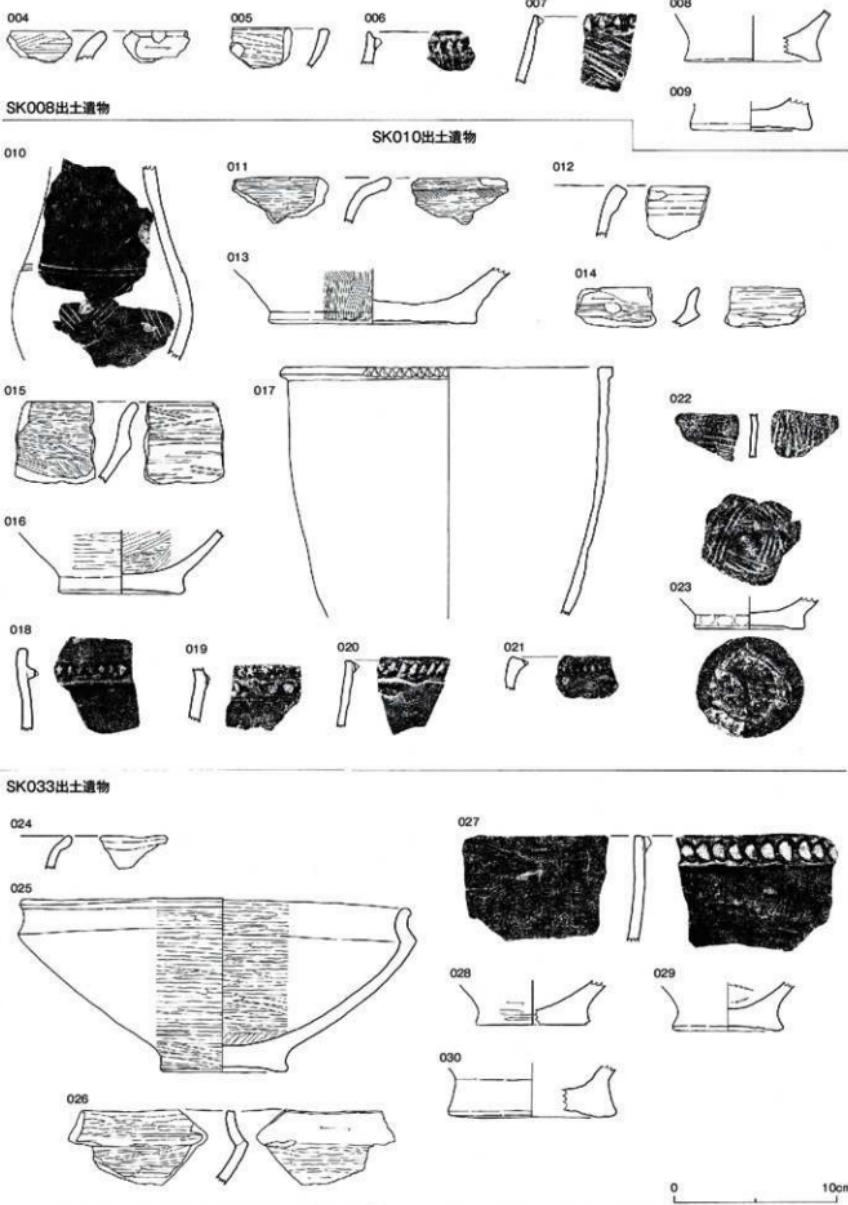
0



10cm

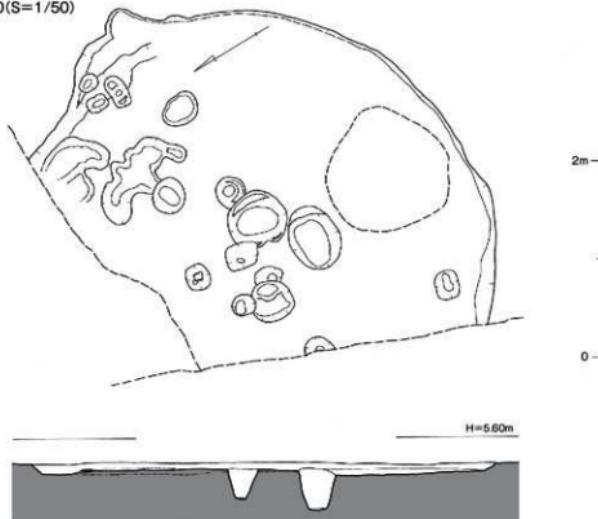


第5図 弥生時代遺構実測図1・出土遺物実測図1(1/40・1/30・1/3)

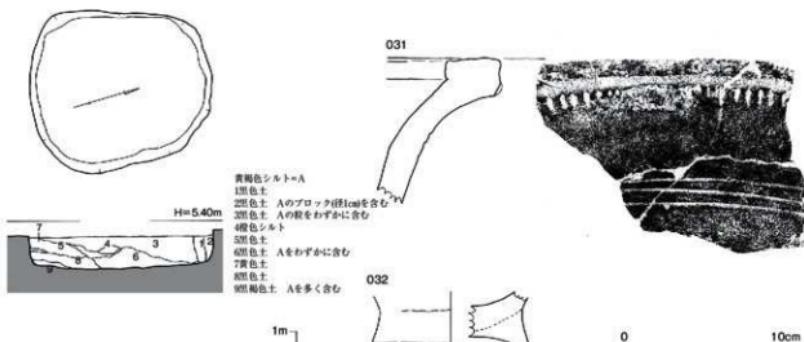


第6図 土坑出土遺物実測図2(1/3)

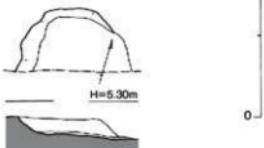
SC080(S=1/50)



SK003(S=1/30)

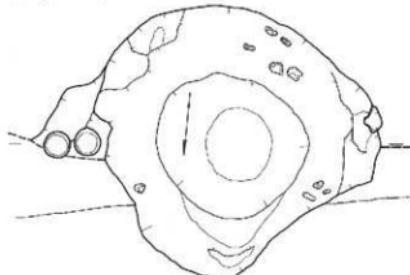


SK042(S=1/30)

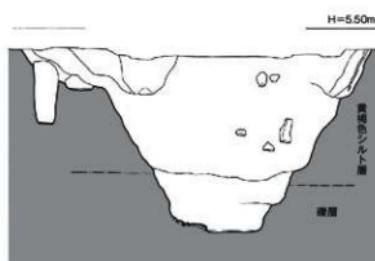
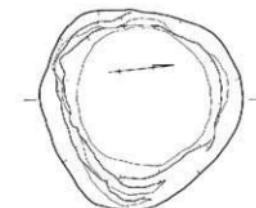
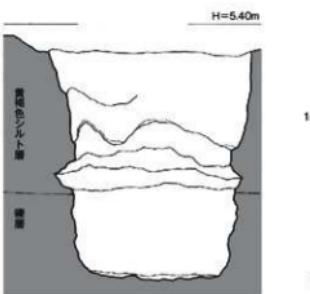


第7図 弥生時代遺構実測図2(1/50・1/30・1/3)

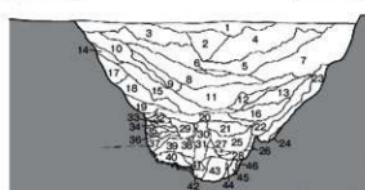
SE007(S=1/40)



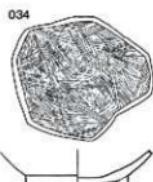
SE078(S=1/30)

1m  
01m  
0

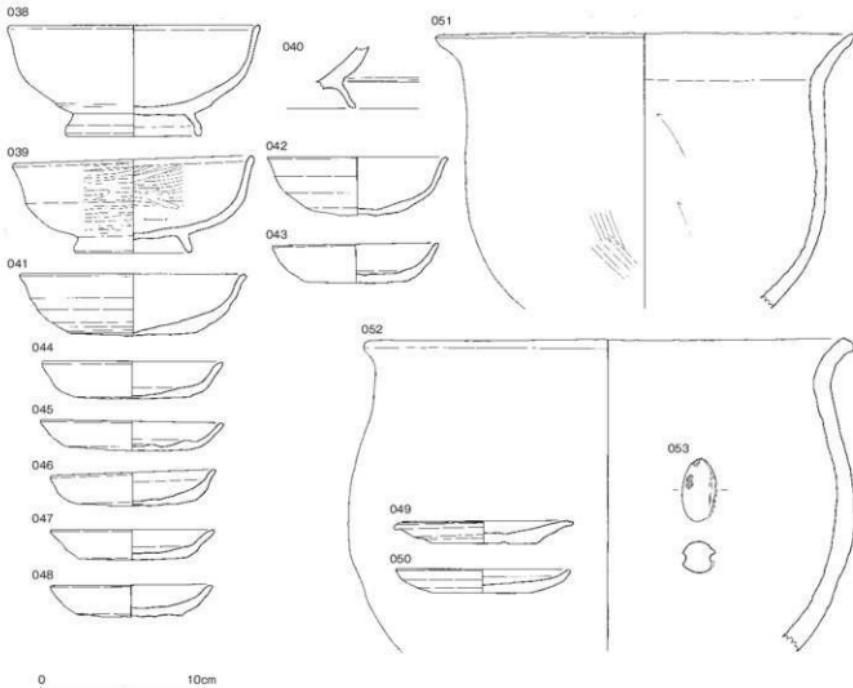
H=5.50m



- A=黄褐色シルト  
 1暗茶褐色土  
 2暗茶褐色土 腐化物・赤褐色土を少量含む  
 3暗茶褐色土 Aを含む  
 4茶褐色土 Aを左下がりの層理状に多量に含む  
 5R茶褐色土 他上フロックを全体的に含む  
 6黄褐色シルト  
 7R茶褐色土 A(H=5m)を少量左下がりの層理状に含む  
 8R茶褐色土 A(H=5m)右下がりの層理状に含む  
 9R茶褐色土 Aを少量含む  
 10R茶褐色土 Aを少量含む  
 11黄褐色シルト  
 12R茶褐色土  
 13R茶褐色土 Aを少量含む  
 14茶褐色土 Aを右下がりの層理状に多量に含む  
 15茶褐色土 Aを右下がりの層理状に多量に含む  
 16茶褐色シルト  
 17R茶褐色土 黒褐色土粒を含む Aを少量右下がりに含む  
 18茶褐色土  
 19R茶褐色土 Aを水平な層理状に含む  
 20R茶褐色土  
 21R茶褐色土 A(H=5m)を水平な層理状に含む  
 22茶褐色土  
 23R茶褐色土 A(H=5m)を左下がりに含む
- 24茶褐色土  
 25暗茶褐色土  
 26暗茶褐色粘質土  
 27暗茶褐色土  
 28暗茶褐色土 Aを少量含む  
 29暗茶褐色土 Aを少量化  
 30暗茶褐色シルト  
 31暗茶褐色土  
 32暗茶褐色シルト  
 33暗茶褐色土  
 34暗茶褐色シルト  
 35R茶褐色土 A(2~3m)を多く含む  
 36暗茶褐色シルト  
 37暗茶褐色土  
 38暗茶褐色シルト  
 39暗茶褐色粘质土  
 40暗茶褐色土 岩化物含む  
 41暗茶褐色土  
 42暗茶褐色土 岩化物含む  
 43暗茶褐色粘质土  
 44暗茶褐色粘质土  
 45暗茶褐色シルト  
 46暗茶褐色粘质土

10cm  
0

第8図 井戸遺構・遺物実測図(1/40・1/30・1/3)



第9図 井戸出土遺物実測図(1/3)

064は瓦質の鉢で脚を貼り付けた痕跡が残る。全体に横方向のミガキを施す。065は陶器壺口縁である。釉は暗褐色を呈す。066は朝鮮陶器壺で484(第32図)と同一個体である。067～072は土師坏である。067・068はヘラ切り、069～071はヘラ切りで板状圧痕が残る。072は糸切りである。073～081は土師皿で073は切り離し後ナデを施す。074はヘラ切り、075～081は糸切りで077～081は板状圧痕が残る。082～084は弥生時代前期の土器で082が大型壺口縁、083は壺底部、084は壺もしくは壺底である。

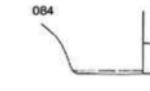
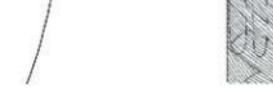
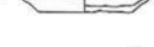
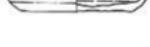
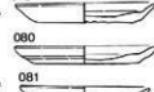
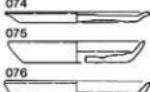
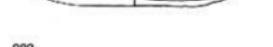
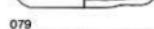
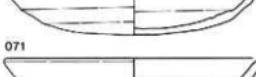
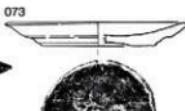
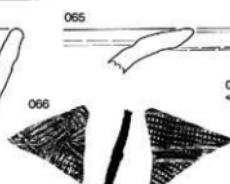
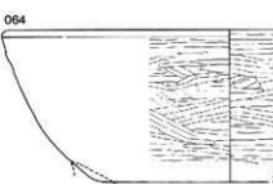
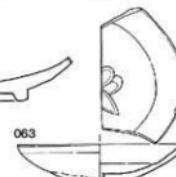
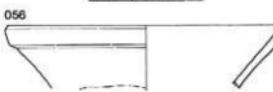
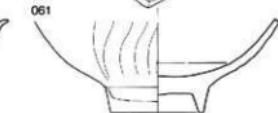
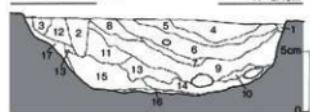
SD098(第11図 SD099・144) SD086の北側に位置する東西方向の溝でわずかに弧を描く。攪乱に3分割されたのを、SD099、SD144としたが本来は1本の溝である。長さ8m、幅80cm、深さ35cmを測る。断面は逆台形を呈す。埋土は暗茶褐色～黒褐色で陶器片、土師碗、土師坏、鉄滓等が出土した。

#### 4) 土坑・その他

SK096(第11図) 調査区中央西寄りに位置し、遺構の南半をSD086に切られる。平面形は方形と推定され、現状で東西80cm、南北85cm、深さ39cmを測る。埋土は黒色で、糸切りの土師坏が出土した。SP091(第11図) 調査区の南東部に位置する。SC080を切る柱穴状遺構で長径23cm、深さ12cmを測る。底面近くで糸切りの土師坏が出土した。

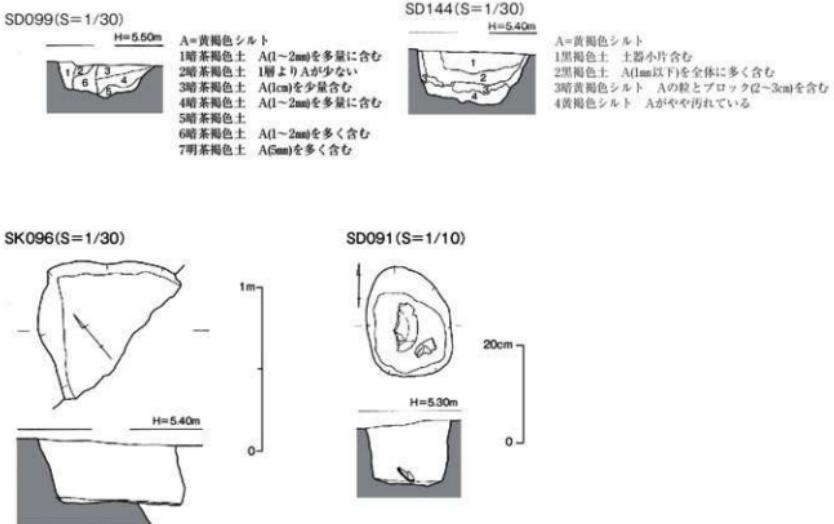
SD086(S=1/40)

H=5.40m



0 10cm

第10図 SD086構造・遺物実測図(1/40-1/3)



第11図 その他遺構実測図(1/30・1/10)

### 3. II区の調査

#### 1 弥生時代の遺物

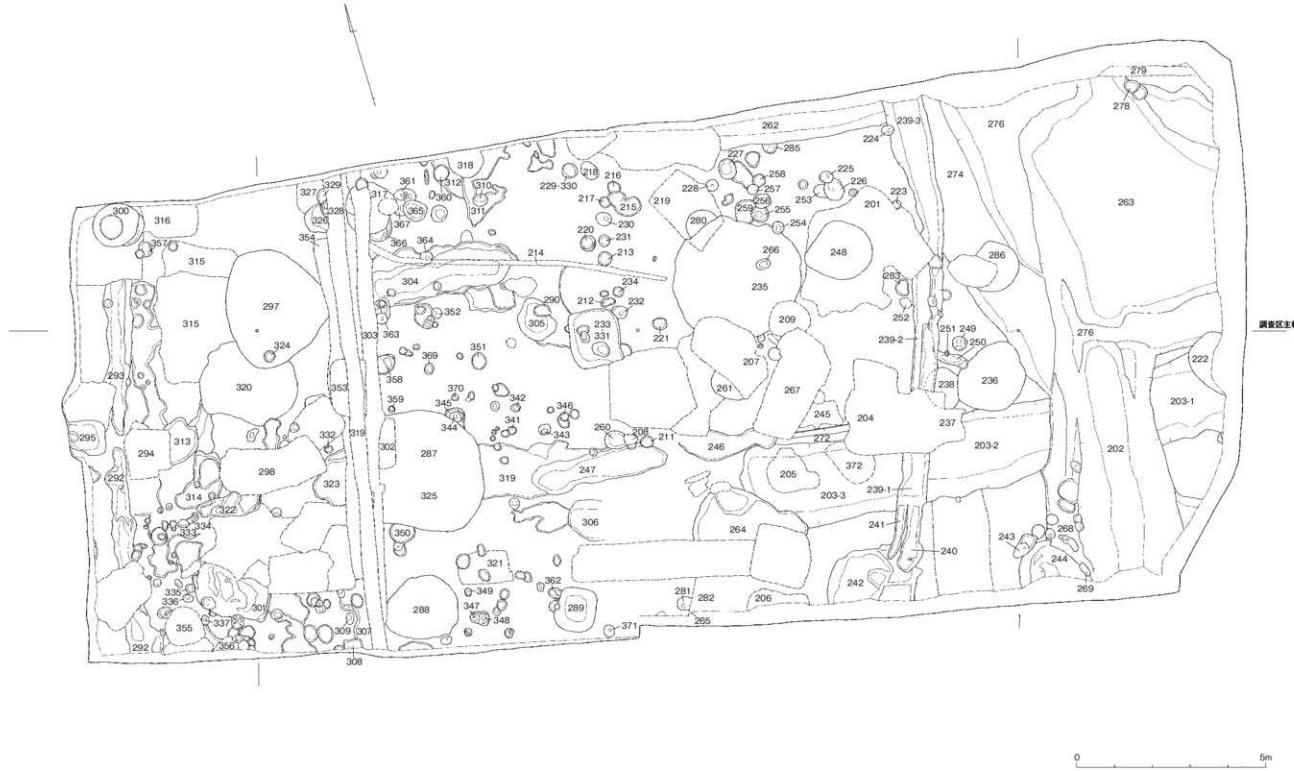
II区では弥生時代の確実な遺構を確認することはできなかった。土器、石器等の遺物は後世の遺構から数多く出土しているためI区同様に遺構が存在したもの、後世の開発により消失したものと思われる。今回は古代末～中世で報告する遺構から出土した分に関してはその遺構から出土した遺物と一緒に記載したが、その他の遺構や包含層から出土した分に関しては25年度に報告する予定である。

#### 2 古代末から中世の遺構と遺物

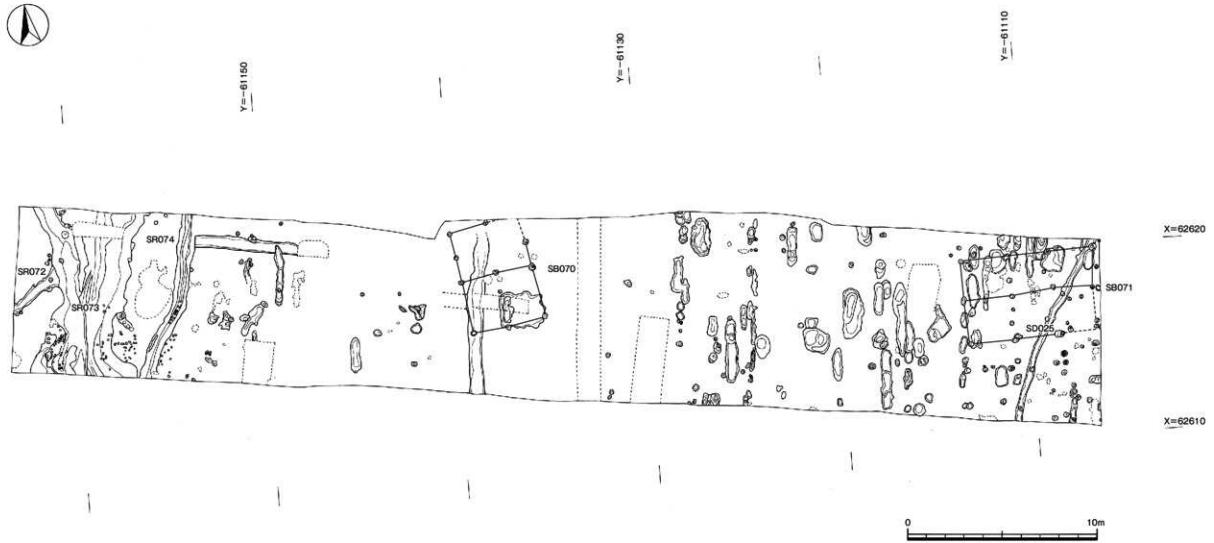
1) 井戸 古代末～中世にかけての井戸を11基確認した。このうちSE325は遺構検出面ではSE287との間に明確な切り合いが見られたものの、掘り下げた結果井戸枠が確認できなかつたためSE287と同一の遺構として報告する。

SE235(第13図) 調査区中央に位置する。掘方は円形で径3.5mを測る。検出面から80cm下で平坦面を作りそれから13m程掘り下げている。井筒は1段目は完全に残り、2段目は下端部のみ遺存する。1段目は径55cm、高さ101cmを測る。下端から12cm、55cm、73cmの高さに籠があり、一番上の籠に2段目の井筒が乗る。井筒の材は杉を使用している。時期は12世紀中頃から後半か。出土遺物(第15図085～096)。085・086は曲物の側板、087は底板で井筒から出土した。085・086は内側に刃物で切目を入れている。088～092は掘方から出土した。088は龍泉窯系青磁碗II類、089は白磁の合子である。090は土師壺で糸切り後板状圧痕が残る。092は土師皿でヘラ切り、板状圧痕が残る。092は須恵器壺である。093～096は井筒内出土である。093は龍泉窯系青磁碗、094は須恵質鉢、095・096は土師器壺で糸切りである。

SE236(第13図) 調査区東側に位置する。SD203を切る。平面は東西に長い楕円形を呈し、長径198cm、深さ132cmを測る。検出面から60cm程は断面逆台形に窄まり、それからは垂直に75cm程掘り下げてい



第12図 II区遺構配置図(1/100)



第38図 30次調査構造配置図(1/200)

る。井筒は径 60cm 程で 1 段目下半の 35cm が遺存していた。疊層の礫を掘り残してその上に井筒を乗せている。時期は 12 世紀中～後半頃と思われる。出土遺物(第 15 図 097)は土師坏で掘方から出土した。口径 15.4cm を測り、糸切りで板状圧痕がある。青磁碗片の他、白磁碗や皿の小片、瓦器椀等が出土したがいざれも小片である。

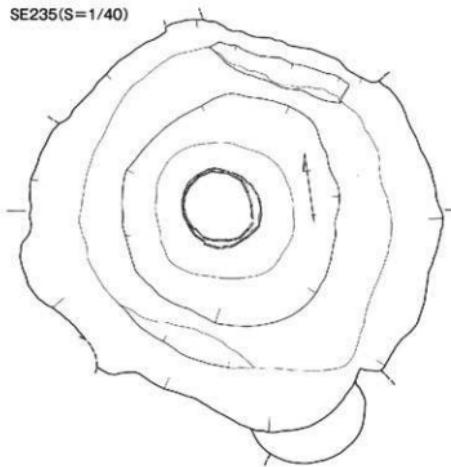
SE238( 第 13 図 ) 調査区東側に位置し、SE236 に切られる。平面形は円形を呈し、径 112cm 、深さ 113cm を測る。井筒の痕跡は見られず、素堀と推定される。遺物は少ないが 11 世紀前半頃か。出土遺物( 第 15 図 098 )。098 は土師皿である。ヘラ切り後にナデを施す。

SE248( 第 14 図 ) SE235 の東側に隣接する。擾乱の削平を受けているが元は径 25m 以上の円形で、深さ 155cm を測る。検出面から 80cm 程下に平坦面がある。井筒の痕跡は見られず、素堀と推定される。12 世紀中頃か。出土遺物( 第 15 図 101 ～ 106 )。101 は白磁碗、102 は須恵器の底部である。103 は瓦器椀で内面にミガキを施す。104 ～ 105 は土師皿である。104 と 105 はヘラ切り後に指で底部を若干押し出し、その後ナデを施す。106 は糸切りで板状圧痕が残る。

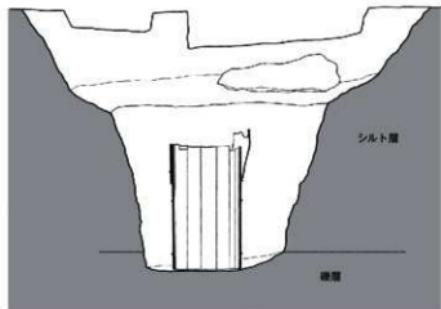
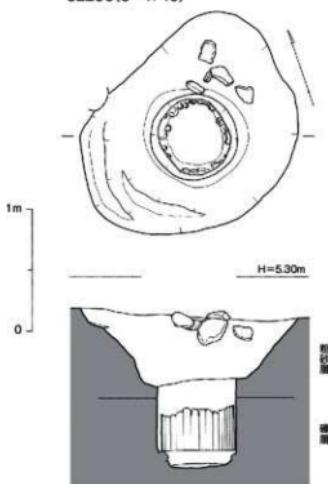
SE280( 第 14 図 ) 調査区中央部に位置し、SE235 に切られる。平面は円形で径 1m 、深さ 168cm を測る。井筒の痕跡は無く素堀である。出土した遺物は少なく、いざれも小片である。白磁などの貿易陶磁や糸切りの土師坏、皿を含まず 11 世紀後半以前と思われる。出土遺物( 第 15 図 107 )は土師椀の底部で高台の痕跡が残る。内面に文字を線刻している。文字は「速(むらじ)」の上半部と思われる。

SE287・325( 第 16 図 ) 調査区中央西寄りに位置する。検出時に切り合いから南北に 2 基が並んでいるように見え、北側の新しい井戸を 287 、南側の古い井戸を 325 と名付けたが、287 の完掘後に 325 を掘り下げたところ井筒があった痕跡が見られず、検出面から 80cm 下の平坦面も連続していたため 1 基として報告する。遺物は 325 が白磁碗の V 類や青磁片を含まず、若干古い様相を示す。平面形は南北に長い楕円形で長径 3.6m 、深さ 1.7m を測る。井筒は一辺 90cm の方形を呈し、4 隅に径 10cm 程の柱を立ててから臍孔に横棒を通し、側板を 2 重に打ち込んだもので、現状では下端から高さ 80cm 程遺存している。検出時は土圧のため上側の側板や横棒が多く崩落し、井筒内が埋まった状態であった。上側から崩落した部材を取り除いたのが第 19 図( 図版 5-5 )で東側の側板が横棒の上で折れて井筒内に倒れ込んでいる。12 世紀中頃～後半頃か。出土遺物( 第 16 ～ 24 図 108 ～ 210 )。108 から 157 は井筒上端より上層で出土した。108 ～ 110 は越州窯系青磁碗である。111 は白磁皿 IV-2 類、112 ～ 115 は白磁碗である。116 は陶器鉢底部、117 は陶器鉢口縁、118 は陶器甕である。119 ～ 120 は須恵器甕胴部、121 は黒色 B 類碗、122 ～ 127 は瓦器椀である。128 ～ 130 は瓦器皿、131 ～ 135 は土師坏で、131 はヘラ切り後ナデ、132 ～ 136 もヘラ切りで 133 ～ 135 は板状圧痕が残る。136 ～ 146 は土師皿である。136 はヘラ切りで板状圧痕が残り、137 ～ 146 は糸切りで 141 ～ 146 は板状圧痕が残る。147 は土師質で断面が円形の真っ直ぐな棒に粘土を巻き付け、ナデを施す。180 に似る。孔は器内まで突き抜けており、大型器台の脚である。148 は土師質の坏蓋、149 は須恵質の風字硯である。削り出しの低い脚が付く。150 は滑石製石鍋、151 ～ 152 は須恵質の平瓦で 151 は斜格子のタタキ、152 は繩目のタタキを施す。153 は土錘である。長さ 4.7cm 、径 1.6cm を測る。155 ～ 157 は弥生時代の甕である。158 ～ 174 は井筒内から出土した。158 は白磁碗、159 ～ 160 は土師坏で底部は糸切りで板状圧痕が残る。160 は外面全体と内面口縁に煤が付着している。161 ～ 164 は土師皿で 161 はヘラ切り、162 ～ 164 は糸切りで 163 ～ 164 は板状圧痕が残る。165 ～ 168 は土錘である。165 は長さ 4.7cm 、径 1.1cm 、166 は長さ 4.2cm 、径 0.9cm を測る。169 は棒状土製品である。170 ～ 171 は須恵質の瓦で繩目タタキを施す。172 は滑石で石鍋の再加工品である。温石石か。173 ～ 174 は木製品で 173 は取手状を呈す。用途は不明である。174 は板状を呈し、長さ 28.5cm 、幅 3.6cm 、厚さ 2 ～ 4mm を測る。井筒の横木と側板に挟まれて出

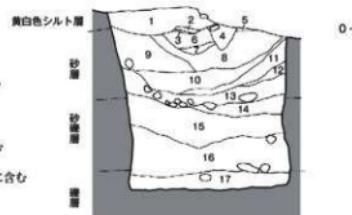
SE235(S=1/40)



SE236(S=1/40)



SE238(S=1/30)



A=黄褐色シルト

1暗茶褐色土 白色砂多く含む

2黄褐色シルト

3暗茶褐色土

4茶灰褐色土

5褐色土 A(2~3cm)を多く含む

6褐色土 A(1cm以下)を多く含む

7黄褐色シルト

8暗茶褐色土 A(2~3cm)を少量含む

9暗茶褐色土 A(5~6cm)を多く含む

10黄褐色シルト

11暗褐色土 灰色粗砂多く含む

12暗褐色土

13黄褐色シルト 円錐を多量に含む

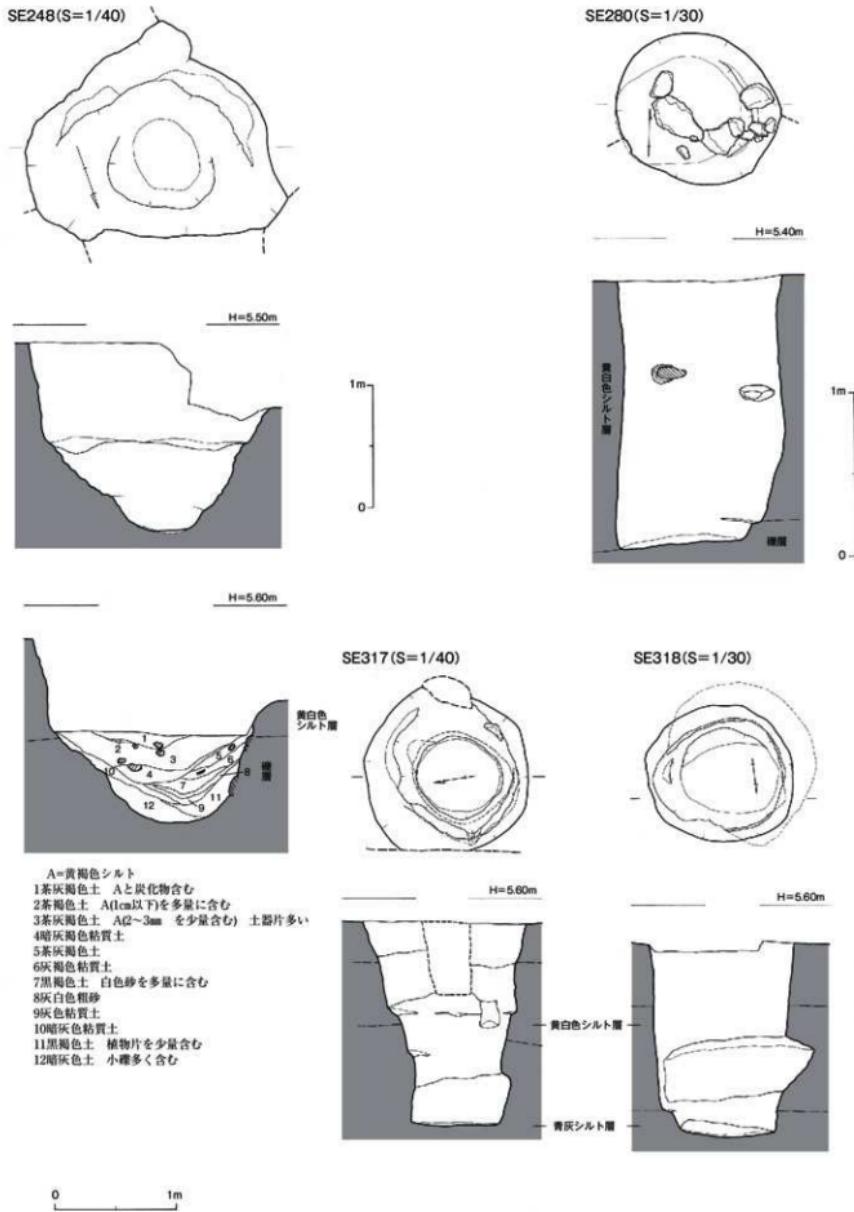
14黄褐色シルト

15黄褐色シルト 暗褐色土を層状に含む

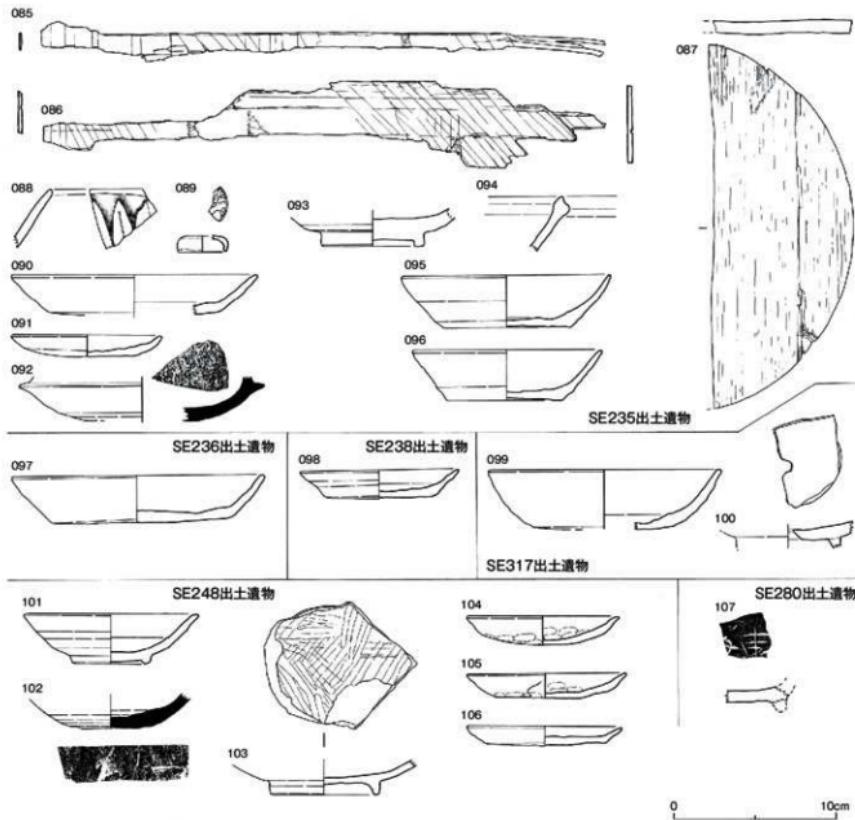
16黄褐色シルト 小礫多く含む

17灰白粘質土 粒多く含む

第13図 井戸構造実測図1(1/40・1/30)

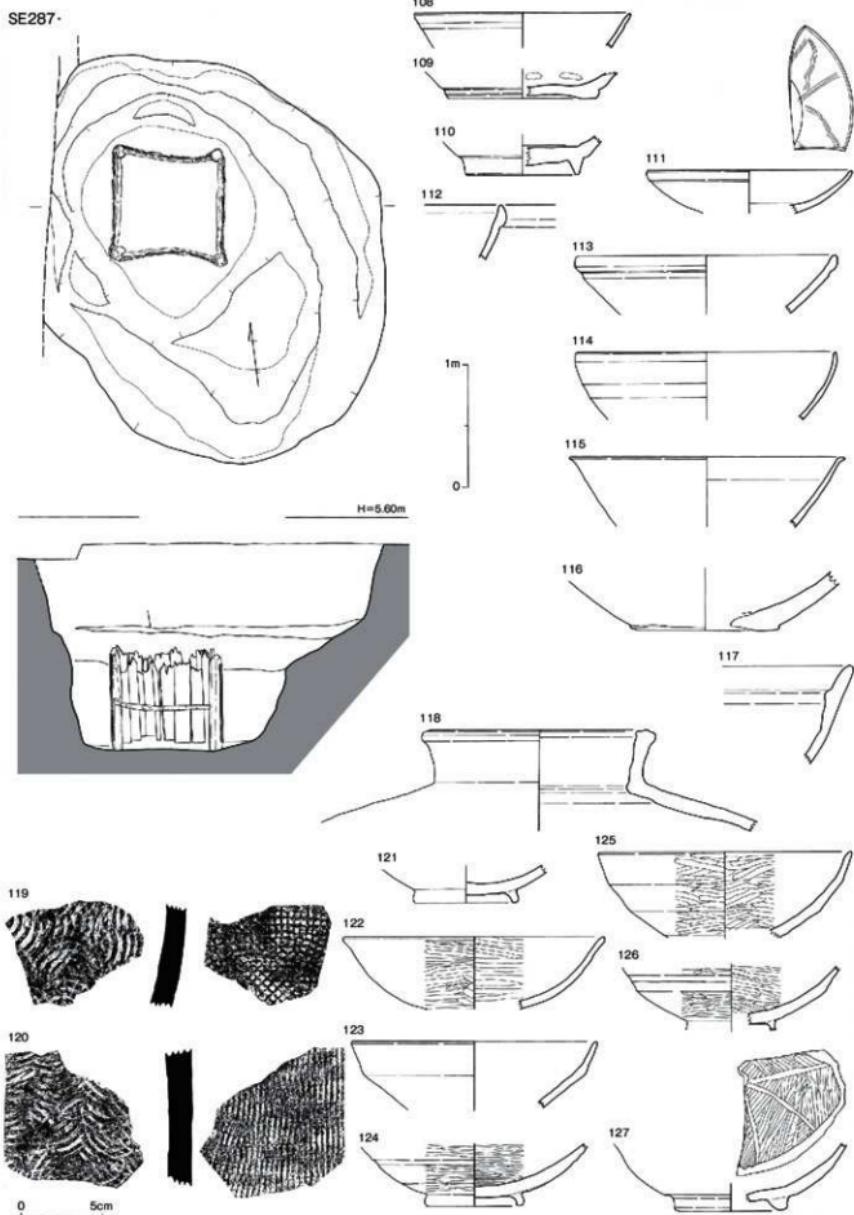


第14図 井戸造構実測図2(1/40・1/30)

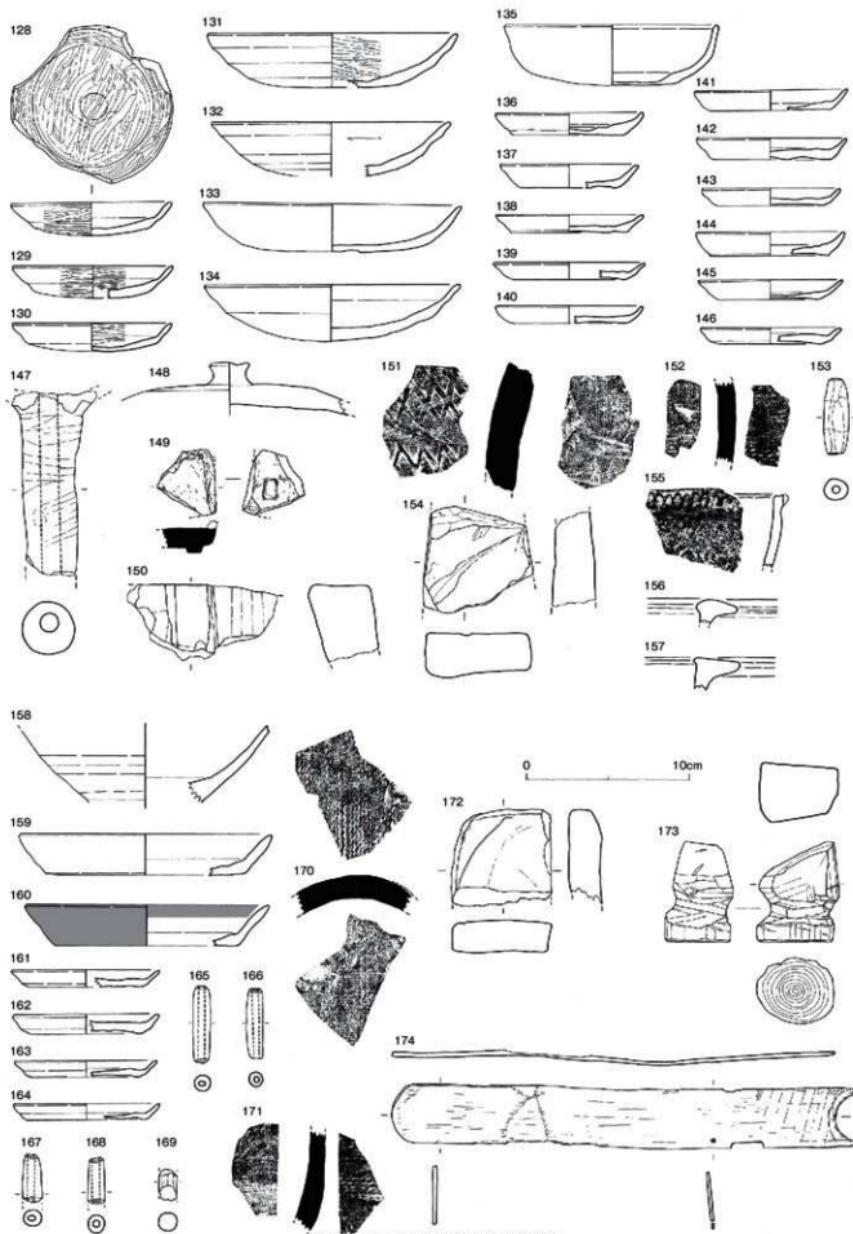


第15図 井戸出土遺物実測図(1/3)

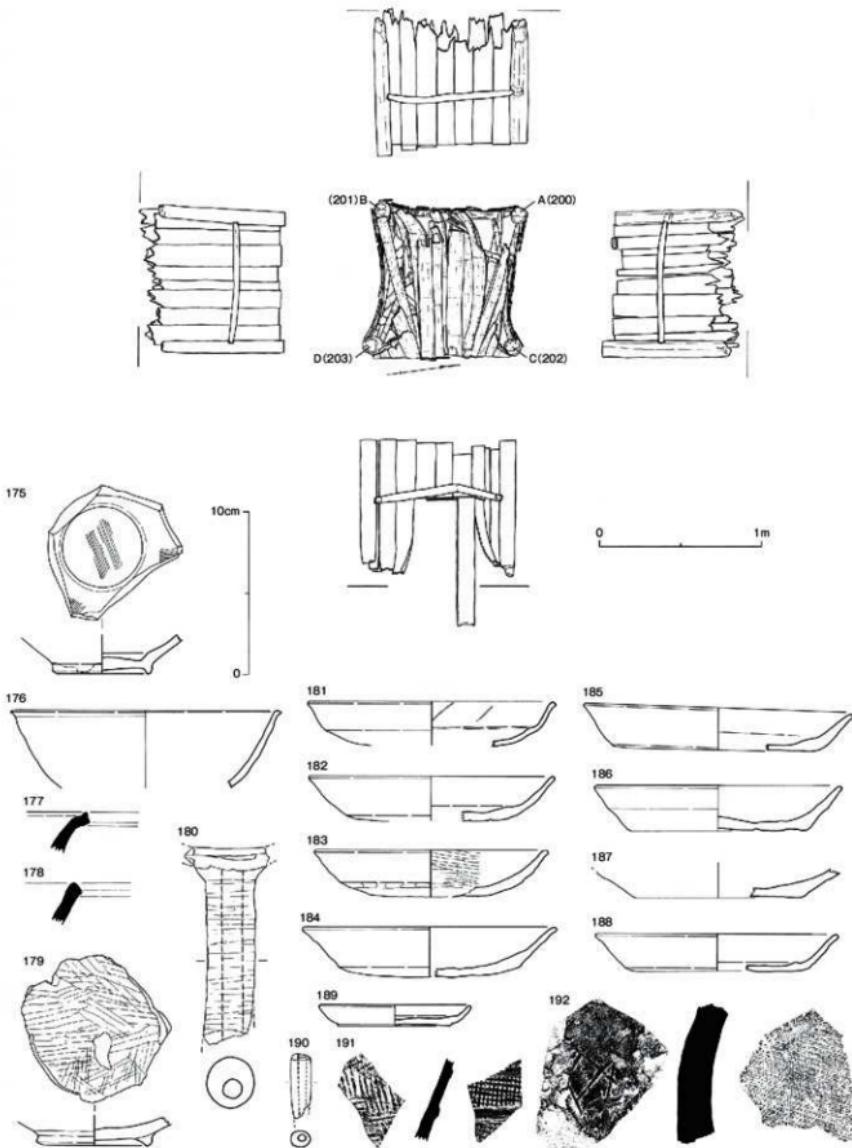
土した。端部は同型の凹凸があり、途中に釘孔と長辺の縁に一部凹みがある。輪にすると凹凸が合わさるため、曲げ物の籠のように巻いて使用したものと思われる。175～192は井筒掘方から出土した。175・176は白磁碗、177・178は須恵器壺口縁である。179は瓦質椀、180は147と同様の土師質で断面円形の棒に粘土を巻き付け横方向のナデを施す。181～188は土師坏である。181はヘラ切りで板状圧痕の上からナデを施す。182～184はヘラ切りで184は板状圧痕が残る。185～188は糸切りで板状圧痕が残る。189は土師皿で底部は糸切り、板状圧痕が残る。190は土錘、191は朝鮮陶器壺で484(第32図)と同一個体の可能性が高い。192は須恵質の平瓦である。凸面に斜格子のタタキを施す。193～195は井戸枠の側板である。193は完形で長さ83.7cm、幅9.5cm、幅1.2～1.4cmを測る。193は上側端部に方形の、195は同じく上側端部に横長の長方形の臍孔があり、建築材を再利用したものと思われる。板材は年輪に沿って割ったもので、表面に凹凸が多くみられる。196～199はSE325から出土した本片である。196～198は刀子による切り込みが見られ、196は平行線、197・198は平行線の



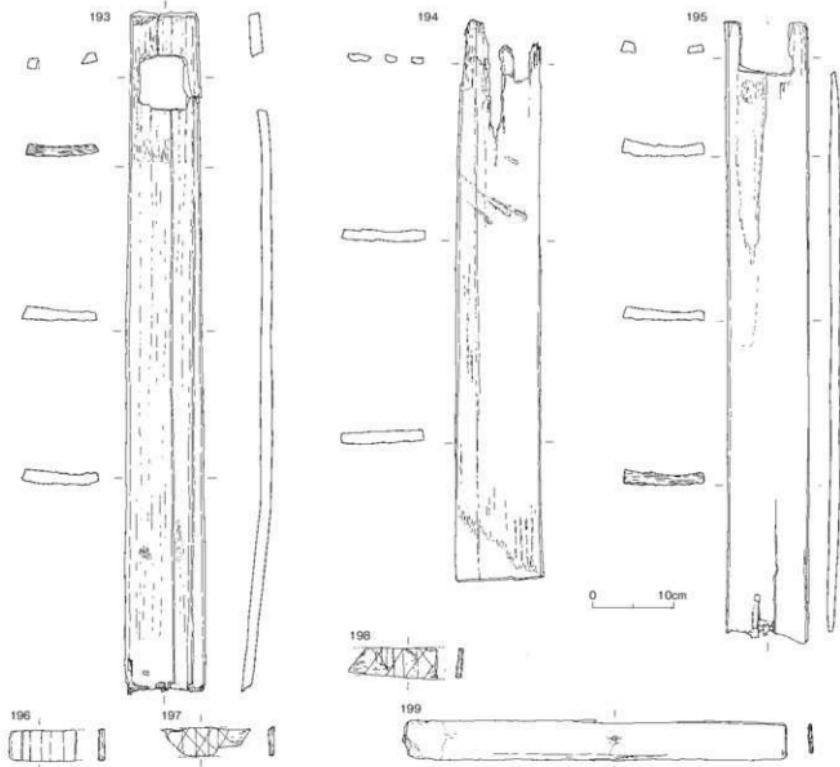
第16図 SE287遺構実測図・遺物実測図1(1/40・1/3)



第17図 SE287遺物実測図2(1/3)



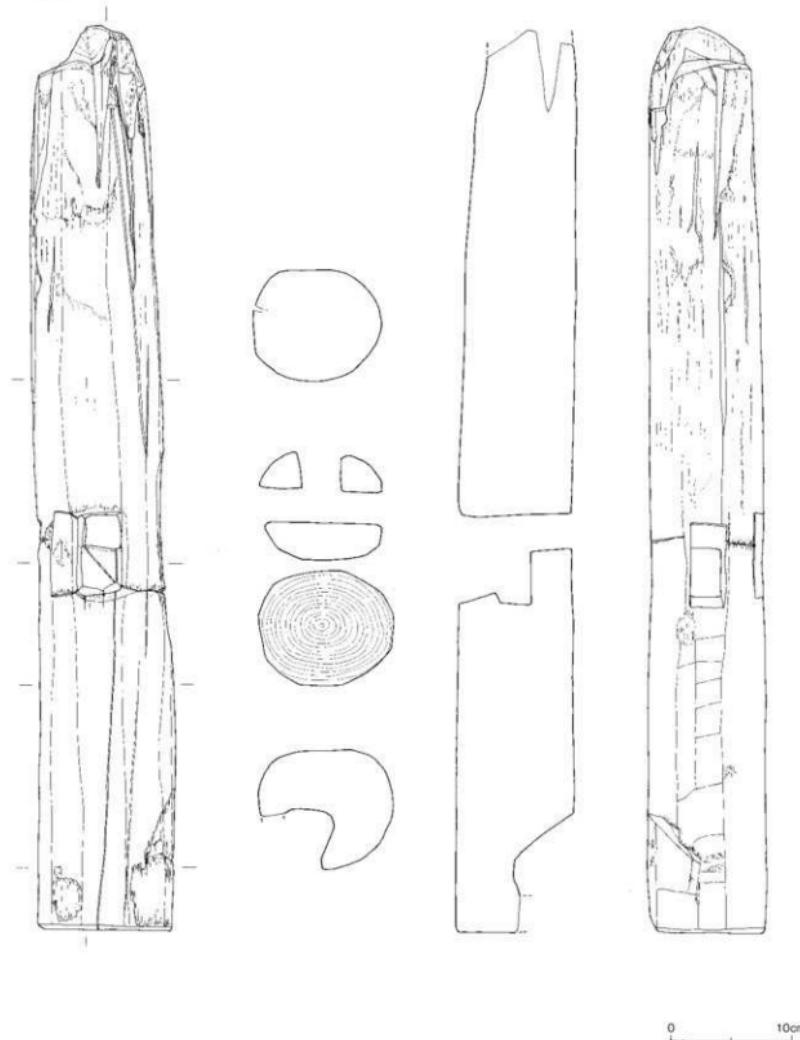
第18図 SE287井筒実測図(1/30)・遺物実測図3(1/3)



第19図 SE287井戸枠木材実測図(1/6)・遺物実測図4(1/3) 0 10cm

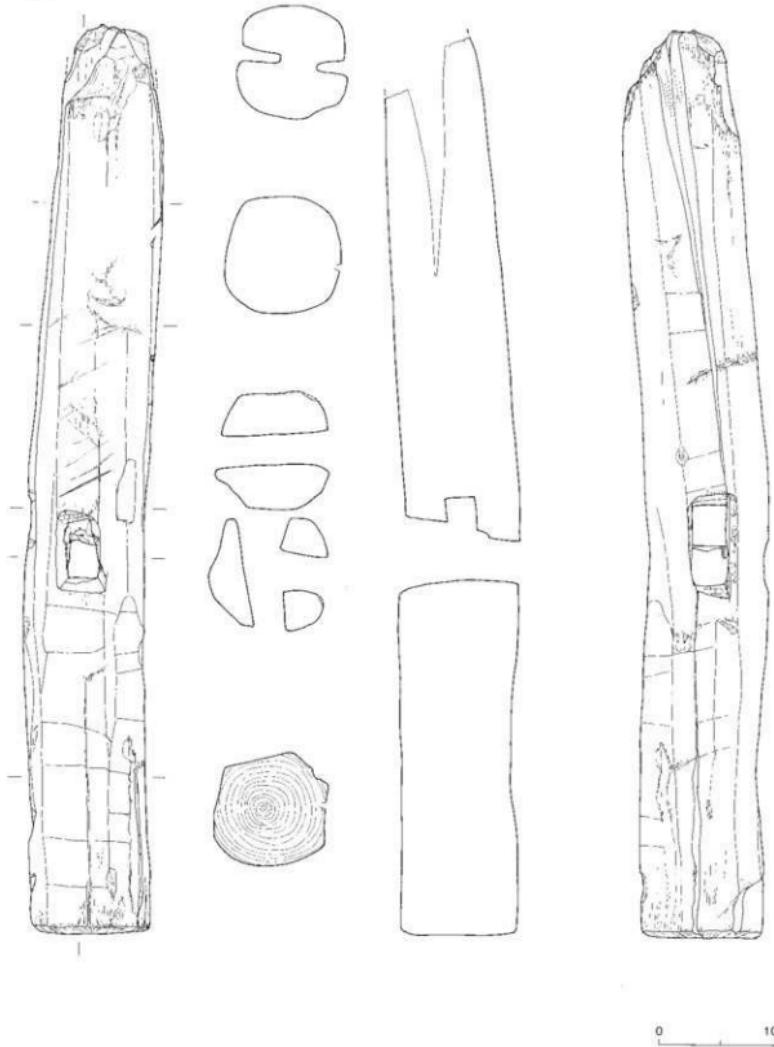
他に斜格子の切り込みが入る。199は長さ23.5cm、幅2.3cm、厚さ2mmを測る。釘孔が1カ所開いている。200～203は井筒の柱である。203はほぼ全面に加工痕が見られるが、他の3本は未加工のまま表面が一部残る。200は北西隅、201は南西隅、202は北東隅、203は南東隅の柱で横木を差し込む脇孔が開く。脇孔は柱を貫通しており、横木の先端は柱から突き出していた。横木は南北方向に比べ東西方向が一段低い。それぞれの脇孔は柱内で繋がっており、横木同士が押し合って抜けにくくなっている。ただ脇孔が大きくなり柱が構造的に弱いためか、調査時には4本とも1段目の横木の脇孔から約40cm上の2段目の脇孔の部分で折れて出土した。204～210は横木で204は完形で長さ1mを測る。第24図の断面で細い線で囲んだ部分が人為的な加工部分である。両端の一部のみ加工したものが多い。SE297(第25図) 調査区西侧に位置し、SE320に切られる。平面は東西に長い楕円形を呈し、長径246cm、深さ145cmを測る。掘方下端は疊層に達する。検出面から60～100cm前後に多くの平坦面を持ち、複雑な掘方を呈す。平坦面からの掘方は楕円形を呈す。井筒は残っていないが、井戸廃棄時に抜い

200(A)



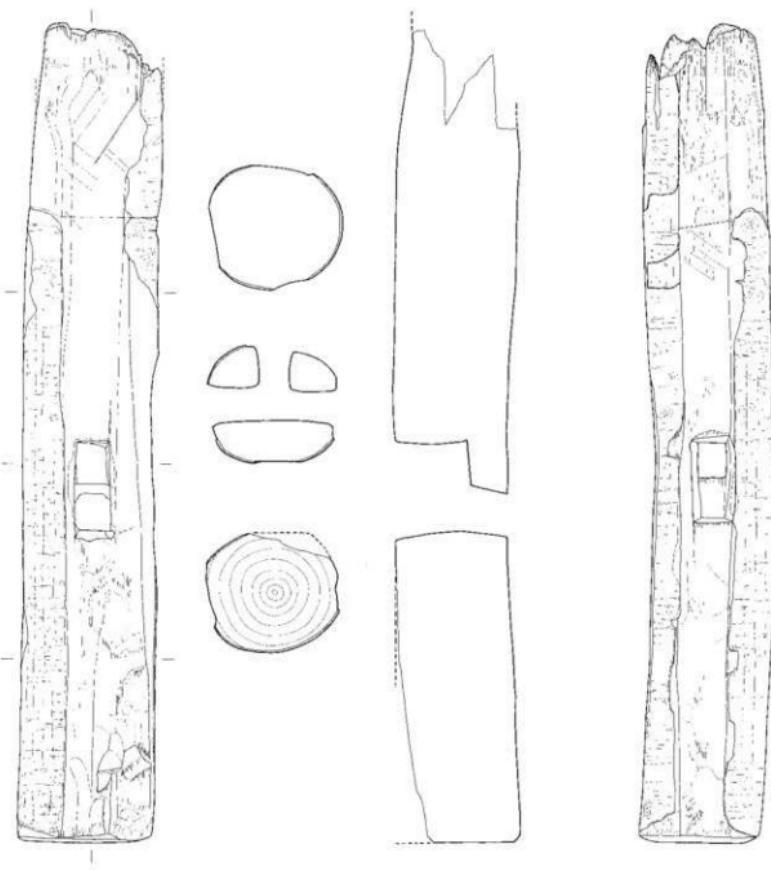
第20図 SE287井戸桿柱実測図1(1/4)

201(B)



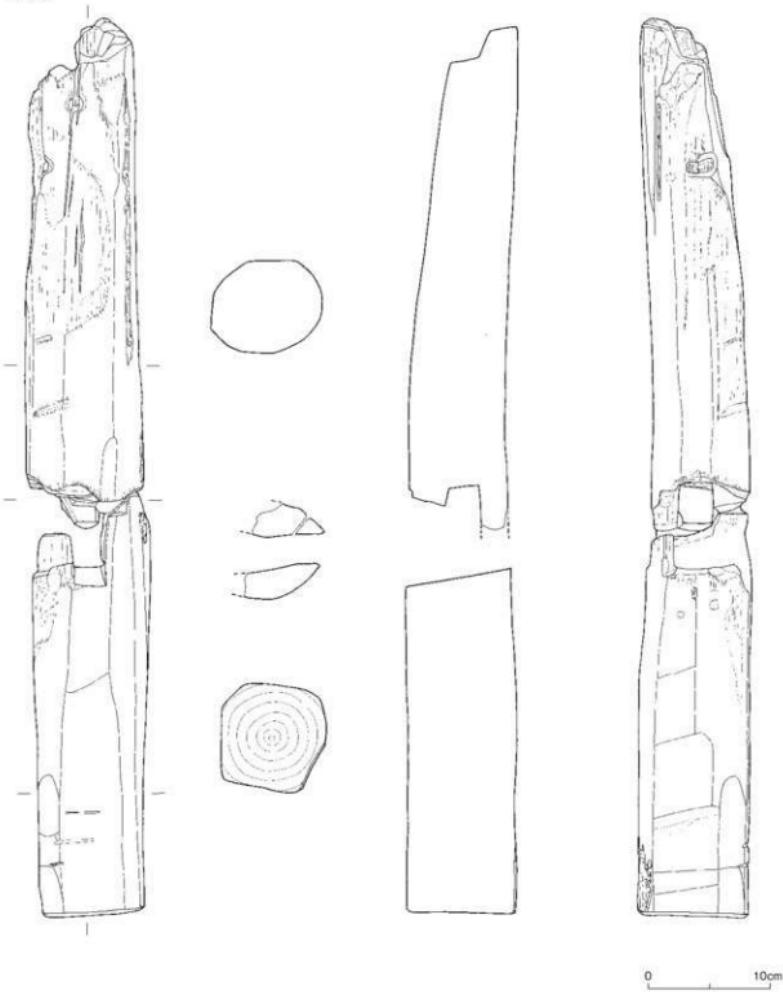
第21図 SE287井戸枠柱実測図2(1/4)

202(C)

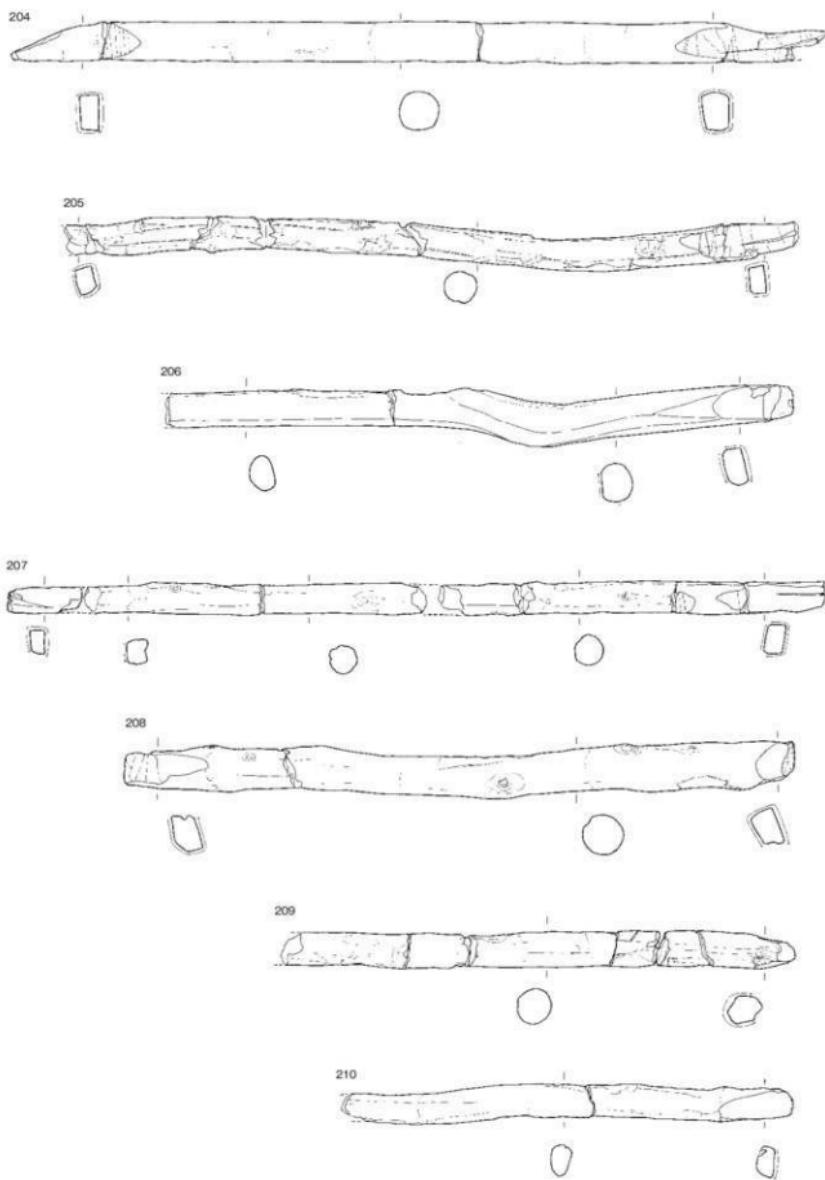


第22図 SE287井戸桿柱実測図3(1/4)

203(D)



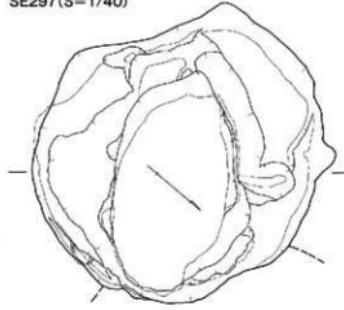
第23図 SE287井戸柱柱実測図4(1/4)



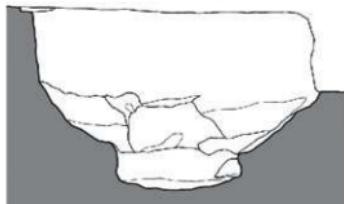
※矢印の範囲は加工部分を表す

第24図 SE287井戸枠横木実測図(1/6)

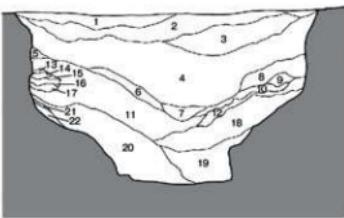
SE297(S=1/40)



H=5.60m



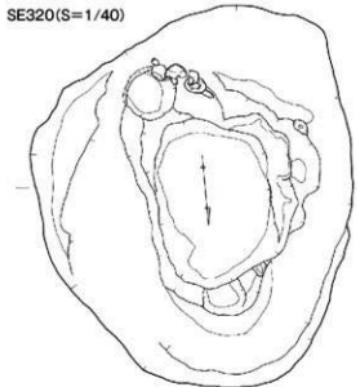
H=5.60m



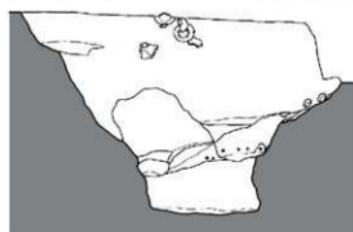
SE297 A=黄褐色シート  
106層地土。A6cmと白色砂を多く含む  
118層地土。白色砂多く含む 堆積は右下  
120層地土。AG~15cmと白色砂を多く含む  
122層地土。白色砂多量と炭化物少量を含む  
124層地土。白色砂多量と炭化物少量を含む  
126層地土。134層地土。144層地土  
150層地土。160層地土。177層地土  
188層地土。A6cmと白色砂を少量含む  
189層地土。A6cmと白色砂を少量含む  
190層地土。青灰褐色質土ブロック含む  
200層地土。青灰褐色質土ブロック(1cm)を少  
量含む  
211層地土。シート  
222層地土。  
褐色地土

106層地土。A6cmと白色砂を多く含む  
118層地土。白色砂多く含む 堆積は右下  
120層地土。白色砂多く含む  
122層地土。白色砂多量と炭化物少量を含む  
124層地土。白色砂多量と炭化物少量を含む  
126層地土。134層地土。144層地土  
150層地土。160層地土。177層地土  
188層地土。A6cmと白色砂を少量含む  
189層地土。A6cmと白色砂を少量含む  
190層地土。青灰褐色質土ブロック含む  
200層地土。青灰褐色質土ブロック(1cm)を少  
量含む  
211層地土。シート  
222層地土。

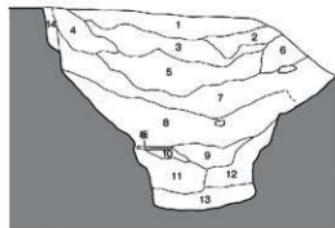
SE320(S=1/40)



H=5.60m



H=5.60m

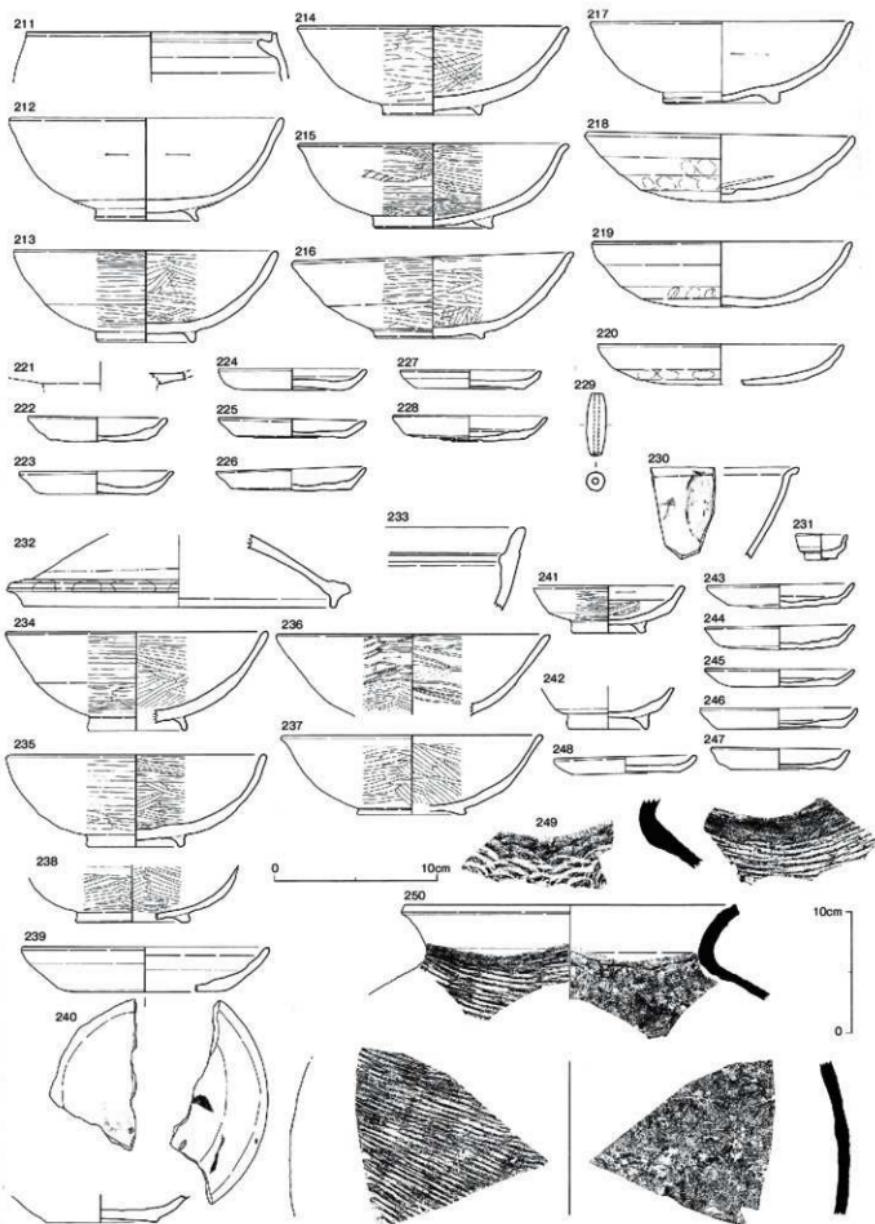


SE320 A=黄褐色シート  
106層地土。炭化物小片を全体に含む  
128層地土。白色砂とA小プロック多く  
含む  
130層地土。Aを右下がりの層理状に含む  
140層地土。A小プロックと砂を多く含む  
150層地土。粗砂と細砂を少量含む  
160層地土。A6cmと白色砂を含む

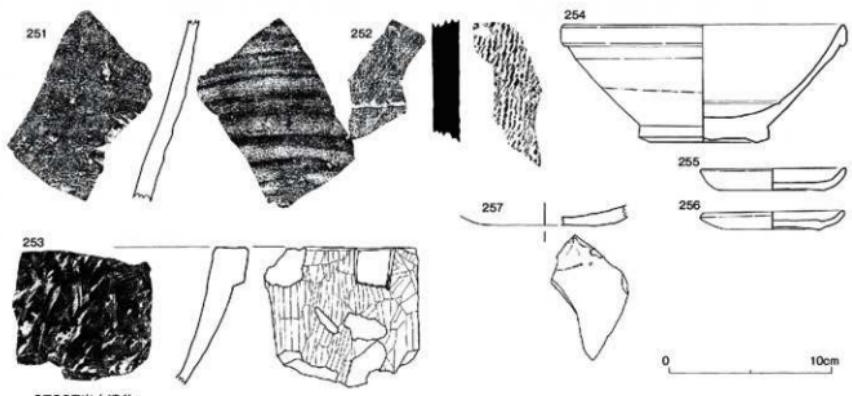
170層地土。A6cmと白色砂を含む 6層  
217層地土。シート  
189層地土。青灰褐色シートを少量含む  
190層地土。砂を多く含む  
10青灰褐色  
11黑褐色土  
12黑褐色土。粗砂を多量に含む  
13黑褐色粘質土  
14暗褐色土

0 1m

第25図 SE297-SE320遺構実測図(1/40)



第26図 SE297遺物実測図1(1/3-1/4)



第27図 SE297・SE320遺物実測図(1/3)

たものと思われる。出土遺物等から12世紀中頃と考えられる。出土遺物(第26・27図 211~256)。211~229は平坦面から上で出土した。211は陶器壺、212~216は瓦器椀、217は土師椀である。218~220は土師坏で、底部はヘラ切りで板状圧痕が残る。221は緑釉陶器である。小片であるが高台付の皿である。222~228は土師皿で222と223はヘラ切りで板状圧痕が残る。224~228は糸切りで板状圧痕が残る。229は土鍤である。長さ3.7cm、径1.1cmを測る。230~253は平坦面より下の井筒掘方で出土した。230は白磁碗、231は白磁の蓋で径3.2cmを測る。232は陶器蓋、233は陶器鉢口縁である。234~237は瓦器椀、238は土師椀、239・240は土師坏で239は底部切り離し後ナデを施す。

板状圧痕が残る。240は糸切りで内底部に墨痕が残る。241・242は高台付の瓦器皿である。243～248は土師皿で243から245はヘラ切りで板状圧痕が残る。246～248は糸切りで、248は板状圧痕が残る。249・250須恵器甕である。外面全体に密な平行タタキを施す。251は須恵器の甕もしくは瓶である。252は須恵器の平瓦である。縄目のタタキを施す。253は滑石製の石鍋である。254～256は井筒内から出土した。254は白磁碗IV類、255・256は土師皿である。底部は糸切りで板状圧痕が残る。257は土師坏片である。外底部にはナデを施し、板状圧痕が残る。外底部に墨痕が残る。

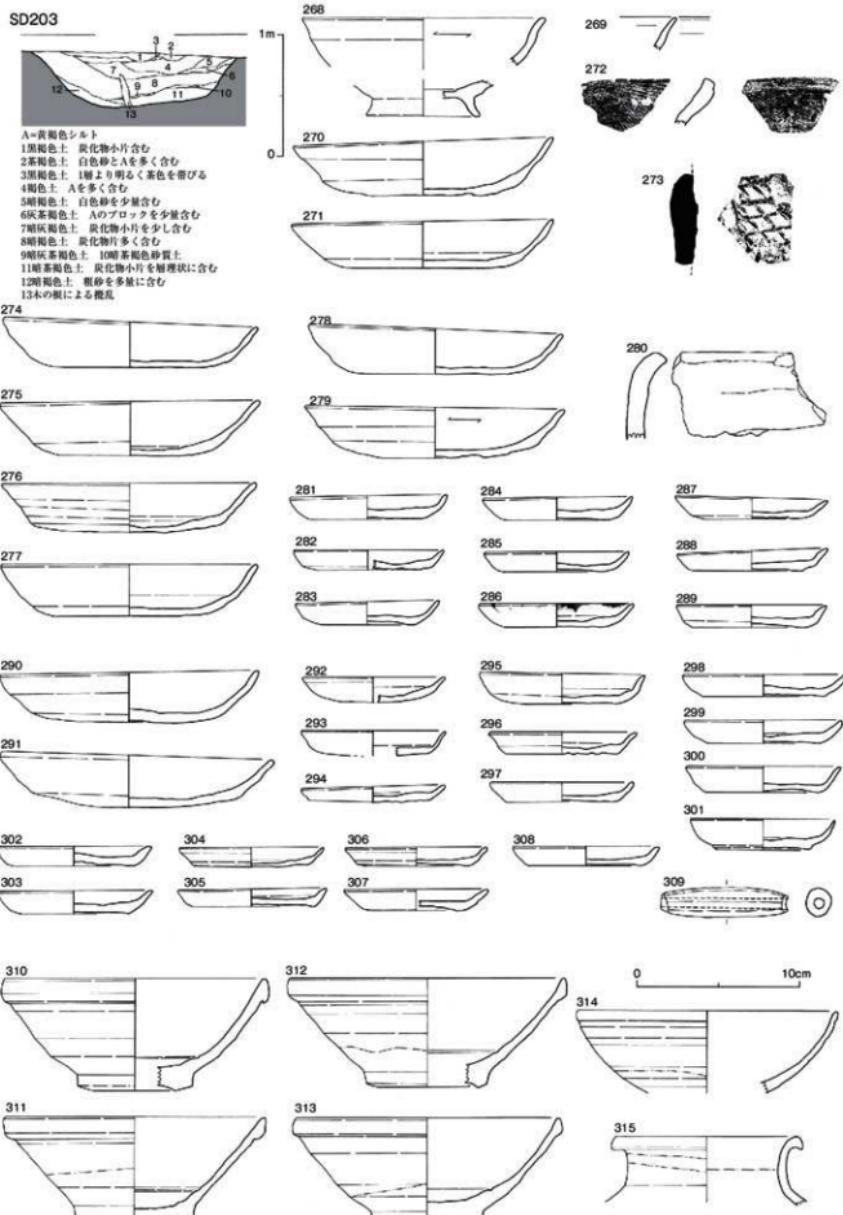
SE317(第14図) 調査区中央北西寄りに位置する。平面は東西に長い楕円形である。現状で径1.4m、深さ168cmを測る。壁面には多くのテラスが見られる。井筒の痕跡はなく素掘りである。掘込みが疊層まで達していないが、若干の湧水が見られた。出土遺物(第15図 099・100)099は土師坏である。切り離しは不明で板状圧痕がある。100は黒色B類碗である。底部中央に焼成後の穿孔がある。貿易陶磁等は出土していない。土師坏の切り離しが判るのは小片であるがヘラ・糸が1点ずつ出土している。焼けた粘土塊や鉄滓が出土している。11世紀中頃から後半か。

SE318(第14図) 調査区中央西寄りの北端に位置する。平面は若干東西に長く、径89cm、深さ119cmを測る。掘り込みは垂直に近く、底面から25～60cm上の壁面は北東側を除いて大きくえぐれている。井筒の痕跡はなく素掘りである。掘方が浅く疊層に達していないため、調査中に湧水はなかった。出土遺物は貿易陶磁等は出土していない。時期不明の須恵器鉢の他、土師椀や土師坏が出土した。土師坏は切り離しが判る5点は全てヘラ切りである。鉄滓が2点出土した。時期は11世紀後半頃か。

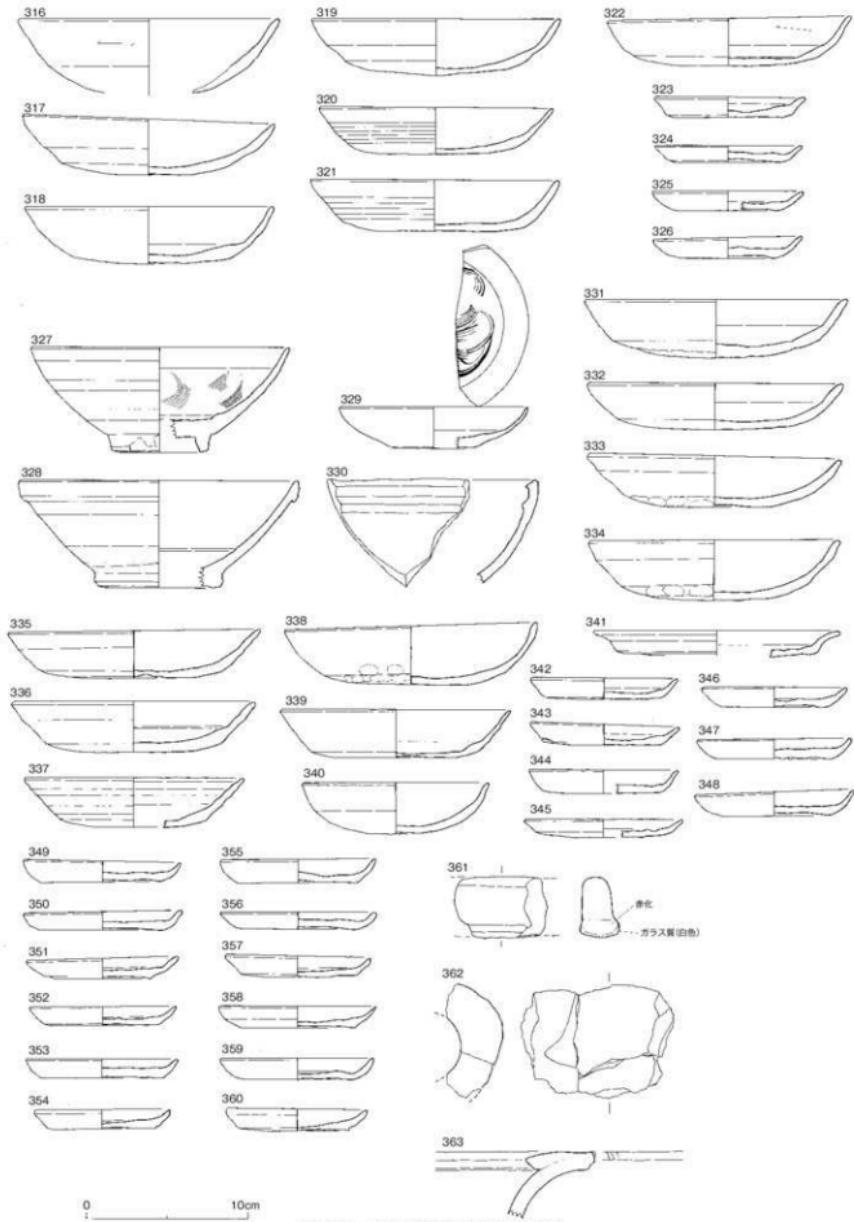
SE320(第25図) 調査区西側に位置しSE297を切る。平面は南北に長い不整楕円形で長径3.2m、深さ1.63mを測る。断面は検出面から1.2mは緩やかにほぼまりながら所々に平坦面を持つ。1.2mから下はほぼ垂直に掘り込む。平坦面から下の掘り込みは長径1.8mの楕円形を呈す。平坦面の上の崖面に径2cm程の孔が並ぶ。井筒を支える棒の痕跡か。井筒の痕跡は見られなかった。出土遺物(第27図 258から267)。258・259は越州窯系青磁碗である。260は黒色A類碗、261は土師椀、262は陶器鉢である。263は黒色土器である。外面は摩滅著しい。器種は不明だが器壁が1.5cmと厚く緩やかなカーブを描く大型の器である。264は土師器甕である。外面にタタキの痕跡が残り、煤が附着する。266～267は須恵器の平瓦である。265は縄目、266・267は斜格子のタタキを施す。

## 2) 溝

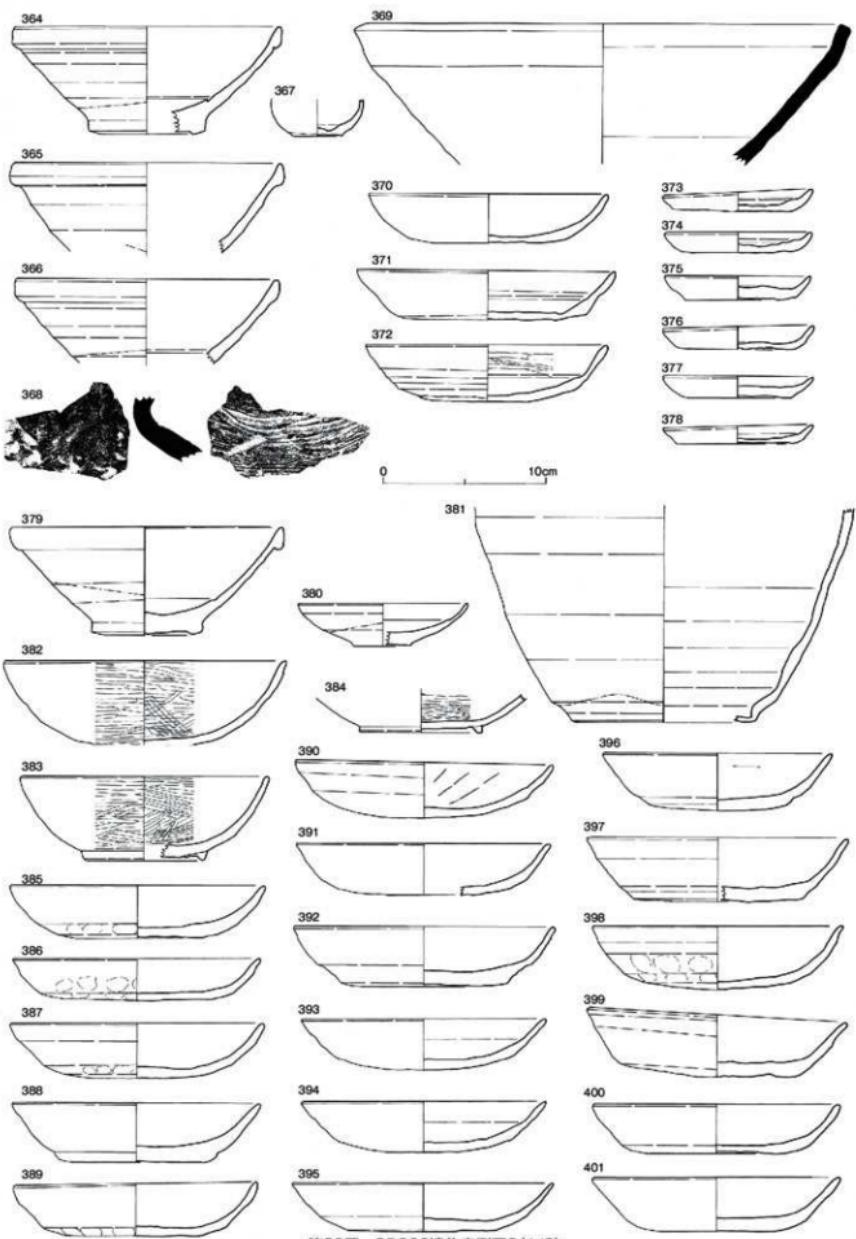
SD203(第28図) I区 SD086の続きである。近世の溝で3つに寸断されており、東から203-1、-2、-3とする。特に203-2と-3からは白磁碗や土師坏・皿等多くの遺物が出土した。出土状況から多くは南側から廃棄されたものである。出土遺物(第28・32図 268・287)。268・273は203-2の上層から出土した。268は黒色A類椀、269は黒色B類椀、270・271はヘラ切りの土師坏で板状圧痕が残る。272は瓦質鉢、273は須恵器の平瓦である。274～289は203-2中層から出土した。274～279は土師坏である。底部切り離しはいずれもヘラ切りで板状圧痕が残る。281～289は土師皿である。底部切り離しは281がヘラ切りで板状圧痕が残る。282～289は糸切りで284～289は板状圧痕が残る。286は灯明皿として使用され、口縁部数カ所に煤が付着する。290～309は203-2の中～下層から出土した。290・291はヘラ切りの土師坏で板状圧痕が残る。292～308は土師皿である。292～296はヘラ切りで295と296には板状圧痕が残る。297～308は糸切りで302～308は板状圧痕が残る。309は土鍤である。長さ27cm、径1.8cmを測る。310～326は203-2の下層から出土した。310～314は白磁碗、315は白磁壺、316は瓦器椀である。317～322はヘラ切りの土師坏で320～322は板状圧痕が残る。323～326は土師皿で323はヘラ切り、324はヘラ切りで板状圧痕、325・326は糸切りで板状圧痕が残る。



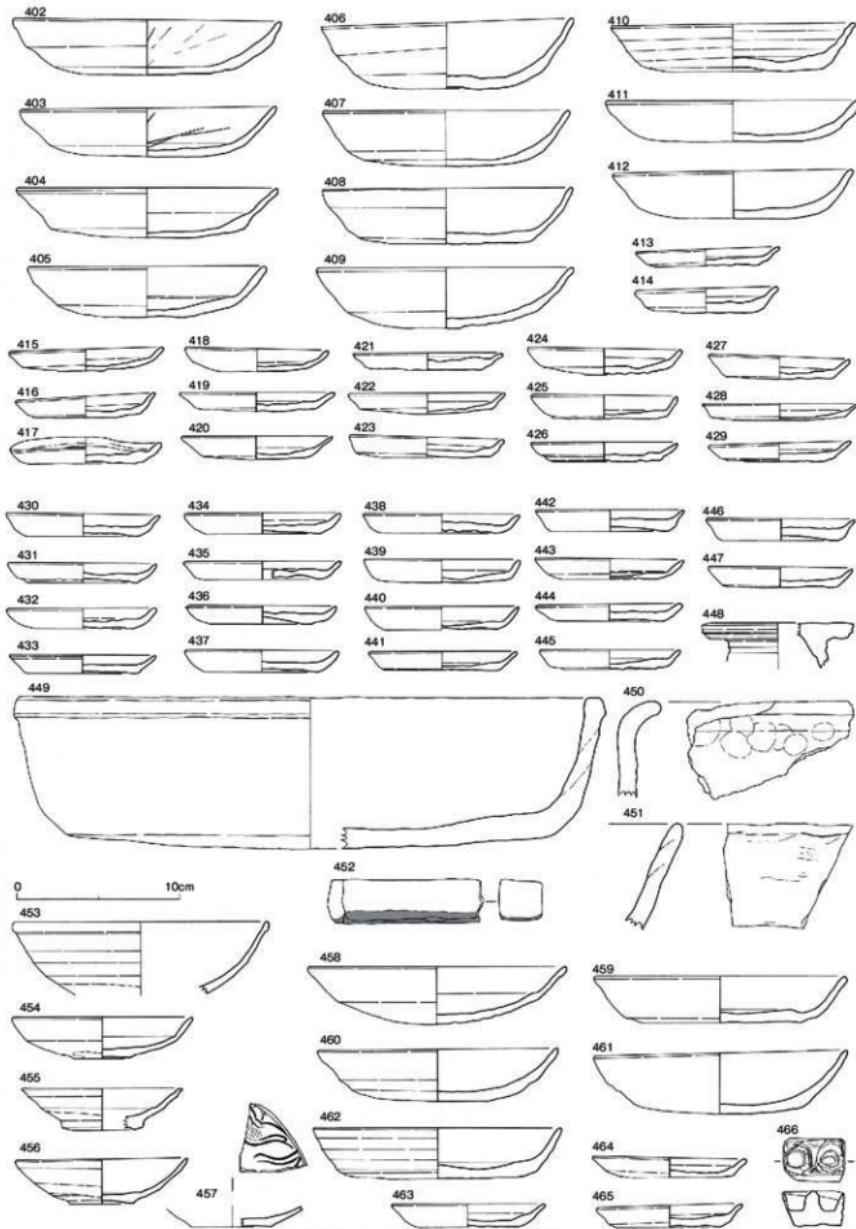
第28図 SD203構造実測図(1/40)・遺物実測図1(1/3)



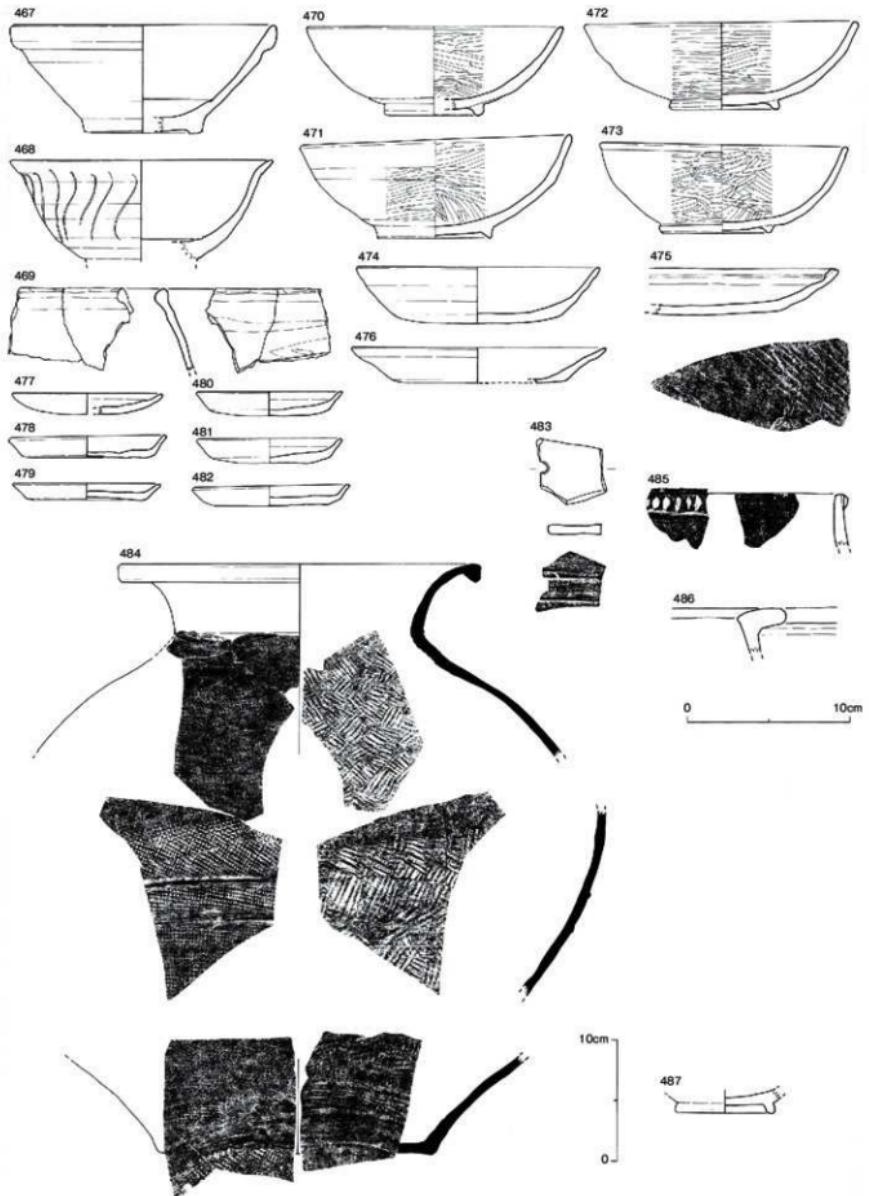
第29図 SD203遺物実測図2(1/3)



第30図 SD203遺物実測図3(1/3)



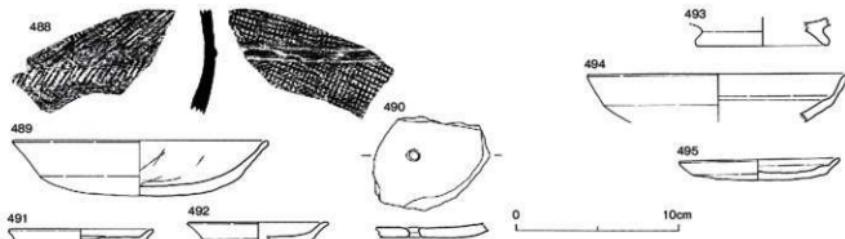
第31図 SD203遺物実測図4(1/3)



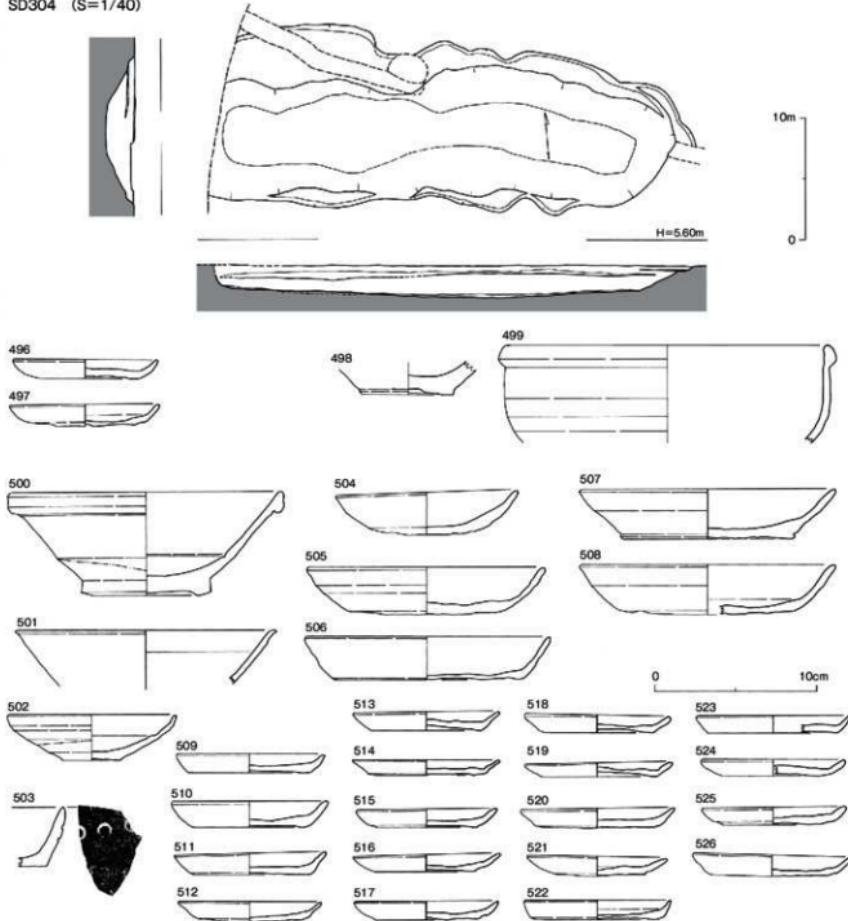
第32図 SD203遺物実測図5(1/3・484のみ1/4)

る。327～363は203-2全体から出土したものである。327・328は白磁碗、329は白磁皿、330は陶器鉢である。331～340はヘラ切りの土師坏で335～340は板状圧痕が残る。341～360は土師皿である。341～345はヘラ切りで345は板状圧痕が残る。341は復元口径15cmを測る。346～360は糸切りで349～360は板状圧痕が残る。361は棒状の土製品で積み上げて炉壁として使用したため、図の下側が被熱している。362は羽口、363は弥生時代中期の壺である。364～378は203-3上層から出土した。364～366は白磁碗、367は白磁小壺、368は須恵器甕、369は須恵器鉢である。370～372はヘラ切りの土師坏で371と372は板状圧痕が残る。373～378は土師皿で373・374はヘラ切りで板状圧痕が残る。375～378は糸切りで375以外は板状圧痕が残る。379～452は203-3の中層から出土した。379は白磁碗IV類、380は白磁皿VI-1b、381は陶器壺、382～384は瓦器椀である。385～412は土師坏で底部切り離しは408以外ヘラ切りである(408は糸切りで板状圧痕が残る)。396はヘラ切り後ナデを施し、397～407と409～412は板状圧痕が残る。413～447は土師皿である。413～429はヘラ切りで413・414以外は板状圧痕が残る。417は歪みが大きく、口縁に煤が付着する。430～447は糸切りで438～447は板状圧痕が残る。448は器台か。復元口径9.2cmを測る。449～451は土師質の鉢である。449は口径39cmを測る。外側に煤、内側に炭化物が附着する。452は断面方形の棒状土製品で図の下面が被熱のためガラス化している。361と同様に積み上げ炉として使用する。453～466は203-3の中～下層から出土した。453は白磁碗類、454～457は白磁皿である。458～463は土師坏である。全てヘラ切りで462以外は板状圧痕が残る。463～465は土師皿で、全てヘラ切りで板状圧痕が残る。466は滑石製の容器である。467・468は白磁碗、469は陶器鉢、470は土師椀、471～473は瓦器椀である。474～476は土師坏である。474・475はヘラ切りで、475は板状圧痕が残る。476はナデを施しており、不明。477～482は土師皿である。477～481はヘラ切りで477以外は板状圧痕が残る。482は糸切りで板状圧痕が残る。483は土師坏の底部で焼成前の穿孔あり。484は朝鮮陶磁の壺である。破片は203-3の上層から中層にかけて出土した他、周囲の遺構からも出土している。内外面に胴部全面にタキを施すが、外面は胴部中央を除きナデ消し、内面は胴部は軽いナデ、底部近くは強くナデを施す。内外面とも暗青灰色で胎土中央は赤茶褐色を呈す。485は突帯文の甕、486は弥生時代中期の壺口縁である。487は白釉陶器碗である。

SD246-272(第12図) 調査区中央に位置する東西方向の溝である。調査区中央に位置しSD203を切る。幅50～80cm、深さ21cmを測る。SD247と同じ溝の可能性がある。SD203が埋没した後にそれに沿う様に掘られており、深さは浅いものの区画用の溝と思われる。12世紀後半から13世紀前半か。出土遺物(第33図488～492)。488は朝鮮陶磁壺の破片で484と同一個体と思われる。489・490は土師坏である。489はヘラ切りで板状圧痕が残る。490は摩滅のため不明で中央に穿孔がある。491・492は土師皿である。491は糸切りと思われるが摩滅のため不明瞭。492はヘラ切りである。



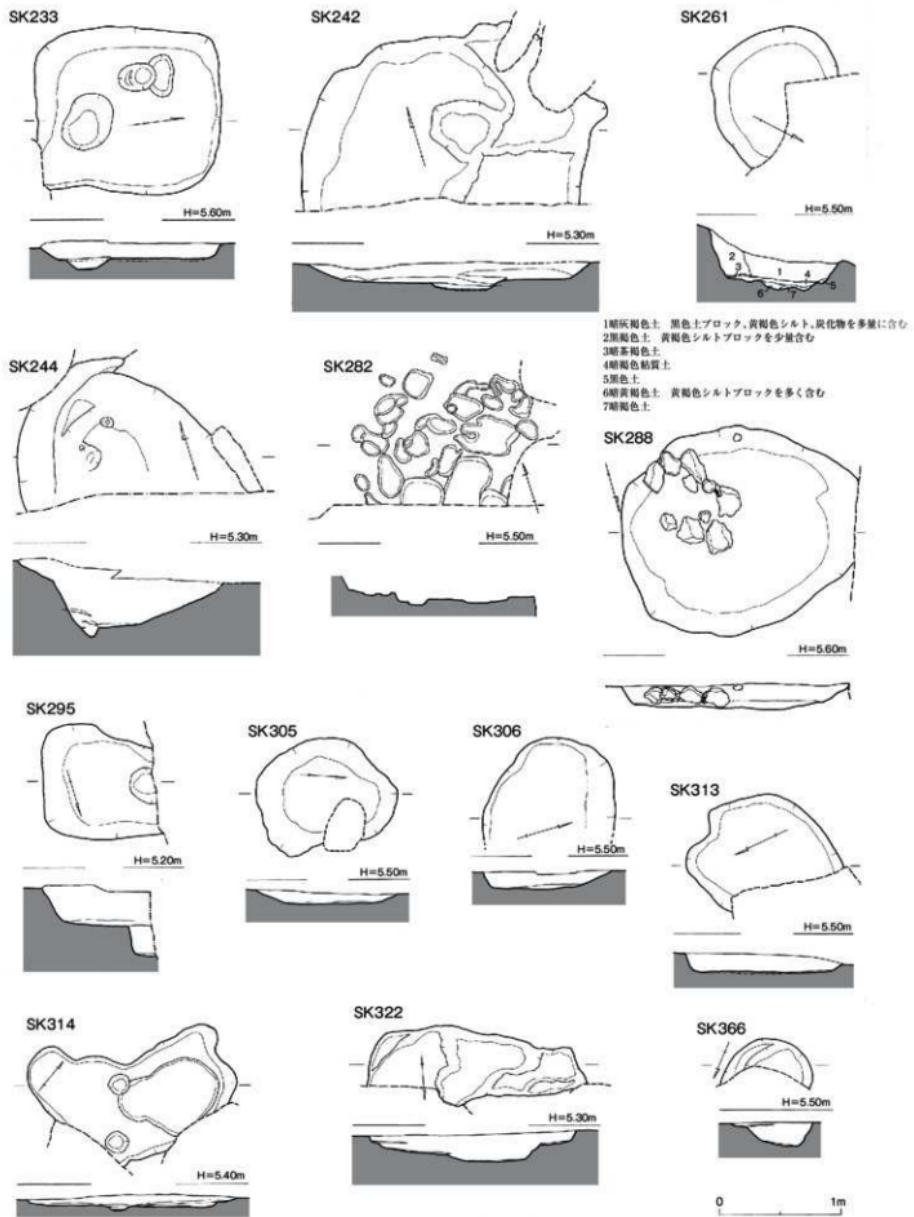
第33図 溝出土遺物実測図(1/3)



第34図 SD295遺構実測図(1/40)・遺物実測図(1/3)

SD247(第12図) 調査区中央西側に位置する東西方向の溝で西端をSE287に切られる。幅は最大で80cm、深さ16cmを測る。須恵器壺等が出土した。土器はいずれも細片である。

SD304(第34・35図) 調査区北西に位置する東西方向の溝である。長さ約4m、幅は最大で1.5m、深さ25cmを測る。出土遺物(第33図493~495)。493は黒色B類碗の底部である。494は土師椀、495は土師皿でヘラ切りである。その他須恵器壺、土師壺・土師皿(いずれもヘラ切りが多い)が出土した。11世紀後半~12世紀初め頃と考えられる。



第35図 土坑実測図(1/40)

### 3) 土坑

SK233・331(第35図) 調査区中央に位置する。主軸をN・8°・Eにとる。隅丸長方形を呈し、長径1.5m、深さ15cmを測る。底面南側に柱穴状の掘り込みがある。16世紀頃か。

SK242(第35図) 調査区南端に位置し、遺構の南半は調査区外に延びる。現状で東西2.3m、南北1.4m、深さ15cmを測る。底面中央に浅い掘り込みがある。12世紀後半頃か。出土遺物の496・497(第36図)は糸切りの土師皿である。497には板状圧痕が残る。その他陶器壺、白磁碗等が出土した。

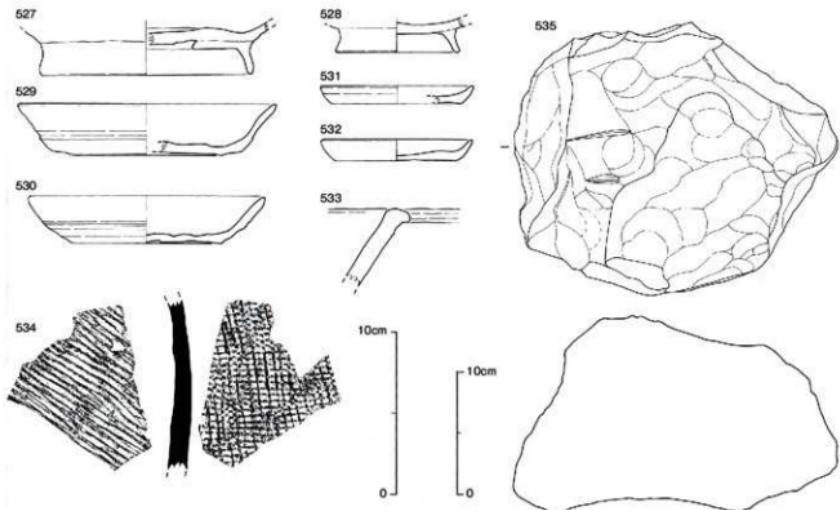
SK244(第35図) 調査区南東端に位置し、遺構の南半が調査区外に延びる。現状で南北1.1m、東西2m、深さ65cmを測る。白磁碗、土師壺等が出土した。12世紀代か。

SK261(第35図) 調査区中央に位置する。搅乱に切られ、規模は不明である。龍泉窯系青磁碗や白磁類が出土した。12世紀後半から13世紀頃か。

SK282(第35図) 調査区南端中央部に位置する。こまかな凹凸が集中する。SD 203の西端に近く、関連する遺構の可能性がある。遺物は陶器片や土師皿が出土したがいずれも小片である。

SK288(第35図) 調査区南西側に位置する。楕円形を呈し長径2m、深さ20cmを測る。底面上で10～30cm程の礫が11個出土し、そのうち4個が熱により赤変していた。同安窯系青磁碗や陶器大甕等が出土しており、12世紀後半から13世紀前半頃と思われる。出土遺物(第36図 527～535)。527は土師椀、528は黒色A類椀である。529・530は糸切りの土師壺で板状圧痕が残る。531・532は糸切りの土師皿である。533は土師質の鉢、534は須恵器の甕である。535は砂岩製の砾石で表面は熱を受け全体が剥離している。

SK295(第35図) 調査区西端に位置し遺構の西半が調査区外に延びる。現状で東西1m、深さ32cmを測る。底面に柱穴状の掘込みがある。越州窯系青磁碗や白磁碗が出土した。12世紀中頃～後半か。出土遺物(第35図 498・499)。498は越州窯系青磁碗である。499は白磁鉢で口径20.6cmを測る。



第36図 SK288出土遺物実測図(1/3-535は1/4)

表2 周辺調査28次出土動植物遺存体

| 地区  | 地種番号        | 大分類 | 小分類         | 被覆名 | 生石 | 部分1 | 部分2       | 成長度 | 切痕       | 火熱       | 遺傳      | 時代        |
|-----|-------------|-----|-------------|-----|----|-----|-----------|-----|----------|----------|---------|-----------|
| 001 | II区 SD203-3 | 中層  | 哺乳類 イノシシ・シカ | 肋骨  | 不明 | 底面  |           | 不明  | 歯かぬ遺痕あり  | 白色化      |         | 12世紀中頃    |
| 002 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 シカ      | 上顎  | 左  | M2  | 右         | 後退歯 | 表面高さ約4mm | なし       |         |           |
| 003 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 ウマ      | 下顎  | 左  | M3  | 右         | 後退歯 | 表面高さ約4mm | なし       |         |           |
| 004 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 ウマ      | 中顎骨 | 右  | 成骨  | 内側を欠損     | 不明  | 表面に削痕有り  | なし       |         | 12世紀中頃    |
| 005 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 ネコ      | 下顎  | 右  | 定歯  | 切歯、犬歯け落ち  | 不明  | なし       | イヌの咬痕あり  |         | 12世紀中頃～後半 |
| 006 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 イノシシ・シカ | 馬鹿骨 | 不明 | 鋸歯  | 小片        | 不明  | 不明       | 直行不良 磨耗化 |         |           |
| 007 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 ウマ      | 前歯  | 不明 | 成骨  | 大         | 火熱化 | あり       | なし       |         |           |
| 008 | II区 SE287   | 中層  | 哺乳類 ウニ      | 頭骨  | 不明 | 底面  | 板状剥離      | 火熱化 | なし       | なし       |         |           |
| 009 | II区 SE297   | 上層  | 哺乳類 ウン      | 下顎骨 | 不明 | 成骨  | 表面高さ4mmほど | なし  | なし       | 表面光沢     |         |           |
| 010 | II区 SE297   | 井戸  | 哺乳類 ウン      | 大顎骨 | 生  | 骨部  |           | 不明  | あり       | なし       | ビニアイト析出 |           |
| 011 | II区 SE297   | 井戸  | 哺乳類 ウシ・ウマ   | 馬鹿骨 | 不明 | 鋸歯  |           | 不明  | 不明       | 表面ほとんど剥落 |         |           |

SK305(第35図) 調査区中央に位置する。楕円形を呈し、長径1.2m、深さ10cmを測る。土器小片が20点程出土したが弥生時代前期～中期ものである。弥生時代の可能性がある。

SK306(第35図) 調査区中央部に位置する。II-1・2区にまたがっていてII-1区では確認できなかった。出土した土師壺・土師皿とも糸切りが多く12世紀後半から13世紀頃と思われる。

SK313(第35図) 調査区西半に位置する。平面は不整形を呈す。12世紀後半から13世紀か。

SK314(第35図) 調査区西端に位置する。青磁片や土師壺等が出土した。12世紀後半か。

SK322(第35図) 調査区西端に位置する。長径1.8m、幅70cmを測る。白磁片などが出土した。

SK366(第35図) 調査区北西に位置し、SE317に切られる。

SK372(第12図) 調査区東側に位置しSD203・246を切る。土師皿が集中して出土した。最初SD203との切り合いで分からずに掘り下げたため遺構の輪郭は不明である。12世紀後半から13世紀初めか。出土遺物(第34図500～522)500～502は白磁、503は質の鉢である。504～508は土師壺である。504～506はヘラ切りで505・506は板状圧痕が残る。507・508は糸切りで板状圧痕が残る。509～526は糸切りの土師皿で513～526は板状圧痕が残る。

#### 4 出土動物遺存体

SD203、SE287、SE297から動物遺存体が出土した。古代の溝と井戸については土壤の水洗洗浄を行い、若干の動植物遺存体が出土した。植物遺存体についてはP48以降の報告に含まれており、動物遺存体については現在分析中である。今回は目視により確認して取り上げたものについて報告する。SD203からはイノシシ・シカの肋骨片が出土した。解体時についた擦痕があり被熱のため白色化している。SE287掘方からはシカ、ウマ、ネコ、イノシシ・シカが出土した。シカは上顎片と下顎が出土しているが、上顎は成→老齢、下顎は臼歯が崩出中の若齢である。ウマは解体痕はないものの骨にイヌの咬痕と思われる傷があり、死後埋葬されずに解体後放置されていた可能性がある。

ネコは当時中国から輸入された貴重種で全国的に出土数は少ない。お經を鼠の害から守るために遣唐使が持ち込んだとされ、近隣では太宰府、博多遺跡群、箱崎遺跡などで出土している。SE297からはホソウミニナ、ウシ等が出土した。ホソウミニナは海棲の巻貝で食用に持ち込まれたものである。ウシは解体痕はないものの井戸に廃棄されていることから食用にされたと考えられる。

この時期出土数が少ないネコが出土したことは12世紀頃の原遺跡で書類等を守るためにネコが飼われていた事を示している。このことからも12世紀中頃には書類を多く保存する施設があり、それは官衙的施設であった可能性が高いと考えられる。

#### 5 小結

28次調査では縄文時代末～弥生時代前期、古代末～中世前半、近世の遺構を確認した。特に古代については区画の溝と多量の遺物が出土するなど多くの成果を上げることができた。溝は当初方形に巡る可能性を考えていたが、SD086・203がII区中央で立ち上がり、それに対応するように続く溝が無いことから様相が不明であったが、平成24年度の調査でII区西側の第一次調査で同時期と思われる南北方向の溝が2条出土した。溝はSD203の延長上で屈曲せずに延びることからSD086・203は官衙的施設の外周を巡る溝ではなく、中を区画する溝の可能性が出てきた。遺構の様相は想像していたよりも複雑になるとと思われ、今後の周辺調査に期待したい。

表3 第28次調查這樣一覽1

表4 第28次調查彙整一覽2

表5 第28次調査遺構一覧3

| 番号         | 地名           | 面積    | 形態    | 大きさ                | 時代            | 報告 | ○は遺構生れあり、△は遺構のみまたは文書のみ、□は既存年度報告予定  | 備考                    |
|------------|--------------|-------|-------|--------------------|---------------|----|------------------------------------|-----------------------|
| 228        | 主区 桜井町遺構     | SP    | 円形    | 40×30×21           | 近世以前          | ○  | ○は昭和(第一古代)、土師罐(1点)、白磁器(1点)、土器(5点)  | SK233に記載。             |
| 230(201)   | 主区 土坑        | SE    | 方形    | 148×135×15         | 12世紀          | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | SK231に記載。             |
| 232        | 主区 桜井町遺構     | SP    | 圓角方形  | 27×36×17           | 不明            | ○  | ○は昭和(第一古代)、土器(2点)                  | 既存年度報告予定。             |
| 235        | 主区 舟芦        | SE    | 楕円形   | 347×321×           | 12世紀中頃～後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 235舟籠      | SE           |       |       |                    | 12世紀中頃～後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 239圓方      | SE           |       |       |                    | 12世紀中頃～後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 236        | 主区 舟芦        | SE    | 不等角円形 | 182×157            | 12世紀後半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 236舟籠      | SE           |       |       |                    | 12世紀後半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 236圓方      | SE           |       |       |                    | 12世紀後半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 237        | 主区 鹿乳        | SE    | 馬蹄形   | 94×80×6            | 近代            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 238        | 主区 舟芦        | SE    | 不等角円形 | 182×157            | 12世紀前半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 239-1      | 主区 墓         | SD    |       | 墓大幅110cm、深24cm     | 近世以降          | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 239-2      | 主区 墓         | SD    |       | 墓大幅110cm、深24cm     | 近世以降          | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 239-3      | 主区 墓         | SD    |       | 墓大幅110cm、深24cm     | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 240(238)   | 主区 墓         | SD    |       | 墓25cm              | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 241(239)   | 主区 墓         | SD    |       | 墓25cm              | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 242        | 主区 土坑        | SK    | 楕円形   | 170×10×147×16      | 12世紀後半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 243        | 主区 穴式遺構      | 不等角円形 |       |                    | 12世紀後半以降      | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 244        | 主区 土坑        | SK    | 円形    | 165cm×84cm         | 12世紀?         | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 245        | 主区 鹿乳        | SE    | 馬蹄形   | 113×12×53×3        | 近代            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 246        | 主区 土坑        | SD    |       | 墓大幅110cm、深24cm     | 12世紀前半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 247        | 主区 墓         | SD    |       | 墓16cm、墓底13cm       | 12世紀後半        | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 248        | 主区 舟芦        | SE    | 楕円形   |                    | 12世紀後半～12世紀   | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 249        | 主区 穴式遺構      | SP    | 椭圆形   | 20×26×20           | 近世～近代         | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 250        | 主区 土坑        | SE    | 椭圆形   | 20×21×17           | 近世～近代         | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 251        | 主区 穴式遺構      | SP    | 椭圆形   | 14×14×13           | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 252        | 主区 鹿乳        | SE    | 円形    | 20×20              | 近代            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 253        | 主区 穴式遺構      | SP    | 椭圆形   | 13×13×34×32×桂枝(1m) | 12世紀?         | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 254        | 主区 穴式遺構      | SP    | 円形    | 32×23×20           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 255        | 主区 穴式遺構      | SP    | 円形    | 46×20×30           | 古墳後期          | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 256        | 主区 穴式遺構      | SP    | 円形    | 20×20×15           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 257        | 主区 穴式遺構      | SP    | 円形    | 34×24×22           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 258        | 主区 穴式遺構      | SP    | 円形    | 30×25×20           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 259        | 主区 穴式遺構      | SP    | 円形    | 50×47×34           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 260        | 主区 土坑        | SK    | 楕円形   | 123×103×3          | 12世紀後半～12世紀   | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 262        | 主区 墓         | SD    |       | 墓70cm以上、深25cm      | 近世～近代         | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 263        | 主区 焱状遺構      | SK    | 方形    | 約60×(3.5×1m)×40    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 264        | 主区 土坑        | SK    | 馬蹄形   | 275×(163×1)×20     | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 265        | 主区 穴式遺構      | SK    | 方形    | 30×20×17           | 近世～近代         | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 266        | 主区 穴式遺構      | SP    | 椭圆形   | 30×20×17           | 古墳後期          | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 267        | 主区 墓         | SK    | 馬蹄形   | 260×(25×35)        | 近代            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 268        | 主区 穴式遺構      | SP    | 椭圆形   | 20×20×15           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 269        | 主区 穴式遺構      | SP    | 椭圆形   | 34×27×24           | 不詳            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 270(263)   | 主区 焱状遺構      | SK    | 方形    | 95cm×(5.5×1m)×40   | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 271(263)上層 | 主区 焩状遺構      | SK    | 方形    | 95cm×(5.5×1m)×40   | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 271(263)下層 | 主区 焩状遺構      | SK    | 方形    | 95cm×(5.5×1m)×40   | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度報告予定。             |
| 272        | 主区 墓         | SD    |       | 墓50cm、深21cm        | 12世紀後半～12世紀前半 | △  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。に切られても土器は見つかる。 |
| 273(263)   | 主区 焩状遺構      | SK    | 方形    | 約60×(5×1m)×40      | 古墳?           | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 273(263)上層 | 主区 焩状遺構      | SK    | 方形    | 95cm×(5.5×1m)×40   | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 274(263)   | 主区 20世紀前     | SD    |       | 20世紀前              | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 275        | 主区 墓?        | SD    |       | 中世以前               | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 276        | 主区 焩状遺構      | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 276(263)   | 主区 1層・埴輪・色變窓 | SE    | 方形    | 100cm×100cm×40     | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 277(263)上層 | 主区 1層・埴輪・色變窓 | SE    | 方形    | 100cm×100cm×40     | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 278(263)下層 | 主区 1層・埴輪・色變窓 | SE    | 方形    | 100cm×100cm×40     | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 279(263)   | 主区 焩状遺構      | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 280(263)上層 | 主区 焩状遺構      | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 281(263)下層 | 主区 焩状遺構      | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 282(263)   | 主区 20世紀前     | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 283(263)   | 主区 1層・埴輪・色變窓 | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 284(263)   | 主区 1層・埴輪・色變窓 | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 285(263)   | 主区 1層・埴輪・色變窓 | SE    | 不詳    |                    | 近世            | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 286        | 主区 舟芦        | SE    | 楕円形   | 123×128            | 近世後半～近代初期     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 287上半      | 主区 舟芦        | SE    | 楕円形   | 97cm               | 12世紀中頃～後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 287上層      | 主区 舟芦        | SE    | 楕円形   | 141×17×27          | 古墳後半～中世前半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 288        | 主区 不透水槽      | SK    | 円形    | 93×10×10           | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 289        | 主区 不透水槽      | SP    | 不規則円形 | 12×12              | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 290        | 主区 桂井穴式遺構    | SP    | 円形    | 29×(34×g)×17       | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 291        | 主区 桂井穴式遺構    | SP    | 円形    | 41×32×12           | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 292        | 主区 不透水槽      | SK    | 円形    | 93×10×10           | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 293        | 主区 不透水槽      | SP    | 不規則円形 | 12×12              | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 294        | 主区 桂井穴式遺構    | SP    | 円形    | 29×(34×g)×17       | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 295        | 主区 桂井穴式遺構    | SP    | 円形    | 41×32×12           | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 296        | 主区 不透水槽      | SK    | 円形    | 93×10×10           | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 297        | 主区 桂井穴式遺構    | SP    | 円形    | 29×(34×g)×17       | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 298        | 主区 不透水槽      | SE    | 円形    | 93×10×10           | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 299        | 主区 桂井穴式遺構    | SP    | 円形    | 29×(34×g)×17       | 古墳後半～中世後半     | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |
| 300        | 主区 舟芦        | SE    | 楕円形   | 200×165×           | 12世紀後半～12世紀前半 | ○  | ○は昭和(第一古代)、瓦、瓦蓋、瓦筒、土師瓶(各1点)、土器(4点) | 既存年度切り。               |

表6 第28次調查結構一覽

## 6. 原遺跡第28次調査出土井戸枠材の樹種同定

黒沼保子・佐々木由香（バレオ・ラボ）

### 1. はじめに

福岡県福岡市に位置する原遺跡の第28次調査で出土した井戸枠の樹種同定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、3基の井戸枠に使用されていた木材である。1基ごとに任意に2試料を選び、樹種同定試料とした。試料の内訳は、SE235の桶1段目No.5と桶2段目No.19、SE236の井戸枠No.1とNo.30、SE387の井戸枠No.7とNo.8、計6点である。SE235とSE236の井戸枠は桶、SE287は木組みであり、時期は3基とも12世紀中頃～後半で13世紀までは下らないと考えられている。これらの試料から、剃刀を用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。光学顕微鏡で観察・同定と写真撮影を行った。

### 3. 結果

樹種同定の結果、試料はすべてスギであった。また、木取りはすべて板目であった（表7）。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真をFig1に示す。

- (1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 図版1 1a-1c(SE287 No.7)、2c(SE235 No.5)、3c(SE235 No.19)、4c(SE236 No.1)、5c(SE236 No.30)、6c(SE287 No.8)

仮造管と、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急か穏やかで、晩材部の幅は広い。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。比較的軽軟で切削加工は容易であり、割裂性が大きい。

表7 樹種同定結果

| 遺構    | No. | 樹種 | 木取り |
|-------|-----|----|-----|
| SE235 | 5   | スギ | 板目  |
|       | 19  | スギ | 板目  |
| SE236 | 1   | スギ | 板目  |
|       | 30  | スギ | 板目  |
| SE287 | 7   | スギ | 板目  |
|       | 8   | スギ | 板目  |

### 4. まとめ

本遺跡で同定された井戸枠材はすべてスギであった。この3基に使われている他の井戸枠材もスギの可能性が高い。九州地方における中世の井戸用材としては、削貫き井戸では広葉樹のクスノキ、曲物井戸では針葉樹のヒノキとモミ属が多く確認されている。また、福岡県中村遺跡から出土した板組井戸では、隅柱と棟木はすべてシイ属、側板はシイ属主体でクスノキが少数確認されていた。福岡県内から出土した井戸枠では、弥生時代中期の有田遺跡3次と、古墳時代末期～平安時代初期の東那珂遺跡、鎌倉時代から室町時代前半の下月隅C遺跡でスギの利用が確認されているが（伊東・山田編、2012）、本遺跡のSE235とSE236のような桶の井戸枠でスギの利用は確認されていない。今後、分析例が増加すれば井戸枠の形状ごとに木材利用の傾向がより明確になる可能性がある。

### 引用文献

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－、449p、海青社。

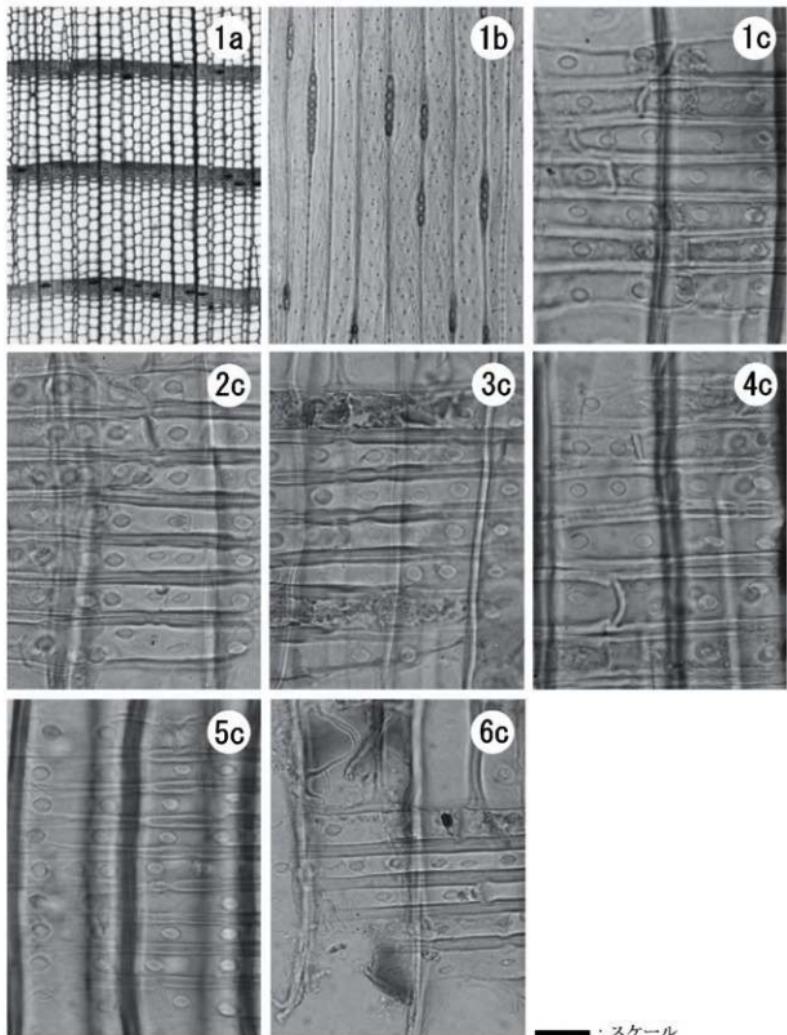


Fig1 原遺跡出土井戸枠材の光学顕微鏡写真

1a-1c. スギ (SE287 No.7)、2c. スギ (SE235 No.5)、3c. スギ (SE235 No.19)、4c. スギ (SE236 No.1)、5c. スギ (SE236 No.30)、6c. スギ (SE287 No.8)  
a: 横断面(スケール=250 μm)、b: 接線断面(スケール=100 μm)、c: 放射断面(スケール=25 μm)

## 7. 原遺跡第28次調査から出土した大型植物遺体

佐々木由香・パンダリ・スダルシャン（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

福岡市早良区に位置する原遺跡は、金屑川と油山川の間の狭い微高地上に立地する複合遺跡である。ここでは、古代～近代初頭の井戸などから出土した種実を同定し、周囲の植生や利用植物を検討した。

### 2. 試料と方法

試料は、水洗試料12試料と水洗済み試料1試料、現地取り上げ試料3試料である。いずれも井戸や溝などの遺構内から採取された。遺構の時期は、井戸であるSE007が11世紀末～12世紀前半、SE078が11世紀後半、SE236が12世紀中頃～後半、SE271が近世、SE286が近世後半～近代初頭、SE287（井筒と井筒内として採取された2試料）が12世紀中頃～後半、SE297が12世紀中頃、SE317が11世紀後半、SE325が12世紀中頃、溝であるSD202と、SD202からつながる池状遺構のSX263が近世と考えられている。

水洗試料の堆積物水洗量は最大300cc（SE007のみ2試料相当分の550cc）とし、300ccに満たない試料はほぼ全量を水洗した。水洗は、最小0.5mm目の籠を用いてパレオ・ラボで行った。それぞれの試料について、肉眼および実体顕微鏡下で大型植物遺体の抽出と同定、計数を行った。計数が困難な試料は、記号（+）で示した。試料は、福岡市教育委員会に保管されている。

### 3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のスギ葉とクロマツ球果、マツ属複維管束亜属葉の3分類群、広葉樹のエノキ核と、クワ属核、ヒサカキ属核、サンショウ属種子、モモ核、アカメガシワ種子、センダン核、クロガネモチ核、ツタ種子、タラノキ核、チャノキ種子、オオカメノキ種子、ガマズミ属種子の13分類群、草本植物ではアサ核と、カラムシ属果実、ミズ属果実、ミズヒキ果実、ヤナギタデ果実、イヌタデ果実、ポンクトタデ果実、サナエタデー・オオイヌタデ果実、タデ属A果実、タデ属B炭化果実、ギシギシ属果実、スペリヒュ属種子、ノミノフスマ種子、ウシハコベ種子、ミドリハコベ種子、アカザ属種子、キケマン属種子、タネツケバナ属種子、キジムシロ属果実、ハギ属炭化種子、シャジクソウ属種子・炭化種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、トウダイグサ属種子、ノブドウ種子、スミレ属種子、メロン仲間種子、ヒヨウタン仲間種子、カラスウリ種子、アリノトウグサ属種子、ヤブジラミ総苞、オカトラノオ属種子、キランソウ属果実、メハジキ属果実、シロネ属果実、イヌコウジ属果実・炭化果実、シソ属果実、ナス種子、ナス属種子、メナモミ属果実、コナギ種子、ヘラオモダカ果実、メヒシバ属果実、ヒエ炭化種子、イヌビエ属有ふ果・炭化種子、イネ穂穀・炭化穂穀・炭化種子、エノコログサ属有ふ果、オオムギ炭化種子、オオムギ・コムギ炭化種子、イネ科炭化種子、スゲ属果実、カヤツリグサ属果実、ハリイ属果実、ホタルイ属果実の54分類群の計70分類群が見いだされた。同定の識別点を全く種実を同定不能炭化種実とした。種実以外には、炭化した子囊菌と生の昆虫遺体がみられたが、同定の対象外とした（表8、9）。

以下に、産出した主な種実について遺構別に記載する（同定不能炭化種実と子囊菌、昆虫は除く）。  
SD202：種実はほとんど含まれていなかった。栽培植物では、メロン仲間とイネがわずかに得られた。

SE007：アカザ属がやや多く、イヌタデとキケマン属、メヒシバ属が少量得られた。これ以外の分類群は、産出数が10点以下であった。栽培植物ではアサヒイネ（穂穀・炭化穂穀・炭化種子）がわ

表8 原遺跡から出土した大型植物遺体1(水洗試料)括弧内は破片数

| 分類群                     | 部位   | 重耕名     |              | SE007  |           | SE018     |           | SE236     |           | SE286     |           | SE287     |           | SE297     |           | SE317   |         | SE363  |  |
|-------------------------|------|---------|--------------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|--------|--|
|                         |      | 茎葉      |              | 茎葉黑色   |           | 茎下層黑色     |           | 井筒下部上     |           | 井筒下部上     |           | 井筒下部上     |           | 井筒内       |           | 井筒      |         | トレンチ底部 |  |
|                         |      | 近世      | 11世紀末～12世紀後半 | 11世紀後半 | 12世紀中頃～後半 | 12世紀後半  | 12世紀後半  | 12世紀後半 |  |
| 水洗量(cc)                 |      | 170     | 550          | 230    | 300       | 300       | 250       | 250       | 250       | 300       | 300       | 300       | 300       | 300       | 300       | 300     | 300     | 300    |  |
| アサ                      | 葉    | 1       |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       | 1       | 1      |  |
| マツ属複数管束系属               | 葉    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 5 (3)   | 2 (2)   |        |  |
| エノキ                     | 枝    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | (2)     |         |        |  |
| クワ属                     | 枝    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       |         |        |  |
| ヒサカキ属                   | 枝    | 2       |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1 (2)   | 21 (6)  | 78 (7) |  |
| サンショウ属                  | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| カシマガシ属                  | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| セイヨウガシ属                 | 枝    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| クロガネモチ                  | 枝    | 1       |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 2       | 5       |        |  |
| ツタ                      | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 5       | 3       |        |  |
| タラノキ                    | 枝    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       |         |        |  |
| チシャノキ                   | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 2       | 1       |        |  |
| カシカクナガキ                 | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 5       | 3       |        |  |
| ガマズミ属                   | 枝    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 3 (1)   | 2 (1)   | 2 (2)  |  |
| アサ                      | 葉    |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | (6)     |         |        |  |
| カラムシ属                   | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 2       | 7       | 2      |  |
| ミズス属                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 13 (1)  | 1       |        |  |
| ミズヒカリ                   | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| アシタバ                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| ボントクダ                   | 果実   | 21 (5)  | 1            | 12 (1) |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       | 1       | 1      |  |
| サナエタデ・オイスター             | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| タデ属A                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| タデ属B                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| ヤマギリ属                   | 果実   | 1       | 2            |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 9 (7)   | 6 (7)   |        |  |
| ヤマギリ属                   | 種子   | 2       |              | 9 (1)  |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 7 (1)   | 1       |        |  |
| ノミノフスマ                  | 種子   | 8       | 2            | 2      |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       | 13      |        |  |
| ウシハヨベ                   | 種子   | 1       | 4            | 4      |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 5 (1)   | 21 (2)  | 1 (1)  |  |
| ミドリハヘベ                  | 種子   | 8 (1)   |              | 9 (1)  |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 25 (3)  | 32 (7)  | 1 (1)  |  |
| アカザ属                    | 種子   | 61 (10) | 21 (9)       | 7 (3)  |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 2 (7)   | 20 (7)  | 1 (1)  |  |
| ヤマツツジ属                  | 種子   | 20      |              | 10     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 32 (28) | 16 (16) | 7 (5)  |  |
| ヤマツツジ属                  | 種子   | 1       | 4            |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 30      | 37 (25) |        |  |
| ヤシジロソロ属                 | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       |         |        |  |
| ハギ属                     | 果実   | 6 (2)   |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       | 7       | 11     |  |
| シャジクワク属                 | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 11      | 1       |        |  |
| カタバミ属                   | 果実   | 6       | 2            | 20     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 22 (1)  | 1 (3)   | 1      |  |
| カタバミ属                   | 種子   | 1 (2)   | 1 (1)        |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| トウダケ・グサ属                | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| ノブドク                    | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| スミレ属                    | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         | 3 (1)   |        |  |
| メロン仲間                   | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         | 1 (1)  |  |
| カラスウツリ・カラダガサ属           | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| ヤブジラミ                   | 種子   | 1       |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| ヤコタラオ属                  | 種子   | 4       | 1            |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| キラソウ属                   | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| メハジキ属                   | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| シロネ属                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| シソ属                     | 果実   | 1 (1)   |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1 (2)   | 12 (11) |        |  |
| ナス属                     | 種子   |         |              | 2      |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 3       | 3       | 2      |  |
| メナモニ属                   | 果実   | 2       |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       |         |        |  |
| コロナリ                    | 種子   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| オモギ・ガガ                  | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| メビシ属                    | 果実   | 10 (4)  | 1            | 1 (1)  | 1 (1)     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 4 (1)   |         |        |  |
| メビヒ属                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       |         |        |  |
| エノキ属                    | 化成種子 |         |              | 1      |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| オオムギ                    | 化成種子 |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| オオムギ・ゴムギ                | 化成種子 |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| スグリ属                    | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| カラマツリダ属                 | 果実   | 1       | 3            |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 8 (1)   | 5       | 4      |  |
| ホタルイ属                   | 果実   |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1       |         |        |  |
| 固定不能                    | 化成種子 |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 2 (3)   |         |        |  |
| 子爵属                     | 化成種子 |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| 豆虫                      | 化成種子 |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |
| 1-9+, 10-49++, 50-99+++ |      |         |              |        |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |         |         |        |  |

すかに得られた。

SE078：アカザ属とイネ（糊殻・炭化糊殻）が少量得られた。これ以外の分類群は、産出数が10点以下であった。栽培植物ではイネ（炭化種子）とオオムギ・ゴムギがわずかに得られた。

SE236：イスタデとカタバミ属が少量得られた。これ以外の分類群は、産出数が10点以下であった。栽培植物ではアサとイネ（糊殻・炭化糊殻・炭化種子）がわずかに得られた。

SE271：クロマツが1点得られた。

SE286：同定可能な種実は得られなかった。

SE287：スベリヒュ属とキケマン属、イネ（初穀・炭化穀殻）がやや多く、ウシハコベとイネ（炭化種子）、カヤツリグサ属が少量得られた。

これ以外の分類群は、産出数が10点以下であった。栽培植物ではアサとメロン仲間、ナス、ヒエ、オオムギ、オオムギ-コムギがわずかに得られた。

SE297：ミズ属とギシギシ属、ウシハコベ、アカザ属、キケマン属、イネ（炭化穀殻）が少く得られた。これ以外の分類群は、産出数が10点以下であった。栽培植物ではモモとイネ（炭化種子）、オオムギがわずかに得られた。

SE317：キケマン属がやや多く、ウシハコベとミドリハコベ、アカザ属、タネツケバナ属、カタバミ属、シソ属が少く得られた。これ以外の分類群は産出数10点以下であった。栽培植物ではアサとイネ（初穀・炭化穀殻・炭化種子）がわずかに得られた。

SE325：ヒヨウタン仲間が少く得られた。

SX263：ヒサカキ属が多く、キジムシロ属とシャジクソウ属、イネが少く得られた。これ以外の分類群は、産出数が10点以下であった。栽培植物ではメロン仲間がわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* 葉 マツ科

茶褐色で、側面観は針形、断面形は半円形で、先端は残存していない。2葉が残り、基部は膨らむ。残存長7.0mm、幅1.7mm。完形ならば長さ7~12cmになる。マツ属複維管束亜属にはアカマツとクロマツが含まれる。

(2) クワ属 *Morus* spp. 核 クワ科

赤褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面形は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚くやや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ2.0mm、幅1.4mm。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。長さ26.5mm、幅20.5mm、厚さ15.3mm。

(4) クロガネモチ *Ilex rotunda* Thunb. 核 モチノキ科

明褐色で、側面観が半円形で上下は尖り、横断面は扇形で角がある。脈状隆線が顕著に入る。長さ5.1mm、幅1.6mm。

(5) テシャノキ *Ehretia acuminata* R.Br. var. *obovata* (Lindl.) IM.Johnst. 種子 ムラサキ科

暗褐色で、上側面観は倒卵形、断面は狭扇形。縦方向に浅い脈状隆線がある。下端に着点がある。長さ2.7mm、幅2.6mm。

(6) ガマズミ属 *Viburnum* sp. 核 スイカズラ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は先端がやや尖る卵形。表面には縦方向の1本の隆起がある。長さ6.4mm、幅4.3mm。

| 表2. 原始層から出土した大型植物遺体（未洗浄・現地取り上げ試料、括弧内は復元数） |      |    |       |         |        |
|---|------|----|-------|---------|--------|
| 分類群                                       | 種別   | 時期 | 近世    | 12世紀中頃～ | 12世紀中頃 |
| マツ属                                       | 枝    |    |       |         |        |
| マツ  | 枝    |    | (5)   |         |        |
| ヤナギ属                                      | 葉実   |    | (4)   |         |        |
| ヤマモガ属                                     | 葉実   |    | 3     |         |        |
| タデ属                                       | 葉実   |    | 1     |         |        |
| タデ属                                       | 同化葉実 |    | 1     |         |        |
| アカマツ属                                     | 種子   |    | (2)   |         |        |
| カタバミ属                                     | 種子   |    | (1)   |         |        |
| カタバミ属                                     | 種子   |    | 1     |         |        |
| エノクグサ属                                    | 種子   |    | 3 (1) |         |        |
| メロン属                                      | 種子   |    | (2)   |         |        |
| ヒヨウタン仲間                                   | 種子   |    |       |         | 12     |
| ナス属                                       | 種子   |    |       | 6 (1)   |        |
| ナス属                                       | 種子   |    | 4     |         |        |
| ヒエ  | 同化種子 |    | 1     |         |        |
| イネ  | 同化種子 |    | (1)   |         |        |
| オオムギ                                      | 同化種子 |    | 1     |         |        |
| イネ科                                       | 同化種子 |    | 1     |         |        |
| アカマツ属                                     | 葉実   |    | (1)   |         |        |
| ホタルイ属                                     | 葉実   |    | (1)   |         |        |
| 同定不能                                      | 同化葉実 |    | (4)   |         |        |
| 草木  |      |    | (--)  |         |        |
| 計   |      |    |       |         |        |

(7) アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

明褐色で、上面觀は両凸レンズ形、側面觀は倒卵形で側面に稜がある。下端には突出した大きな梢円形の着点がある。表面には脈状の模様がある。長さ4.5mm、幅3.5mm、厚さ3.5mm。

(8) シャジクソウ属 *Tritolium* sp. 種子 マメ科

赤褐色で、上面觀は梢円形、側面觀は腎形。側面中央に円形の臍がある。微細な網目状隆線がある。長さ1.6mm、幅1.3mm。

(9) トウダイグサ属 *Euphorbia* sp. 種子・炭化種子 トウダイグサ科

黒色で、倒卵形。基部側面に目立つ窪みをもつ。種皮は硬い。種皮は、内側で屈曲する槽状細胞からなる。長さ3.1mm、幅2.4mm。形状がナットウダイやタカトウダイに似ているため、草本植物とした。

(10) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面觀は扁平、側面觀は倒卵形。表面は平滑で、基部は突出せず直線状の隆線となる。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下は雑草メロン型、長さ6.1~8.0mmはマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上はモモルディカメロン型である。今回産出したメロン仲間種子の大きさは長さ7.9mm、幅3.7mmで、マクワウリ・シロウリ型であった。

(11) ヒヨウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子 ウリ科

淡黄褐色で、上面觀は扁平、側面觀は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、先端はW字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が2本走る。壁はややスポンジ質。長さ12.4mm、幅7.8mm。

(12) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

黒褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.7mm、幅1.5mm。

(13) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

淡褐色で、上面觀は長梢円形、側面觀は梢円形。着点は明瞭に窪む。表面には歓状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ2.8mm、幅3.3mm。ナス以外のナス属をナス属とした。

(14) コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm.f.) C.Presl ex Kunth 種子 ミズアオイ科

茶褐色で、細い俵型の狭梢円体。先端に短い突起があり、基部には小さい着点がある。側面には7~9本の縦の隆条が規則的に走る。この隆条間に直行する細い横筋が多数並ぶ。長さ1.0mm、幅0.5mm。

(15) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 炭化種子 イネ科

側面觀が卵形、断面が片凸レンズ形で、厚みは薄くやや扁平である。胚は、長さが全長の2/3程度と長く、幅が広いうちわ型。長さ1.8mm、幅1.4mm。

(16) イヌビエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果・炭化種子 イネ科

有ふ果は赤褐色で、紡錘形。縱方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。長さ1.8mm、幅1.3mm。種子は上面觀が扁平で、側面觀が梢円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。長さ1.9mm、幅1.5mm。有ふ果も種子も、栽培種であるヒエよりやや細長い形状で、野生のイヌビエに近い。

(17) イネ *Oryza sativa* L. 粿殻・炭化稿殻・炭化種子 イネ科

稿殻は赤褐色で、側面觀は長梢円形。縱方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縱方向の顆粒状突起がある。残存長5.8mm、幅3.0mm。種子は上面觀が両凸レンズ形、側面觀は梢円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縱方向の2本の深い溝がある。長さ4.1mm、幅2.6mm。

(18) オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化種子 イネ科

側面觀は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝があるが、溝の両端は欠損している。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面形状は円形となる (Jacomet, 2006)。長さ4.0mm、幅2.0mm、厚さ1.6mm。状態が悪く、側面および断面構造が観察できなかった一群はオオムギーコムギとした。

#### 4. 考察

古代から近代初頭の井戸や溝などの堆積物に含まれる大型植物遺体を検討した結果、1試料を除き、多数の種実が確認できた。以下、時期別に考察を行う。

##### [11世紀後半～12世紀後半]

この時期の大型植物遺体には遺構ごとの差があまりみられないため、一括して考察する。全体的に木本植物が非常に少ない。12世紀中頃～後半のSE236では、落葉高木のエノキやセンダンなどがわずかに得られているが、遺構周辺にはほとんど林分がなく、草地が多かったと考えられる。当時の原遺跡は溝によって区画された官衙的な集落であったと考えられており、林分が少なく草地が多いという状況は考古学的な所見と整合的である。

栽培植物では、イネの穂殻と種子が全遺構から一定量が得られている。穂殻は多くが炭化しており、穂摺後の穂殻を燃やした可能性や、井戸の祭祀に伴って炭化した可能性などが考えられる。井戸内では、水田や湿地に生育するコナギやヘラオモダカ、シロネ属、ヤナギタデなどもわずかに得られており、これらが井戸内に生育していたか可能性もあるが、水田や湿地からもたらされた可能性もある。ただし、調査区内および周辺遺跡では水田跡は確認されていない。

栽培植物のアサもSE007とSE236、SE287、SE317の井戸から得られており、11世紀後半から12世紀後半にかけて利用されていたと考えられる。周辺に畑地は確認されておらず、遺跡の性格を考えると、アサの繊維を取るために保管されていたのではなく、実自体の油などを利用するために保管されていた果实が堆積した可能性がある。ほかの栽培植物では、12世紀中頃～後半のSE287から得られたメロン仲間があり、マクワウリ・シロウリ型であった。畑作植物では、ナスやヒエ、オオムギも得られており、これらが周辺で利用されていたと考えられる。12世紀中頃のSE297から得られたモモとSE325から得られたヒヨウタンは井戸の祭祀に伴って入り込んだ可能性も考えられる。

草本植物では、道ばたや荒れ地に生育するウシハコベなどのハコベ属やアカザ属、スペリヒユ属、カタバミ属などが目立ち、井戸周辺に生育していた雑草類の種実が流れ込んだと推定される。

##### [近世]

溝であるSD202では、常緑樹であるヒサカキ属やクロガネモチがわずかに得られたものの、大型植物遺体はほとんど含まれていなかった。大型植物遺体が少なかった理由としては、水洗量が少なかった可能性や大型植物遺体が埋蔵されにくい堆積環境であった可能性などが考えられる。ただ、少ない中でも栽培植物のメロン仲間とイネがわずかに得られた。SD202の下流側につながる池状遺構であるSX263では、今回検討した遺構の中で木本植物が最も多く検出された。特に常緑低木であるヒサカキ属が多く、常緑高木のクロガネモチもわずかに得られたが、その他のほとんどは落葉樹であった。草本植物では、林縁に生育するミズ属やミズヒキ、キジムシロ属も確認されており、遺構周辺では落葉樹がある程度の林分を占めていたと考えられる。その他の草本植物では、湿地に生育するボン

トクタデやタネツケバナ属がわずかに得られているものの、量は少なく、ほとんどは遺構周辺の乾いた草地に生育していたと考えられるウシハコベなどのハコベ属やシャジクソウ属（いわゆるクローバーの仲間）などであった。栽培植物ではメロン仲間とイネが得られた。SX263 の一部である SE271 からはクロマツの球果が得られており、針葉樹も混じっていたと推定される。SD202 と SX263 の葉を同定したところ、常緑広葉樹のヤブニッケイとタブノキの 2 種のみが得られた（葉の同定の項参照）。したがって、遺跡周辺は照葉樹林が広がる植生で、池状遺構の周囲にのみ常緑樹に混じって落葉樹がある程度広がっていたと推定される。

近世後半～近代初頭である SE286 からは大型植物遺体は得られなかった。有機物が残存しにくい堆積物であったと推定される。

#### 引用文献

- 藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学－総括報告書」：638-654。同朋舎出版。  
Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab. (2006) Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition, IPAS, Basel Univ.

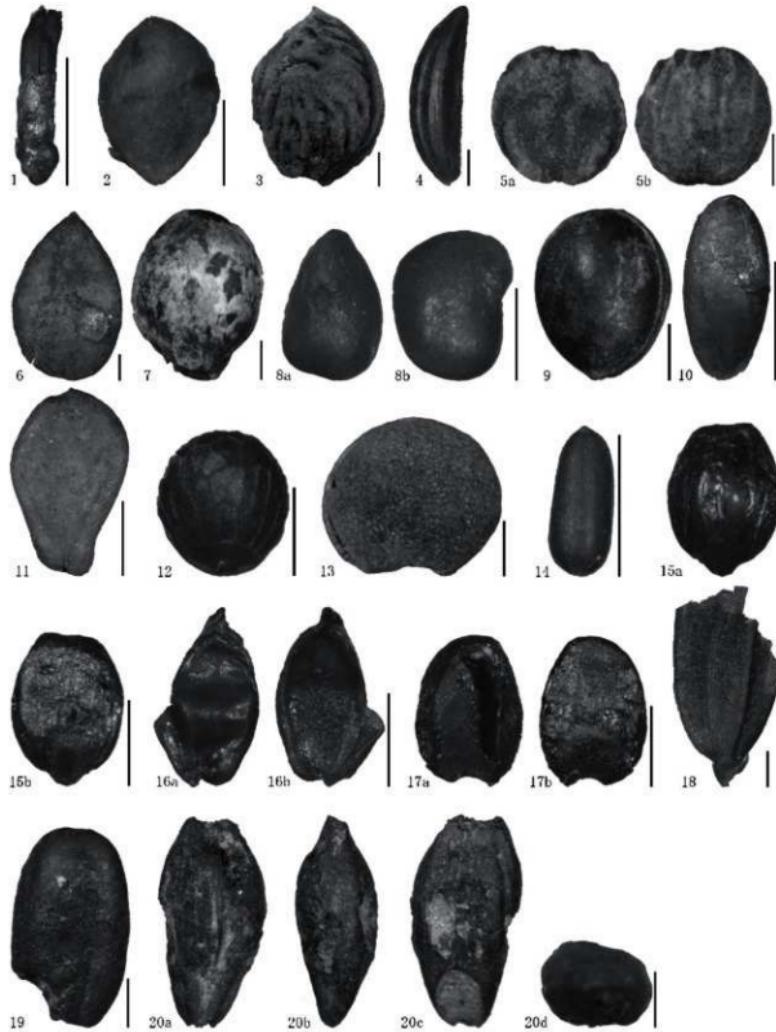


Fig2 原遺跡から出土した大型植物遺体

スケール 1, 3, 10, 11:5mm, 2, 4-9, 12-20:1mm

1. マツ属複維管束亜属葉 (SX263、下層)、2. クワ属核 (SX263、トレンチ底面)、3. モモ核 (SE297、井筒)、
4. クロガネモチ核 (SX263、トレンチ底面)、5. ティシャノキ種子 (SX263、トレンチ底面)、6. ガマズミ属核 (SX263、下層)、7. アサ核 (SE007)、8. シヤジクソウ属種子 (SX263、トレンチ底面)、9. トウダイグサ属種子 (SX263、トレンチ底面)、10. メロン仲間種子 (SE287、井筒内)、11. ヒヨウタン仲間種子 (SE325)、12. シソ属果実 (SE317)、13. ナス種子 (SE287)、14. コナギ種子 (SE287、井筒)、15. ヒエ炭化種子 (SE287)、16. イヌビエ属有ふ果 (SE317)、17. イヌビエ属炭化種子 (SE287、井筒内)、18. イネ初穀 (SE236、井筒下層土)、19. イネ炭化種子 (SE297、井筒)、20. オオムギ炭化種子 (SE297、井筒)

## 8. 原遺跡第28次調査出土葉の同定

佐々木由香・パンダリ・スダルシャン（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

原遺跡の第28次調査では、葉の堆積が良好な近世の溝とそれにつながる池状遺構が検出された。ここでは、出土した葉を同定し、周辺の植生について検討した。なお、同一遺構の堆積物を用いて大型植物遺体の同定も行われている（大型植物遺体の項参照）。同定にあたっては千葉大学大学院園芸学研究科百原新准教授のご教示を得た。

### 2. 試料と方法

試料は、溝であるSD202と池状遺構であるSX263（トレンチ底面）から採取された2試料である。葉が層状に集積しており、状態の良い部分を選んで堆積物ごとブロック状で取り上げられた。試料の時期は、近世と考えられている。

葉は、表面をクリーニング後、1試料あたり50枚を限度に同定可能なものを抽出した。1枚単位で任意に試料番号を付し、透明フィルム中にシーリングした。同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。試料は、福岡市教育委員会に保管されている。

### 3. 結果

同定の結果、広葉樹でクスノキ科のヤブニッケイとタブノキの2分類群が見いだされた（表10、付表11）。

以下、遺構ごとに記載する。

SD202：ヤブニッケイが3枚（7%）とタブノキが43枚（93%）同定された。

SX263：ヤブニッケイが20枚（40%）とタブノキが30枚（60%）同定された。

次に、各分類群の記載を行い、写真をFig3に示す。

(1) ヤブニッケイ *Cinnamomum tenuifolium* (Makino) Sugim. ex H.Hara 葉 クスノキ科

黄褐色で、長楕円形。先端は短く尖る。全縁で3脈が目立つ。2本の支脈は葉の先端まで達せず、肩のあたりの2/3程度の長さで消失する。革質。葉柄は短い。葉には精油細胞がある。長さ75.5mm、幅20.9mm (Fig1)、残存長65.9mm、幅31.0mm (Fig2)、長さ64.6mm、幅24.8mm (Fig3)、残存長49.7mm、幅18.1mm (Fig4)、残存長48.2mm、幅20.5mm (Fig5)。

(2) タブノキ *Machilus thunbergii* Siebold et Zucc. 葉 クスノキ科

黒褐色で、倒卵形状長楕円形。先端は短く尖る。基部はくさび形。革質で、表面に光沢がある。葉柄は長い。3次脈は併行する。葉には精油細胞がある。長さ90.7mm、幅30.8mm (Fig6)、残存長72.8mm、幅41.5mm (Fig7)、残存長71.5mm、幅34.0mm (Fig8)、長さ74.3m、幅22.3mm (Fig9)、長さ50.9mm、幅20.0mm (Fig10)、長さ43.0mm、幅16.3mm (Fig11)。

表10 原遺跡から出土した葉遺体

| 分類群    | 葉  | 時期    |       |
|--------|----|-------|-------|
|        |    | SD202 | SX263 |
| ヤブニッケイ | 3  | 20    |       |
| タブノキ   | 43 | 30    |       |

#### 4. 考察

近世の溝と池状遺構に堆積した葉を同定したところ、常緑広葉樹のヤブニッケイとタブノキの2種のみが得られた。タブノキはシイ属やカシ類とともに照葉樹林を代表する常緑高木である。ヤブニッケイはシイータブノキ林の二次林の構成種として多く見られる常緑高木である。

葉は遺存状態が良く、特に溝であるSD202から採取された葉は全体的に遺存状態が良好であった。そのため、遺構のごく近くには検出された2種の樹木が生育していたと考えられる。ただし、2遺構の堆積物から得られた大型植物遺体を検討したところ、葉遺体はSD202でスギ、SX263でスギとマツ属複雑管束亜属（アカマツかクロマツ）が得られているのみで、今回検討した葉の組成とは全く異なっていた。種実遺体ではヒサカキ属やクロガネモチなどの常緑樹が混じる組成であった。SX263では、タラノキやガマズミ属などの落葉樹が比較的多かった（大型植物遺体の項参照）。以上の結果から、遺跡の周囲には常緑広葉樹林が広がっていたと推定され、池状遺構であるSX263の周囲には常緑樹に混じて落葉広葉樹がある程度生育していたと考えられる。

表11 葉遺体の同定結果一覧

| 試料No. | SD202  | SX263  |
|-------|--------|--------|
| 1     | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 2     | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 3     | タブノキ   | タブノキ   |
| 4     | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 5     | タブノキ   | タブノキ   |
| 6     | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 7     | タブノキ   | タブノキ   |
| 8     | ヤブニッケイ | ヤブニッケイ |
| 9     | タブノキ   | タブノキ   |
| 10    | タブノキ   | タブノキ   |
| 11    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 12    | タブノキ   | タブノキ   |
| 13    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 14    | タブノキ   | タブノキ   |
| 15    | タブノキ   | タブノキ   |
| 16    | タブノキ   | タブノキ   |
| 17    | ヤブニッケイ | ヤブニッケイ |
| 18    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 19    | タブノキ   | タブノキ   |
| 20    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 21    | タブノキ   | タブノキ   |
| 22    | タブノキ   | ヤブニッケイ |
| 23    | タブノキ   | タブノキ   |
| 24    | タブノキ   | タブノキ   |
| 25    | タブノキ   | タブノキ   |
| 26    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 27    | タブノキ   | タブノキ   |
| 28    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 29    | タブノキ   | タブノキ   |
| 30    | タブノキ   | タブノキ   |
| 31    | タブノキ   | タブノキ   |
| 32    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 33    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 34    | タブノキ   | タブノキ   |
| 35    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 36    | タブノキ   | タブノキ   |
| 37    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 38    | タブノキ   | タブノキ   |
| 39    | タブノキ   | タブノキ   |
| 40    | タブノキ   | タブノキ   |
| 41    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 42    | タブノキ   | タブノキ   |
| 43    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 44    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 45    | タブノキ   | タブノキ   |
| 46    | タブノキ   | タブノキ   |
| 47    | ヤブニッケイ | タブノキ   |
| 48    | タブノキ   | タブノキ   |
| 49    | タブノキ   | タブノキ   |
| 50    | タブノキ   | タブノキ   |



Fig3 原遺跡第28次調査から出土した葉遺体

スケール 1-11:10mm

1. ヤブニッケイ葉 (SD202, No. 26)、2. ヤブニッケイ葉 (SD202, No. 35)、3. ヤブニッケイ葉 (SD202, No. 11)、
4. ヤブニッケイ葉 (SD202, No. 33)、5. ヤブニッケイ葉 (SD202, No. 2) 6. タブノキ葉 (SX263, No. 24)、7. タブノキ葉 (SD202, No. 38)、8. タブノキ葉 (SD202, No. 46)、9. タブノキ葉 (SD202, No. 36)、10. タブノキ葉 (SD202, No. 27)、11. タブノキ葉 (SX263, No. 48)





1.SK010 遺物出土状況（南から）



2.SK010 実掘（東から）



3.SK003（東から）



4.SC080（東から）



5.SE007（北から）



6.SE078 遺物出土状況（西から）



7.SE078 遺物出土状況（東から）



8.SD086（西から）



1 SD086 土層（西から）



2 SD086 土器集中出土（東から）



3 SD144(北から)



4 SD144 土層（西から）



5 II-1 区全貌（東から）



1. 1-2 区全景(東から)



2. SE235 (南西から)



3. SE235 井筒半掘(北から)



4. SE236 (南から)



5. SE236(左)-SE238(右) 北から



1.SE248 (北西から)



2.SE280 (東から)



3.SE317 (東から)



4.SE287-325 (東から)



5.SE287 井筒 (北から)



6.SE287 井筒 (東から)



7.SE287 横木出土状況



8.SE287 木腐出土状況



1 SE31B(南から)



2 SE297(左)-320(右) 西から



3 SD203(西から)



4 SD304(東から)



5 SK072 遺物出土状況(南から)



6 SK244 土層(北から)



7 SK261 土層(北東から)



8 SK282(南から)

## IV. 第30次調査の記録

### 1. 概要

今回報告する30次調査地点（第39図）は遺跡のほぼ中央部に位置し、遺跡内の微地形上では微高地Aの西端に立地する。調査前は駐車場として使用されており、標高約6mの平地であった。隣接する南側では31次調査、西側では9・22・25・27次調査が実施されている。

遺跡の層序は、約80cmの表土下に水田耕作土と考えられる鉄分混じりの灰褐色粘質土、灰黃褐色粘質土が堆積し、その下に黒褐色粘質土の包含層が、調査区の一部分において残存する。さらにその下のシルト層において遺構を検出した。このシルト層は東側では黄褐色シルト層、西側では青灰シルト層を呈する。遺構検出面の標高は5.1m～5.3mで、東側から西側にかけて緩やかに低くなっている。南北方向では、顕著な高低差は見られなかった。

調査はI区とII区にわけて実施した。I区の調査は平成23年11月21日に着手した。廃土置き場の関係から、調査区を東側と西側に分けて調査を実施した。まず調査区の西側部分の表土剥ぎを重機で行い、調査区周辺の整備、調査区内杭設定等の後、28日から遺構検出を開始した。その後、遺構掘削や遺構の実測、周辺測量、遺物の取り上げなどの作業を進め、高所作業車による写真撮影終了後、12月6日に重機で調査区の反転を行い、東側の調査を開始した。西側同様、人力掘削の後、実測等記録保存作業を行い、高所作業車による写真撮影のち、I区の調査を終了した。

II区の調査は、平成24年2月2日に着手した。まず、重機で表土を剥ぎ、調査区周辺の整備、調査区内杭設定等を行った。遺構検出、遺構掘削や記録保存作業の後、ローリングタワーによる写真撮影を行い、3月7日にII区の調査を終了した。I区、II区を合わせた調査実施面積は610m<sup>2</sup>である。



第37図 30次調査区位置図(1/1,000)

## 2. 遺構と遺物

30次調査では、I区において溝（SD）、掘立柱建物跡（SB）を、II区において自然流路（SR）を検出した。そのほか、土坑やピットを多数検出したが、遺構内から出土した遺物は、摩耗した土器小片がほとんどで、時期を特定することは困難である。以下、SD、SB、SRの内容について遺構毎に述べる。遺構番号は、原則として調査時の遺構番号を用いている。

### 1) 溝 (SD025 第38図)

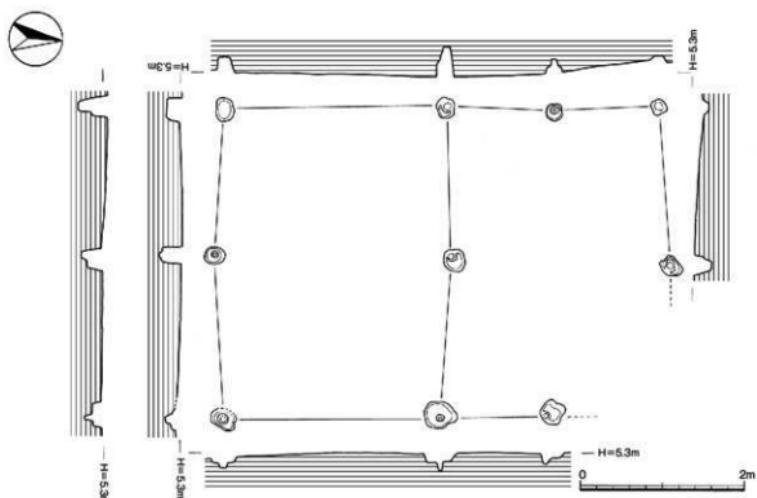
I区調査区西側において、南西から北東方向に向かって延びる溝を1条検出した。さらに調査区の北側・南側にも延びる。幅は35cm~40cm、深さは5cm~15cmで、断面はU字状~逆台形状を呈する。埋土の堆積状況は、やや鉄分混じりの暗褐色粘質土~灰黃粘質土である。水が流れていた形跡は観察できない。溝内の北側部分からは弥生時代の土器小片が数点出土しているが、固化できるものはない。南側に隣接する31次調査においてこの溝の延長（31次調査SD066）が検出されており、さらに南西方向に向かって延びていく状況が確認されている。

### 2) 掘立柱建物跡 (SB070・071)

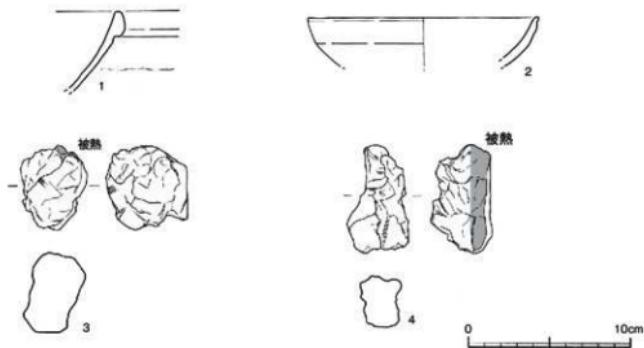
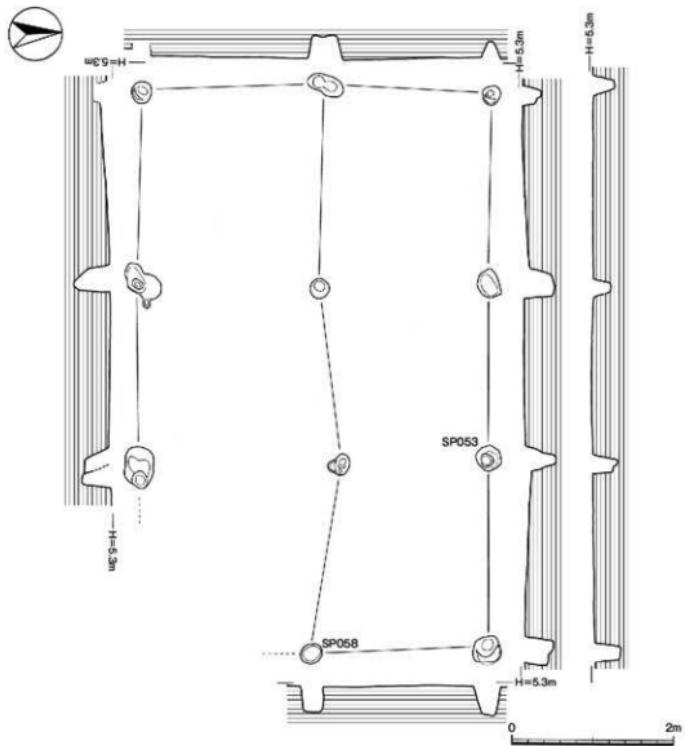
I区では東側でピットが多数検出され、その中央で1棟、またI区とII区の境で1棟の建物跡を復元することができた。

SB070（第39図） 調査区中央で検出された。2×3間で、1間の長さは1.3~2.1m。北東隅は調査区外であったので、ピットの確認はできなかった。ピット内から遺物の出土はない。

SB071（第40図） 調査区東側で検出された。2×3間で、1間の長さは1.8~2.4m。南東隅は調査区外であったので、ピットの確認はできなかった。ピットの埋土は、暗茶褐色粘質土である。



第39図 SB070実測図(1/60)



第40図 SB071実測図(1/60)および出土遺物実測図(1/3)

出土遺物（第40図）SP053からは1・3・4が、SP058からは2が出土した。1は白磁碗IV類の口縁部から胴部である。胴部下部は露胎である。2は土師器椀である。3・4は炉壁の一部であると考えられる。スサ混じりの胎土は淡黄色～浅黄色を呈するが、表面に赤く変色した部分が見られる。

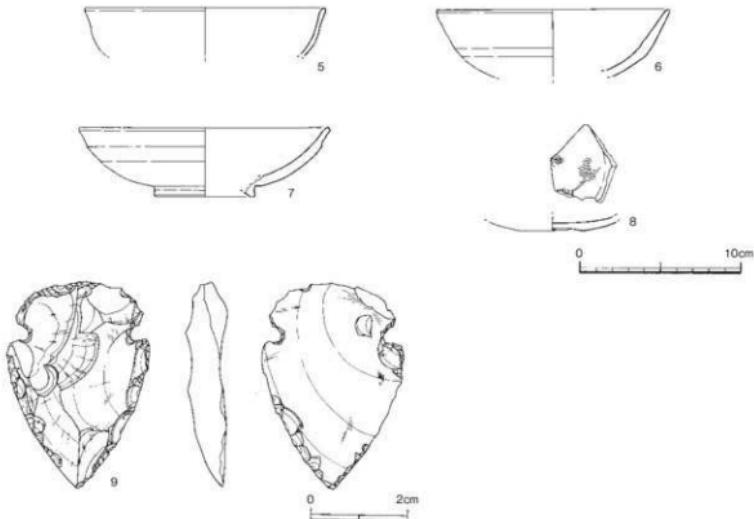
### 3) 自然流路 (SR072～074 第38図)

II区の西側において自然流路と見られる遺構を3条検出した。SR072とSR074はSR073に切られている。SR072の最大幅は約2m、深さは8cm。SR073の最大幅は約3m、深さは10cm。SR074の最大幅は約3m、深さは28cmである。SR073, SR074の下層には粗砂の堆積が確認された。このうち、SR073は弥生時代後期～古墳時代の甕の破片が複数個体出土しているが、古墳時代の遺物は摩耗が少なく、この遺構の時期を示す可能性が高いと考えられる。SR074の粗砂層からは古墳時代前期の土器が出土しているが、SR072は、土器片が数点出土したのみで明確な時期は不明である。

また、この自然流路内および周辺において、動物の足跡の可能性がある小さな凹みを多数検出した。大きさは5～15cm程度で、深さは浅い。円形や楕円形のほかに、蹄状を呈するものも見られる。

### 4) その他の出土遺物 (第41図)

5は土師壺、6・7は土師器椀である。8は同安窯系青磁皿I類である。胴部全面施釉で底部は釉を剥ぎ取っている。内面に柳描きの文様がある。9は縦型の石匙である。表採資料である。石材はにぶい黄橙色を呈する頁岩もしくは粒子の粗いチャートである。刃部は左右とも表裏両面から剥離調整を行っている。左右の抉り部分を横から観察すると、縱方向のすり切り痕が見て取れる（石匙に関しては、吉留秀人氏の御教授による）。



第41図 その他の出土遺物実測図(1/3, 1/1)

### 3. 結語

今回の調査では、縄文時代から近世までの遺物・遺構を検出した。時期を特定することができる遺構は少ないが、これまでの調査成果で周辺に中世の集落が展開していたことがわかつており、本調査区は中世の集落の一部であったと考えられる。また、今回の30次調査地点は、北側に位置する1次調査地点が低地であることや、土地条件図、航空写真、現在の水路の位置等から低地であると推定されていたが、今回の調査で調査区の地形は、微高地の端に位置し、西側は自然流路が形成される低い立地であったことがわかつたことも調査成果のひとつと言えよう。

今回、出土遺物として縦型の石匙（第41図9）を掲載した（右写真）。これまで、原遺跡では、2次・9次・12次・17次・22次・26次・31次において縄文時代草創期～晩期の黒曜石製、サスカイト製の石鎌が出土しているが、当該期の明確な遺構は確認されていない。今回の石器も表探資料であり、調査区内において同時期の遺構は検出されなかった。原遺跡内における今後の調査による縄文時代の遺構の検出を期待したい。



9



1. I区西側全景（東から）



2. I区東側全景（西から）



1. II区全景（東から） 2. I区SDおよびSB071（西から）  
3. I区SB070（北から） 4. I区SD025 土層断面（南から） 5. II区SR周辺（南から）

報告書抄録

| ふりがな                        | はらいせき16   |             |         |                    |   |                           |                                    |
|-----------------------------|---|-------------|---------|--------------------|---|---------------------------|------------------------------------|
| 書名                          | 原遺跡16   |             |         |                    |   |                           |                                    |
| 副書名                         | —第28次・30次調査報告—  |             |         |                    |   |                           |                                    |
| シリーズ名                       | 福岡市埋蔵文化財調査報告書   |             |         |                    |   |                           |                                    |
| シリーズ番号                      | 第1199集  |             |         |                    |   |                           |                                    |
| 編著者名                        | 屋山洋・福薗美由紀   |             |         |                    |   |                           |                                    |
| 編集機関                        | 福岡市教育委員会  |             |         |                    |   |                           |                                    |
| 所在地                         | 〒810-8620 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号  |             |         |                    |   |                           |                                    |
| 発行年月日                       | 2013年3月22日  |             |         |                    |   |                           |                                    |
| ふりがな<br>所収遺跡名               | ふりがな<br>所在地<br>市町村  | コード<br>遺跡番号 | 北緯      | 東経                 | 発掘期間                                    | 発掘面積<br>m <sup>2</sup>    | 発掘原因                               |
| はらいせきだい28じちょうさ<br>原遺跡第28次調査 | ふくおかけんふくおかし<br>福岡県福岡市<br>さわらくはらじょうめいじ<br>早良区原6丁目地内  | 40130       | 20311   | 33° 33' 46"        | 130° 20' 38"                            | 20110920<br>～<br>20120307 | 628 m <sup>2</sup><br>道路拡幅<br>記録保存 |
| はらいせきだい30じちょうさ<br>原遺跡第30次調査 | ふくおかけんふくおかし<br>福岡県福岡市<br>さわらくはらじょうめいじ<br>早良区原7丁目地内  | 40130       | 20311   | 33° 56' 28"        | 130° 34' 16"                            | 20111121<br>～<br>20120307 | 543m <sup>2</sup><br>道路拡幅<br>記録保存  |
| 所収遺跡名                       | 種別  | 主な時代        | 主な遺構    | 主な遺物               | 特記事項                                    |                           |                                    |
| 原遺跡第28次調査                   | 集落  | 弥生時代・中世・近世  | 溝・井戸・土坑 | 弥生土器・貿易陶磁・土師器・近世陶磁 | 11世紀末の東西方向の溝を確認した。拠点集落を回む溝の一部である可能性がある。 |                           |                                    |
| 原遺跡第30次調査                   | 集落  | 弥生時代・中世     | 溝・掘立柱建物 | 弥生土器・土師器・石器        | —                                       |                           |                                    |
| 要約                          | 第28次調査では11世紀末から12世紀にかけての溝と井戸を検出した。貿易陶磁等の遺物が多量に出土し、当該期の拠点集落であった可能性がある。また中世末～近世と思われる池状遺構とそれに伴う石組みを検出した。周辺には兩層敷などの小字があり、中世末から近世の遺構が確認されている。池状遺構はこの種敷に伴う可能性が考えられる。その他に弥生時代初期の土坑を数基検出した。今回の調査で確認できた弥生時代初期の遺構は少なかったが、後世の遺構から遺物が数多く出土しているため、後世に削平されたもののは本来は遺構が密に分布していたものと考えられる。<br>第30次調査においては、調査区を南北方向に走る弥生時代の溝、および中世の掘立柱建物跡2棟、自然流路を検出した。 |             |         |                    |   |                           |                                    |

はらいせき16

## 原遺跡16

—第28次・30次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1199集

2013(平成25)年3月22日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

(092) 711-4667

印刷 会社名 I・WA・MI 株式会社

住所 福岡市博多区博多駅南6-8-30

電話 092-415-2717





